

The Liberal Arts

The Liberal Arts

2004年度基盤研究報告書

日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点 ——将来への提言を含めて——

慶應義塾大学教養研究センター
Keio Research Center for the Liberal Arts

ごあいさつ

将来の慶應を見据えて

教養研究センター所長 横山千晶

教育の目標とあり方は1991年の大学設置基準の大綱化を待たずとも、教育に携わる者が常に論議し続けてきた課題です。ただしその議論の中であらためて「教養教育」の意義が浮上してきたことは、ここ10年余りの大きな時のうねりによるものです。慶應義塾大学において教養研究センターが2002年度に設立されたことも、そのような流れの中に位置づけることができました。

基盤研究は、教養研究センターの活動の中心を担うものです。2003年11月に発足した研究会がテーマとして取り組んできたことのひとつは、「教養教育」という巨大な森の中の1本の木である慶應義塾大学のカリキュラムを、徹底的に見直すことです。「教養教育」の見直しの波の中で、義塾でも各学部がそれぞれのあるべき教養のあり方を模索しつつ、新たな教育への取り組みに励んでいます。もちろんその基盤となっているのは各教員の意識と努力であることはいまでもありません。その一端は、過去6回を数える教養研究センター主催のシンポジウムを通して紹介されてきました。

そのような動きを踏まえ、教養研究センターの基盤研究は、いくつかの目標を設定しました。まず、長年にわたって積み重ねられてきた各学部・各教員の活動を、もう一度慶應義塾本来の教養のあり方の歴史として見直すことです。義塾が目指してきた教養の根を確認することは、さらにその根をしっかりと張りめぐらせていくことにつながるでしょう。第二に挙げられる目標は、各学部・各教員の新たな活動を学部横断的に調査し確認することにより、情報を広く交換しつつ共に議論しあい、あるべき「教養教育」の未来像を塾内外に提言していくことです。情報があふれているこの世の中だからこそ、そのあふれる情報の根幹を自らの活動の中でしっかりと見据えることは、やがて枝葉の成長そのものに還元されて、大きな実を結ぶことでしょう。

基盤研究は教養研究センターの歴史と歩を一にしています。この1本の木の生長が、やがて森の成長そのものにつながっていくことを信じてやみません。そのためには、本報告書を通して、皆様方の忌憚ないご意見とご助言を賜りますことで、より充実した研究へと本研究そのものが成長していく必要があります。どうぞよろしくご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

はじめに

大学設置基準の大綱化(1991年)により大幅なカリキュラム改訂が実施された1993年度からすでに10年余り、今また時代の大きなうねりの中で高等教育理念の転換が提唱され、大学における「教養教育」のさらなる見直し・再建という課題が突きつけられている。

わが国における戦後の「教養教育」(「一般教育」)は、半世紀に及ぶ「専門教育」対「教養教育」という序列階層的な分置から、ここ10年余りの間に、両者の有機的な統合、さらには専門大学院の創設にともなう学士課程全体の再検討や、それに呼応した「教養教育」の重点化・再構築という具合に、大学審議会や中央教育審議会の答申に主導されるかたちで組み替えを迫られているというのが現状である。その背景には、否応のないグローバル化の進行と、少子化をも含めた高等教育の大衆化がある。また、大学入試制度に起因する、高校教育と大学教育間の深い断絶も指摘されている。こうした時代状況の中で、「教養教育」の核をいかに設定し、それを大学教育全体の中でどのように位置づけるのかが問われているのである。大学における「教養教育」は従来から、無規範かつ体系性の欠如した実効性に疑問のある領域と考えられ、社会からも学生からもまた教員サイドからさえも胡乱な見方をされてきたことも否めないが、その一方で、錯綜する多様な世界に自らが対峙して、総合的な視野のもとでそれを読み解き、果敢かつ創造的に思考を深めながら判断力を涵養せしめるという、人間形成を遂げる上での基盤的な役割を少なからず果たしてきたことも事実であろう。近頃では、学士課程全体が「教養教育」ないしは「専門基礎」の領域であるとする議論もあるが、専門・職業・技術教育が、人間形成のための「教養教育」と真っ向から対立するものと断じるのでない限り、4年間の学士課程について、

いかなる理念のもとで具体的な科目配置を行うかに議論は集約されるものと考えられる。

義塾においても、教養研究センターの開設を初めとして、セメスター制の導入拡大にともなうカリキュラムの再検討や、総合教育科目の学部共通化など「教養教育」に関わる議論が活発化しつつある。全塾組織である教養研究センターの使命は、学部学生に教授すべき「教養教育」の理念を追尋し、具体的な科目について絶えず点検を行うとともに、時代の要請に応じた新機軸の導入に関わる提言を積極的に行うことにある。センターでは、2002年9月の開所記念シンポジウム「教養教育をめぐる」を皮切りに、これまで「外国語」「自然科学系」「身体知」「古典」「少人数セミナー形式授業」など、核となる総合教育科目をめぐる討論会を開催して、論議を活性化する試みを積み重ねるとともに、2003年11月、基盤研究の一環として、総合教育科目の現状と問題点を明らかにすべく新たに研究会を発足させ、義塾の「教養教育」に関する広範で抜本的な踏査・研究活動を開始した。その主たる目的は、全塾的な「教養教育」さらには学士課程教育のあり方について、その理念・目的などの討議を深め、これを基礎として、義塾の擁する豊富な人材を十全に活かす、一貫した教養教育カリキュラムの実現可能なモデルを構築し、さらに、そのモデルを実施に移す際に必要とされる制度や組織の変更・改組などについて検討することにある。現状の把握こそは議論の原点であるとの考えから、その第一歩として、日吉設置学部共通総合教育科目の2001年度～2003年度について(2004年度についても視野に入れているがデータとしては用いなかった)、多項目(設置科目数、授業形態、担当者数とその内訳、総履修者数、テーマ分類)に渡る総合的な現状調査を実施して、各分野・各科目

ごとのデータをフィッシュ化、分析作業に着手した。これは、羽田功前教養研究センター所長が座長となり、慶應義塾の教員が多くメンバーとして参画した、文部科学省委託研究の成果『教養教育グランド・デザイン——新たな知の創造』をふまえて、それを義塾の大学教育に生かそうとする試みでもある。

研究会は、センター所長、副所長を含む22名をメンバーとして、月1回の定例研究会を持って調査作業や討議を行うかたわら、各科目の担当者を招き、当該科目の理念や教養教育全体における位置づけなどについて忌憚のない意見交換を行うとともに、学生をも含めた公開のシンポジウム等を開催して議論を重ねてきた。その結果、まず第一に気付かされたことがらは、日吉における「教養教育」が壮大な規模で展開されながらも、その全体像を鳥瞰し点検を行う機構も人員も、学事センター以外はほとんど存在しないという現実である。日吉の学部共通総合教育科目(外国語、体育実技科目は除く、また少人数セミナー形式授業を含む)は平均で約390コマ(通年換算)設置されており、それらを専任・非常勤を含めた300名以上の教員が担当しているのである。確かに、日吉主任を含めた日吉学習指導連絡会議や各部門会(人文、社会、自然)があり、学部間の学則上の問題点や緩やかな科目調整などが行われている状

況はあるが、総合教育科目カリキュラム全体を検討するものにはなっていない。日吉の総合教育科目が、ここ数年の間に急速に全学部共通化にシフトして学生の選択肢が拡がってきた今こそ、その豊饒さをより生かすために、総合教育科目全体の組み立てや配置を、学部や部門を越えて検討・点検できる場を設ける好機が到来しているように思われる。時代は極めて急速に推移しつつあり、学生はいつまでも学生であるわけにはいかない。教育は時間との戦いでもある。不易を見極めながら、流れの先端からも目をそらさずに教育を見つめ実践するとは、いかにも困難な仕事であるが、そこでは現状を的確に捉え、問題点を即座に提示して、それに対する処方を示すことが求められている。

今回の報告書は、日吉設置学部共通総合教育科目の全体像を提示することで、科目構成やカリキュラム決定のプロセスに関わる問題点が少しでも明らかになって、「教養教育」についての論議が義塾全体にひろがることを目的としている。今後の展望に関するわれわれのささやかな提言が、より豊かな教育の実現に寄与できれば望外のことといわねばならない。また、データの扱いなど、細心の注意を払ったつもりではあるが、思わぬ過誤を犯しているかもしれない。ご指摘いただければ幸いである。

目 次

ごあいさつ 1

はじめに 2

第Ⅰ部 研究報告編7

第1章 総論——日吉設置学部共通総合教育科目の全体像9

1. 科目フィッシュの作成方法, データの見方 9
科目フィッシュの作成方法と目的／データの見方／科目設置母体と調整のパターンについて／
科目の配列について
2. 科目設置状況の概要データ（数値データおよびグラフ） 11
3. 各科目へのコメント 20
文化知／社会知／科学知／複合知／その他の科目

第2章 授業内容, 分野・系列の問題33

1. 3系列均等履修方式と系列外科目の扱い 33
2. バランスが取れた科目配置 33
3. 学生に必要なもの 34
4. 授業レベルの問題 34
5. GPA 問題 34

第3章 授業の形態35

1. 講義型 35
2. 実験を伴う講義型 35
3. 少人数セミナー型 36
4. オムニバス型 36
5. その他 37

第4章 少人数セミナー38

1. 概況 38
2. 各学部の少人数セミナー 40
 - A. 文学部
 - B. 経済学部
 - C. 法学部
 - D. 商学部
 - E. 理工学部
 - F. 教養研究センター

第5章 科目設置の決定機関48

1. 科目設置の決定機関について（学部設置科目の場合） 48

科目設置の手順／責任体制について／部門会議，日吉主任会議，学習指導連絡会議

2. 問題点と提言 50

3. 体育研究所設置科目 51

保健体育科目設置の経緯／科目設置の決定機関と設置の手順／問題点と今後の展開

第6章 履修登録の諸問題53

1. 「講義要綱」と「履修案内」の作成について 53

2. 履修者数と「楽勝科目」の問題 54

履修登録制限についての問題／単位取得の難易度の問題

3. 学生の需要と授業の関係 55

第Ⅱ部 資料編57

活動日誌 142

研究会メンバー 144

第 I 部

研究報告編

第 1 章

総論

——日吉設置学部共通総合教育科目の全体像

1. 科目フィッシュの作成方法、データの見方

1) 科目フィッシュの作成方法と目的

本研究は、日吉キャンパスに設置されている学部共通総合教育科目（以下「総合教育科目」と略す）について多角的にデータ収集し、分析するということに主眼を置いている。こうした大規模な調査研究は、学部レベルにおいても、また学事センター・サイドにおいても不可能であったし、行われてこなかった。

今回の調査で対象とした科目は、①慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて、学部共通科目として複数学部にもたがるかたちで設置されている総合教育科目等の科目、および②日吉キャンパスの学生を主に対象とする少人数セミナーである。これらの科目を 2001～2003 年度に関して、設置の形態、設置母体、学部併設の状況、調整の状況、担当者、履修者数、設置コマ数等についてのデータを多角的に収集し、フィッシュ（データ・カード）のかたちでデータベースを作成した。フィッシュの全容は、本報告書の「第Ⅱ部 資料編」に提示している（57 ページ以降を参照）。

これらのフィッシュの作成にあたっては、①日吉学事センターに蓄積された設置科目や履修者に関する電子データ、および②学事センターが作成する『講義要綱 慶應義塾大学（日吉）』の当該年度のもの（すなわち 2001～2003 年度のものを）を主な資料とした。これに加え、必要に応じて科目設置の担当者にヒアリングを行う

ことによってデータを補完している。

本章では、このデータをもとに各科目の特徴分析を行うことにする。まずここで、データの見方、注目点について述べたあと、次節「2. データ」（11～32 ページ）において、文化知、社会知、科学知、複合知（この分類については後述）ごとの科目の設置状況のデータの概要を示したあと、「3. 各科目へのコメント」で、各科目の特徴について具体的に、コメントを加えていく。

慶應義塾大学日吉キャンパスにおける総合教育科目の設置形態の特徴は、各科目を設置する学部（設置母体）とその履修学生との関係が複雑に入り組んでいることである。たとえば、文学部が提供する科目は、必ずしも文学部学生だけのために設置されているわけではない。すなわち、各学部はそれぞれ独自に種々の科目を提供しているが、多くの総合教育科目は、設置母体が他学部学生の履修を認めるという判断をした後（「併設可」、または「オープン」）、設置母体以外の学部がそのカリキュラムの中に取り込むという手続きが行われる（すなわち併設）。多くの科目は、その設置母体以外の学部が「併設」をかけることによって、あらゆる学部の学生が履修できるようにしている。

各学部はそれぞれ理念を掲げてカリキュラムを作成しているが、総合教育科目は、ほとんどの部分「併設」科目に頼っているというのが現状である。そのため各学部カリキュラム全体の理念や目標と、各科目の目標設定や具体的運営方法とが有機的な関係でつながっては

いない。

各学部がそれぞれに多彩な総合教育科目を設置していること自体は、大学の教養資源を豊かなものにすると同時に、幅広く深い教養を学生が身につけるために、学生にとって非常に有益である。しかしながら、共通科目として学生が選択し、卒業要件単位とするからには、各科目間で内容、レベル、評価方法などに関してある程度の調整を行ってしかるべきであろう。しかし、現状では、上記の事項に加えて、時間数の設定や担当者の決定に関することなどを、各学部間で調整する機関は、正式には存在していない¹⁾。そのため、これらの調整のやり方は、現在のところ各科目によってさまざまである。

したがって、本章では各科目のこのようなさまざまな設置のあり方の現状を明らかにすることを目的として、学部共通総合教育科目の全体像を数値データで示すとともに、この数値からは必ずしも読み取れない科目設置の方法等についてコメントを各科目に関して記していく。

2) データの見方

次節2. ではまず、科目設置状況の概要を数値データで示している。ここでは、科目を文化知、社会知、科学知、複合知に分けて、2001～2003年度の設置コマ数、総履修者数、全教員数に対する専任教員数の割合をグラフで示している。

3. 以降に掲げる分析的コメントは、次の4点から成っている。すなわち、

- ①科目設置母体と調整
- ②専任担当率、日吉・三田担当者の割合
- ③テーマ分布
- ④調査期間における変化の特徴

である。

まずはじめに、科目名と設置コマ数を記す。なお、設置コマ数は2003年度のもので、半期科目が含まれる場合は、通年換算で記す。たとえば春学期半期1コマは、0.5となる。また、2003年度のコマ数が、専任教員の留学等、特殊事情による変則的なものであったと判断される場合には、標準と考えられる年度のコマ数を

記している。

「①科目設置母体と調整」の項目では、設置母体学部と設置コマ数を、通年、半期で区別して記す。このデータも2003年度のものである。さらに、設置母体が複数である場合、設置コマ数、内容等、担当者決定等の調整が、どの機関でどのように行われているかについてここに記している。

「②専任担当率、日吉・三田担当者の割合」の項目では、担当者人数のうち専任教員が占める割合を示す。これは担当者の人数の割合であり、授業担当コマ数の割合ではない。また、専任教員の所属地区の割合もここに示す。

「③テーマ分布」では、授業で扱うテーマ・内容の分布・概要の特徴を短く記している。各授業の具体的なテーマに関しては、本書「第Ⅱ部資料編」のフィッシュに細目が記されているので、参照していただきたい。

「④年度ごとの変化」では、調査期間における変化の特徴を記す。本章は2003年度を主たる対象にしているが、2003年度の設置コマ数が特殊事情により例外的なものであった場合はその旨を記す。

3) 科目設置母体と調整のパターンについて

科目の設置に関しては、現在のところ次のパターンがある。

- a) 専ら単一の学部によって複数コマ設置され、調整が学部の当該部会で行われている科目（たとえば、哲学、地域研究、法学など）
- b) 同一名称の授業が、複数の学部によって設置されているが、調整が日吉所属の担当教員が学部横断で構成する「教室」で行われている科目（物理学、生物学等自然科学系の科目、心理学など）
- c) 同一名称の授業が、複数の学部によって設置され、調整が科目関連の専攻をもつ学部の当該部会とそうでない学部所属の専任教員が協議しつつ緩やかに調整を行っている科目（たとえば、論理学、美術など）
- d) 同一名称の授業が、複数の学部によって設置されているが、学部間の調整がほとんど行われてい

ない科目(文学, 歴史, 近代思想史など)

- e) 同一名称の授業が, 複数の学部によって設置され, 調整が日吉所属の専任教員が単独で行っているもの(ジェンダー論, 地理学など)
- f) 単一の学部が1コマのみ開設している科目(宗教学, 現代思想論など)
- g) 諸研究所が設置する科目(とくに体育研究所の設置科目)

このように科目設置母体と学部間調整のパターンは, 非常にさまざまである。さらには, 以上のパターンに完全に分類することができず, いくつかのパターンの組み合わせによって設置されている科目もいくつか存在する。これらのパターンは, 何らかの原則によって決定されているということは, まったくない。これらは, 科目設置の歴史的経緯によると考えられ, また専任教員の所属学部構成にも左右されている。

4) 科目の配列について

日吉キャンパスの学部共通科目に関しては, 正式な分類や配列の原則は確立されていない。それは, 各科目の設置母体がさまざまであり, また各学部のカリキュラムの中でさまざまな分類や位置づけがされるため, 分類が困難だからである。そのため, 学生向けの履修案内では科目が五十音順で記されている。これは第6章でも指摘するとおり改善が必要である(53ページを参照)。

ここでは, 科目設置傾向の全体像をより把握しやすくするために, 科目を以下のように分類して提示することとした。まず全体を, 1. 文化知, 2. 社会知, 3. 科学知, およびそれらの複数領域にまたがる 4. 複合知の4カテゴリーに分類する²⁾。そのうえで, 1. 文化知は, 「思想・言語系」「芸術・文学系」「歴史・地域系」に, 2. 社会知は, 「法律・政治系」「社会・経済系」, 3. 科学知は, 「物理・化学系」「生命・心理系」「技術・環境系」「数理・

情報系」に下位分類する(分類の全体は20ページの一覧を参照)。

もちろん, さまざまな知は, さまざまな方法で他の領域と複雑に繋がっているため, これによって重要な関連性をもつ複数分野が別々のカテゴリーに押し込められてしまっているという弊害はあるだろう。この分類は, あくまでも便宜上のものである。便宜上の分類であっても, 慶應義塾大学における科目設置のおおよその傾向がより把握しやすくなると考える。

なお, 科目名が異なっても非常に関連が深く内容的にも重なる領域の授業と考えられる場合には, 本報告書の作成者の判断によって, いくつかの科目をひとつとして扱っている。たとえば, 地学と地球科学概論は地学系としてまとめているなどである。

2. 科目設置状況の概要データ (数値データおよびグラフ)

以下に掲げるのは, 慶應義塾大学日吉キャンパスにおける学部共通科目に関して, 設置コマ数, 総履修者数, 専任教員の割合の推移を示したものである。数値データは「第Ⅱ部資料編」のデータであり, それらのデータの見方は, 58ページを参照のこと。

このデータは, 総履修者数に関しては, 履修登録を行ったものの数を対象にしており, 実際にどの程度の割合の学生が実際に授業に参加し, 単位を取得したかはわからない。また, 同一名称の科目であってもその内部において種々の内容を提供するものもあれば, 比較的狭い領域の内容が科目名そのものになっている場合もあるので, 単純な数値比較は困難である。この数値は, 全体を概観するためには有益であると考えるが, その評価に関してはこの数値には表れないさまざまなファクターを十分に考慮して行う必要があることをここで指摘しておきたい。

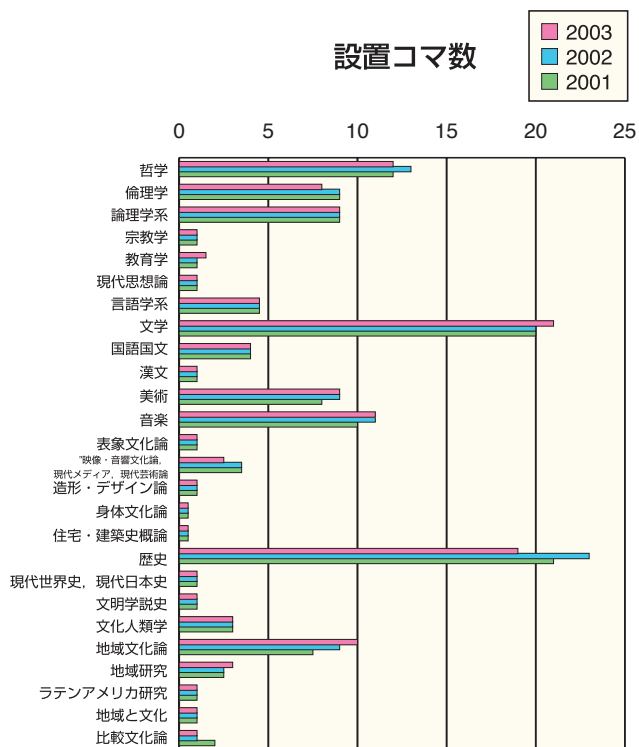
1) この問題に関しては, 「5. 科目設置の決定機関」(48ページ)で詳述する。

2) この分類は, 教養教育研究会報告書『教養教育グランド・デザイン, 新たな知の創造 ― 高等教育における教養教育モデル』, 横浜, 2002年。(http://www.keio-up.co.jp/edu/la/full.pdf 閲覧日: 2005年2月14日)に示された分類に基づく。

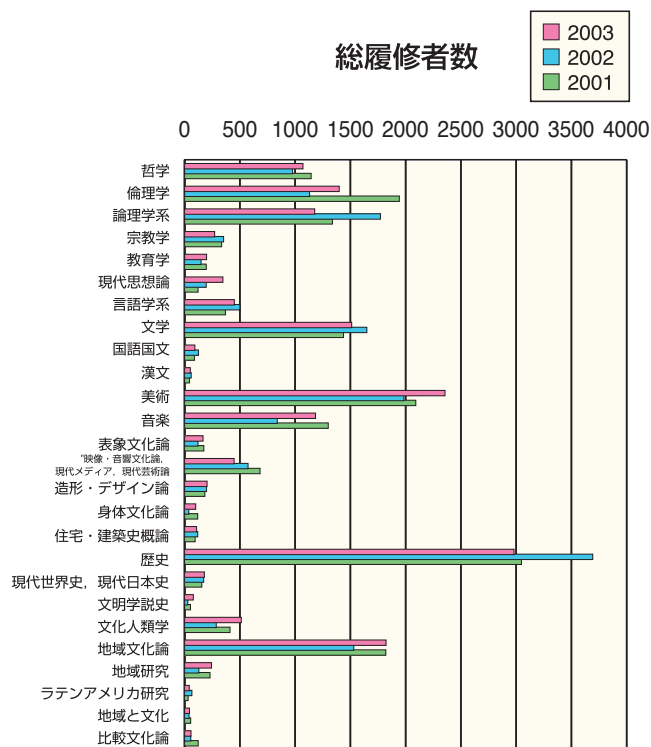
「文化知」関連各科目のコマ数，履修者数，専任担当割合

	設置科目数	内半期科目数	設置コマ数	内半期コマ数	講義型	参加型	講義と実習	オムニバス	専任 (有期含む)	非常勤 (客員を含む)	総履修者数	履修者数 /設置コマ数	設置コマ数 /設置科目数	半期コマ数 /設置コマ数	講義型 /全形態	専任 /全教員
哲学2003	12	0	12	0	10	0	2	0	3	10	1071	89	1.0	0.0%	83.3%	23.1%
哲学2002	11	0	13	0	10	0	1	0	3	8	977	75	1.2	0.0%	90.9%	27.3%
哲学2001	8	0	12	0	7	0	1	0	2	6	1145	95	1.5	0.0%	87.5%	25.0%
倫理学2003	4	0	8	0	2	0	2	0	1	3	1399	175	2.0	0.0%	50.0%	25.0%
倫理学2002	5	0	9	0	3	0	2	0	2	3	1131	126	1.8	0.0%	60.0%	40.0%
倫理学2001	6	0	9	0	5	0	1	0	2	3	1943	216	1.5	0.0%	83.3%	40.0%
論理学系2003	7	1	9	1	8	0	0	0	2	4	1177.5	131	1.3	11.1%	100.0%	33.3%
論理学系2002	7	1	9	1	8	0	0	0	2	4	1772	197	1.3	11.1%	100.0%	33.3%
論理学系2001	7	1	9	1	8	0	0	0	1	4	1337.5	149	1.3	11.1%	100.0%	20.0%
宗教学2003	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	272	272	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
宗教学2002	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	353	353	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
宗教学2001	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	335	335	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
教育学2003	1	0	1	0	1	0	0	0	4	0	199	199	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
教育学2002	1	0	1	0	1	0	0	0	4	0	149	149	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
教育学2001	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0	196	196	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
現代思想論2003	1	1	1.5	1.5	2	0	0	0	1	1	346.5	231	1.5	100.0%	100.0%	50.0%
現代思想論2002	0.5	0.5	1	1	1	0	0	0	0	1	196	196	2.0	100.0%	100.0%	0.0%
現代思想論2001	0.5	0.5	1	1	1	0	0	0	0	1	122	122	2.0	100.0%	100.0%	0.0%
言語学系2003	4.5	3.5	4.5	3.5	6	0	2	0	5	0	450	100	1.0	77.8%	75.0%	100.0%
言語学系2002	4.5	3.5	4.5	3.5	6	0	2	0	5	0	500	111	1.0	77.8%	75.0%	100.0%
言語学系2001	4.5	3.5	4.5	3.5	6	0	2	0	5	0	369.5	82	1.0	77.8%	75.0%	100.0%
文学2003	20	0	21	0	19	1	0	0	17	4	1512	72	1.1	0.0%	95.0%	81.0%
文学2002	19	0	20	0	19	0	0	0	15	3	1649	82	1.1	0.0%	100.0%	83.3%
文学2001	19	0	20	0	19	0	0	0	16	3	1438	72	1.1	0.0%	100.0%	84.2%
国語国文2003	4	0	4	0	4	0	0	0	2	1	93	23	1.0	0.0%	100.0%	66.7%
国語国文2002	4	0	4	0	4	0	0	0	2	1	125	31	1.0	0.0%	100.0%	66.7%
国語国文2001	4	0	4	0	4	0	0	0	2	1	89	22	1.0	0.0%	100.0%	66.7%
漢文2003	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	52	52	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
漢文2002	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	60	60	1.0	0.0%	0.0%	0.0%
漢文2001	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	44	44	1.0	0.0%	0.0%	0.0%
美術2003	6	0	9	0	6	0	0	0	2	4	2356	262	1.5	0.0%	100.0%	33.3%
美術2002	6	0	9	0	6	0	0	0	2	4	1984	220	1.5	0.0%	100.0%	33.3%
美術2001	5	0	8	0	5	0	0	0	2	3	2092	262	1.6	0.0%	100.0%	40.0%
音楽2003	11	3	11	3	11	2	1	0	2	7	1184.5	108	1.0	27.3%	78.6%	22.2%
音楽2002	11	3	11	3	11	2	1	0	4	5	838.5	76	1.0	27.3%	78.6%	44.4%
音楽2001	10	3	10	3	10	2	1	0	4	4	1300	130	1.0	30.0%	76.9%	50.0%
表象文化論2003	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1	167	167	1.0	0.0%	100.0%	75.0%
表象文化論2002	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1	121	121	1.0	0.0%	100.0%	75.0%
表象文化論2001	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1	174	174	1.0	0.0%	100.0%	75.0%
映像・音響文化論， 現代メディア，現代芸術論2003	2.5	2.5	2.5	2.5	5	0	0	0	2	3	448	179	1.0	100.0%	100.0%	40.0%
映像・音響文化論， 現代メディア，現代芸術論2002	3.5	3.5	3.5	3.5	7	0	0	0	3	3	574	164	1.0	100.0%	100.0%	50.0%
映像・音響文化論， 現代メディア，現代芸術論2001	3.5	3.5	3.5	3.5	7	0	0	0	3	3	683	195	1.0	100.0%	100.0%	50.0%
造形・デザイン論2003	1	1	1	1	2	0	0	0	0	2	203.5	204	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
造形・デザイン論2002	1	1	1	1	2	0	0	0	0	2	198.5	199	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
造形・デザイン論2001	1	1	1	1	2	0	0	0	0	2	183.5	184	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
身体文化論2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	1	0	0	1	100.5	201	1.0	100.0%	0.0%	0.0%
身体文化論2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	0	1	38	76	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
身体文化論2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	0	1	118.5	237	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
住宅・建築史概論2003	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	108.5	217	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
住宅・建築史概論2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	119	238	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
住宅・建築史概論2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	95.5	191	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
歴史2003	17	0	19	0	17	0	0	0	6	9	2981	157	1.1	0.0%	100.0%	40.0%
歴史2002	19	0	23	0	19	0	0	0	6	10	3693	161	1.2	0.0%	100.0%	37.5%
歴史2001	17	0	21	0	17	0	0	0	7	9	3048	145	1.2	0.0%	100.0%	43.8%
現代世界史，現代日本史2003	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	179	179	1.0	100.0%	100.0%	50.0%
現代世界史，現代日本史2002	1	1	1	1	2	0	0	0	0	2	172.5	173	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
現代世界史，現代日本史2001	1	1	1	1	2	0	0	0	0	2	155.5	156	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
文明学説史2003	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	79	79	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
文明学説史2002	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	29	29	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
文明学説史2001	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	53	53	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
文化人類学2003	3	2	3	2	5	0	0	0	1	3	513	171	1.0	66.7%	100.0%	25.0%
文化人類学2002	3	1	3	1	4	0	0	0	1	2	286.5	96	1.0	33.3%	100.0%	33.3%
文化人類学2001	3	2	3	2	5	0	0	0	2	1	411	137	1.0	66.7%	100.0%	66.7%
地域文化論2003	10	10	10	10	20	0	0	0	11	3	1823	182	1.0	100.0%	100.0%	78.6%
地域文化論2002	9	9	9	9	18	0	0	0	10	3	1531	170	1.0	100.0%	100.0%	76.9%
地域文化論2001	7.5	7.5	7.5	7.5	15	0	0	0	7	4	1820.5	243	1.0	100.0%	100.0%	63.6%
地域研究2003	3	3	3	3	2	1	0	0	3	0	243.5	81	1.0	100.0%	66.7%	100.0%
地域研究2002	2.5	2.5	2.5	2.5	2	1	0	0	3	0	129	52	1.0	100.0%	66.7%	100.0%
地域研究2001	2.5	2.5	2.5	2.5	2	1	0	0	3	0	230	92	1.0	100.0%	66.7%	100.0%
ラテンアメリカ研究2003	1	0	1	0	0	0	0	1	8	0	42	42	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
ラテンアメリカ研究2002	1	0	1	0	0	0	0	1	7	0	66	66	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
ラテンアメリカ研究2001	1	0	1	0	0	0	0	1	7	0	32	32	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
地域と文化2003	1	0	1	0	1	0	0	1	6	0	44	44	1.0	0.0%	50.0%	100.0%
地域と文化2002	1	0	1	0	1	0	0	1	6	0	40	40	1.0	0.0%	50.0%	100.0%
地域と文化2001	1	0	1	0	1	0	0	1	6	0	55	55	1.0	0.0%	50.0%	100.0%
比較文化論2003	1	0	1	0	0	0	0	1	2	2	58	58	1.0	0.0%	0.0%	50.0%
比較文化論2002	1	0	1	0	0	0	0	1	4	1	56	56	1.0	0.0%	0.0%	80.0%
比較文化論2001	2	1	2	1	0	0	0	2	4	1	123.5	62	1.0	50.0%	0.0%	80.0%

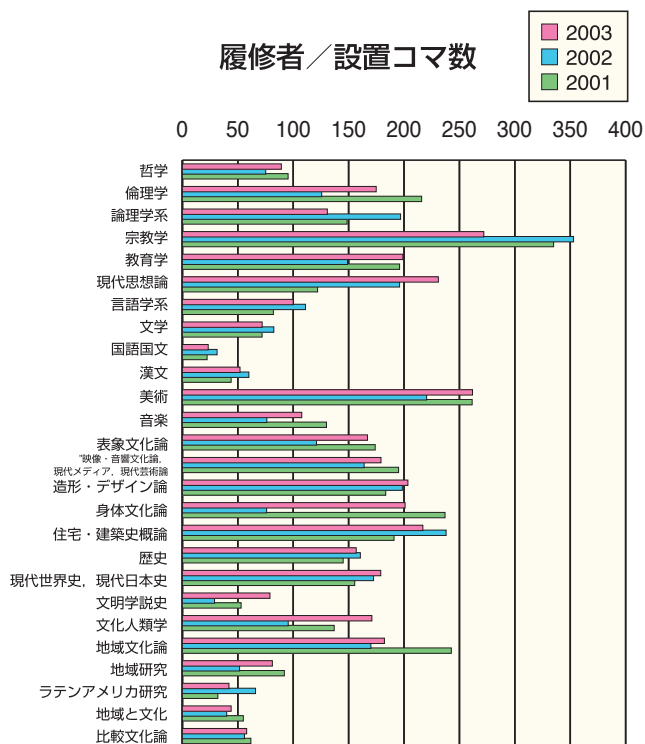
設置コマ数



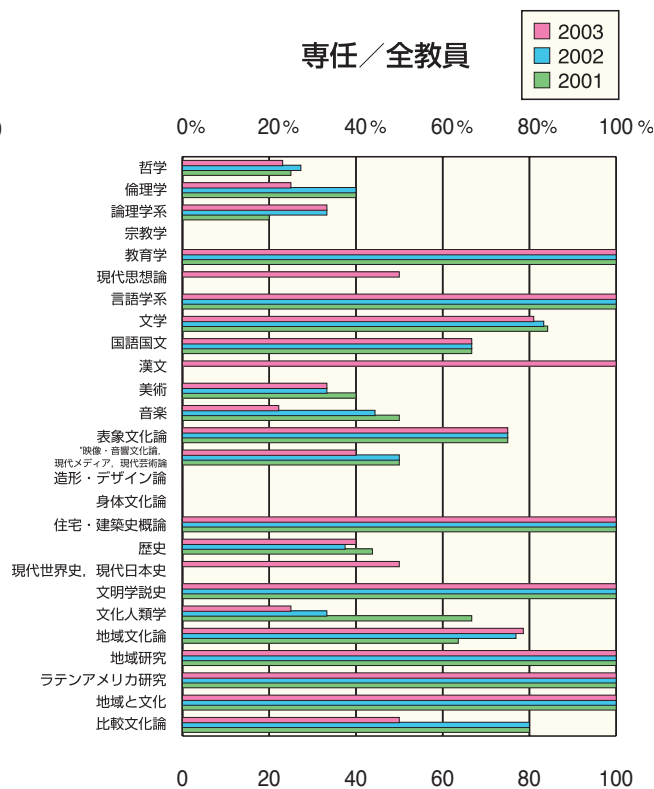
総履修者数



履修者／設置コマ数



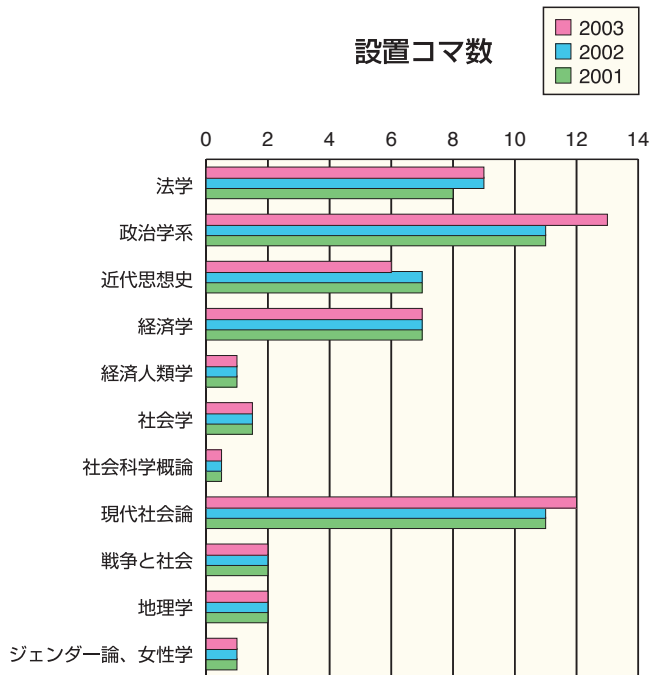
専任／全教員



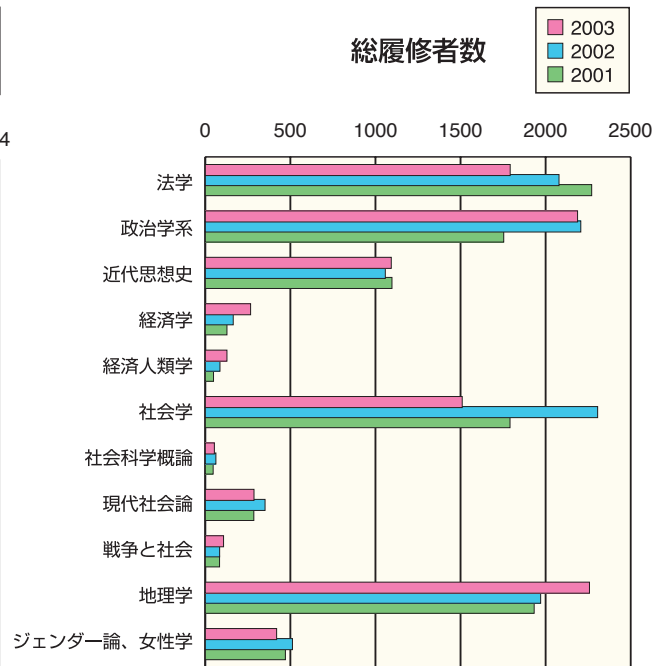
「社会知」関連各科目のコマ数，履修者数，専任担当割合

	設置科目数	内半期科目数	設置コマ数	内半期コマ数	講義型	参加型	講義と実習	オムニバス	専任 (有期含む)	非常勤 (客員を含む)	総履修者数	履修者数 /設置コマ数	設置コマ数 /設置科目数	半期コマ数 /設置コマ数	講義型 /全形態	専任 /全教員
法学2003	9	0	9	0	9	0	0	0	2	7	1792	199	1.0	0.0%	100.0%	22.2%
法学2002	9	0	9	0	9	0	0	0	2	7	2079	231	1.0	0.0%	100.0%	22.2%
法学2001	8	0	8	0	8	0	0	0	1	7	2271	284	1.0	0.0%	100.0%	12.5%
政治学系2003	13	1	13	1	14	0	0	0	5	9	2188	168	1.0	7.7%	100.0%	35.7%
政治学系2002	11	1	11	1	11	1	0	0	4	8	2207	201	1.0	9.1%	91.7%	33.3%
政治学系2001	11	1	11	1	11	1	0	0	5	7	1754	159	1.0	9.1%	91.7%	41.7%
経済学2003	2	0	2	0	2	0	0	0	0	2	266	133	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
経済学2002	2	0	2	0	2	0	0	0	0	2	164	82	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
経済学2001	2	0	2	0	2	0	0	0	0	2	127	64	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
経済人類学2003	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	127	127	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
経済人類学2002	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	86	86	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
経済人類学2001	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	48	48	1.0	0.0%	100.0%	0.0%
近代思想史2003	5	0	6	0	5	0	0	0	2	3	1093	182	1.2	0.0%	100.0%	40.0%
近代思想史2002	6	0	7	0	6	0	0	0	3	3	1058	151	1.2	0.0%	100.0%	50.0%
近代思想史2001	6	0	7	0	6	0	0	0	3	3	1097	157	1.2	0.0%	100.0%	50.0%
社会学2003	5	0	7	0	5	0	0	0	1	4	1510	216	1.4	0.0%	100.0%	20.0%
社会学2002	5	0	7	0	5	0	0	0	1	4	2306	329	1.4	0.0%	100.0%	20.0%
社会学2001	5	0	7	0	5	0	0	0	1	4	1791	256	1.4	0.0%	100.0%	20.0%
社会科学概論2003	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	53	53	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
社会科学概論2002	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	62	62	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
社会科学概論2001	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	46	46	1.0	0.0%	100.0%	100.0%
現代社会論2003	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	0	3	286	191	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
現代社会論2002	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	0	3	351	234	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
現代社会論2001	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	0	3	285	190	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
戦争と社会2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	7	107	214	1.0	100.0%	0.0%	41.7%
戦争と社会2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	5	84	168	1.0	100.0%	0.0%	50.0%
戦争と社会2001	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	5	83.5	167	1.0	100.0%	0.0%	50.0%
地理学2003	7	0	12	0	7	0	0	0	2	3	2258	188	1.7	0.0%	100.0%	40.0%
地理学2002	7	0	11	0	7	0	0	0	2	3	1971	179	1.6	0.0%	100.0%	40.0%
地理学2001	7	0	11	0	7	0	0	0	2	3	1933	176	1.6	0.0%	100.0%	40.0%
ジェンダー論，女性学2003	2	2	2	2	1	1	0	0	3	1	419	210	1.0	100.0%	50.0%	75.0%
ジェンダー論，女性学2002	2	2	2	2	1	1	0	0	3	1	512	256	1.0	100.0%	50.0%	75.0%
ジェンダー論，女性学2001	2	2	2	2	1	1	0	0	3	1	470.5	235	1.0	100.0%	50.0%	75.0%

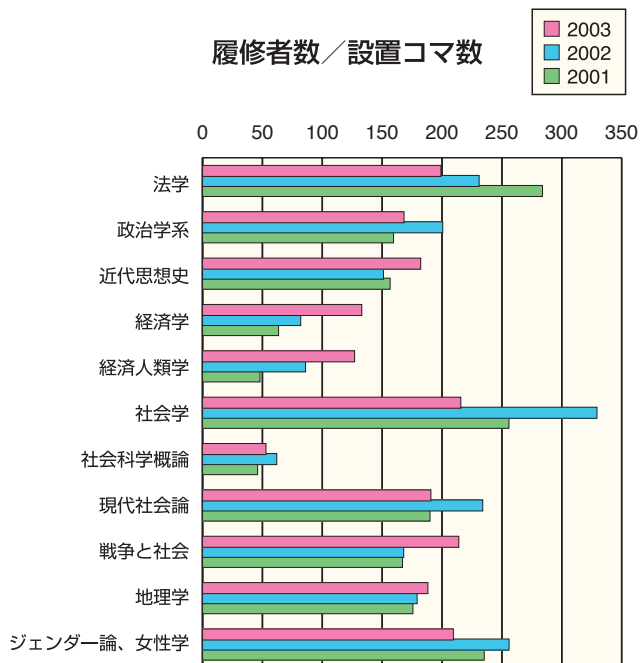
設置コマ数



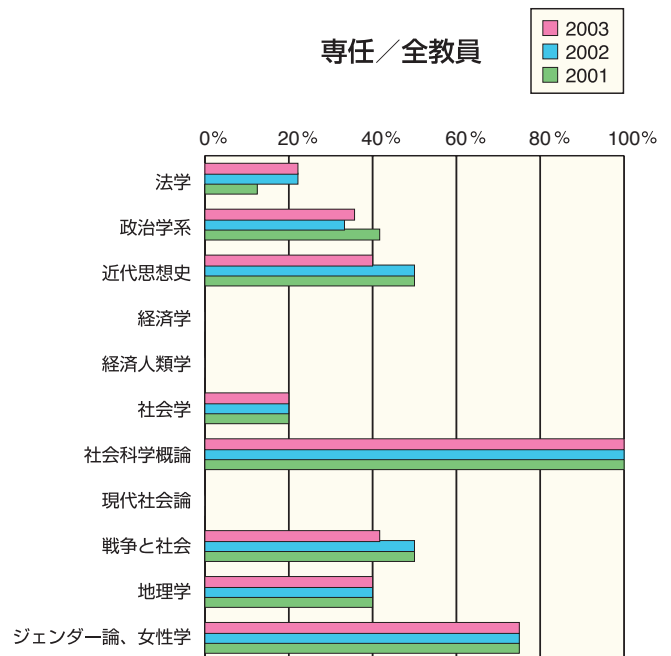
総履修者数



履修者数／設置コマ数



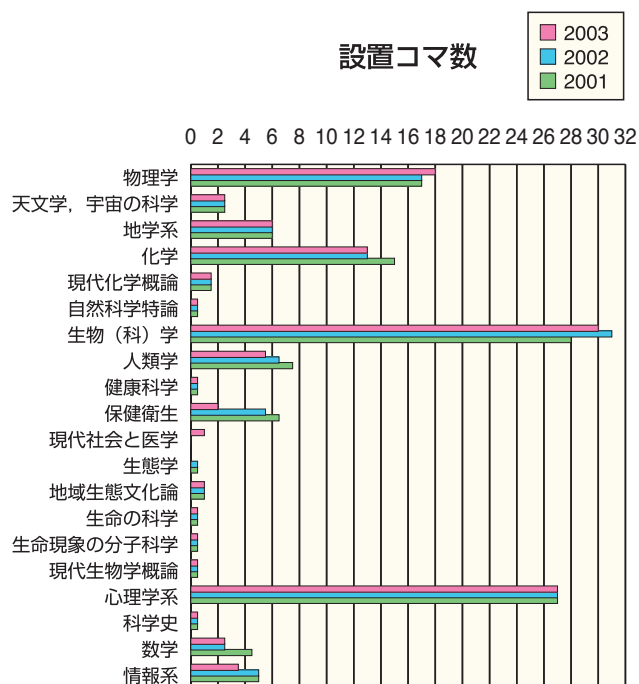
専任／全教員



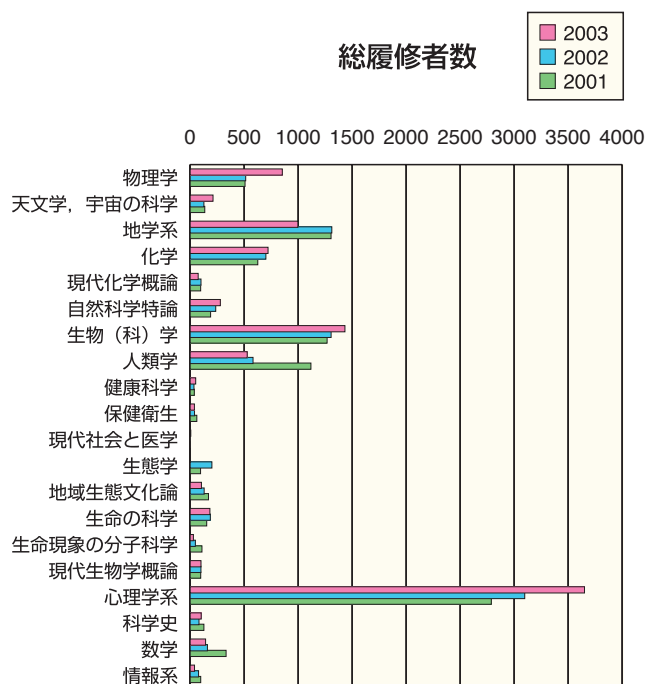
「科学知」関連各科目のコマ数，履修者数，専任担当割合

	設置科目数	内半期科目数	設置コマ数	内半期コマ数	講義型	参加型	講義と実習	オムニバス	専任 (有期含む)	非常勤 (客員を含む)	総履修者数	履修者数 /設置コマ数	設置コマ数	半期コマ数	講義型 /全形態	専任 /全教員
物理学2003	6	0	18	0	0	0	6	0	6	0	853	47	3.0	0.0%	0.0%	100.0%
物理学2002	7	0	17	0	0	0	7	0	5	2	514	30	2.4	0.0%	0.0%	71.4%
物理学2001	7	0	17	0	0	0	7	0	5	2	508	30	2.4	0.0%	0.0%	71.4%
天文学 宇宙の科学2003	1.5	0.5	2.5	0.5	2	0	0	0	2	0	211.5	85	1.7	20.0%	100.0%	100.0%
天文学 宇宙の科学2002	1.5	0.5	2.5	0.5	2	0	0	0	2	0	127	51	1.7	20.0%	100.0%	100.0%
天文学 宇宙の科学2001	1.5	0.5	2.5	0.5	2	0	0	0	2	0	135	54	1.7	20.0%	100.0%	100.0%
地学系2003	5	1	6	1	5	1	0	0	2	2	997	166	1.2	16.7%	83.3%	50.0%
地学系2002	5	1	6	1	5	1	0	0	2	2	1311.5	219	1.2	16.7%	83.3%	50.0%
地学系2001	5	1	6	1	5	1	0	0	2	2	1304.5	217	1.2	16.7%	83.3%	50.0%
化学2003	4	0	13	0	0	0	4	0	4	0	721	55	3.3	0.0%	0.0%	100.0%
化学2002	4	0	13	0	0	0	4	0	4	0	701	54	3.3	0.0%	0.0%	100.0%
化学2001	5	0	15	0	0	0	5	0	5	0	626	42	3.0	0.0%	0.0%	100.0%
現代化学概論2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	12	0	74	148	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
現代化学概論2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	12	0	100	200	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
現代化学概論2001	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	10	0	97	194	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
自然科学特論2003	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	3	0	279	186	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
自然科学特論2002	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	1	1	236.5	158	1.0	100.0%	100.0%	50.0%
自然科学特論2001	1.5	1.5	1.5	1.5	3	0	0	0	1	2	189	126	1.0	100.0%	100.0%	33.3%
生物 (科) 学2003	13	0	30	0	0	0	13	0	9	4	1433	48	2.3	0.0%	0.0%	69.2%
生物 (科) 学2002	12	0	31	0	0	0	12	0	10	4	1305	42	2.6	0.0%	0.0%	71.4%
生物 (科) 学2001	11	0	28	0	0	0	11	0	9	2	1268	45	2.5	0.0%	0.0%	81.8%
人類学2003	2.5	0.5	5.5	0.5	3	0	0	0	1	2	528	96	2.2	9.1%	100.0%	33.3%
人類学2002	3.5	0.5	6.5	0.5	3	0	0	1	3	4	582	90	1.9	7.7%	75.0%	42.9%
人類学2001	3.5	0.5	7.5	0.5	3	0	0	1	3	4	1118	149	2.1	6.7%	75.0%	42.9%
健康科学2003	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	0	2	51	102	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
健康科学2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	0	2	35	70	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
健康科学2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	0	2	38	76	1.0	100.0%	100.0%	0.0%
保健衛生2003	1.5	1.5	2	2	3	0	0	0	2	0	39	20	1.3	100.0%	100.0%	100.0%
保健衛生2002	5	5	5.5	5.5	10	0	0	0	6	0	40	7	1.1	100.0%	100.0%	100.0%
保健衛生2001	5.5	5.5	6.5	6.5	11	0	0	0	7	0	61.5	9	1.2	100.0%	100.0%	100.0%
現代社会と医学2003	1	1	1	1	0	0	0	2	1	0	5.5	6	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
生態学2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	201	402	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
生態学2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	96	192	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
地域生態文化論2003	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	104	104	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
地域生態文化論2002	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	129.5	130	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
地域生態文化論2001	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	169.5	170	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
生命の科学2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	3	182.5	365	1.0	100.0%	0.0%	62.5%
生命の科学2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	3	186.5	373	1.0	100.0%	0.0%	62.5%
生命の科学2001	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	5	3	153	306	1.0	100.0%	0.0%	62.5%
生命現象の分子科学2003	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	29.5	59	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
生命現象の分子科学2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	48	96	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
生命現象の分子科学2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	109	218	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
現代生物学概論2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	13	0	100	200	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
現代生物学概論2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	13	0	99.5	199	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
現代生物学概論2001	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	13	0	97.5	195	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
心理学系2003	13	4	27	9	12	0	5	0	6	6	3651.5	135	2.1	33.3%	70.6%	50.0%
心理学系2002	13	4	27	9	12	0	5	0	5	6	3098	115	2.1	33.3%	70.6%	45.5%
心理学系2001	13	4	27	9	13	0	4	0	6	4	2788.5	103	2.1	33.3%	76.5%	60.0%
科学史2003	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	102	204	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
科学史2002	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	81.5	163	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
科学史2001	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0	0	0	1	0	127	254	1.0	100.0%	100.0%	100.0%
数学2003	1.5	0.5	2.5	0.5	2	0	0	0	1	1	142.5	57	1.7	20.0%	100.0%	50.0%
数学2002	1.5	0.5	2.5	0.5	2	0	0	0	1	1	159.5	64	1.7	20.0%	100.0%	50.0%
数学2001	3.5	2.5	4.5	2.5	2	4	0	0	1	2	332.5	74	1.3	55.6%	33.3%	33.3%
情報系2003	2.5	0.5	3.5	0.5	0	3	0	0	2	2	40	11	1.4	14.3%	0.0%	50.0%
情報系2002	3	1	5	1	0	4	0	0	3	3	77.5	16	1.7	20.0%	0.0%	50.0%
情報系2001	3	1	5	1	0	4	0	0	3	3	97.5	20	1.7	20.0%	0.0%	50.0%

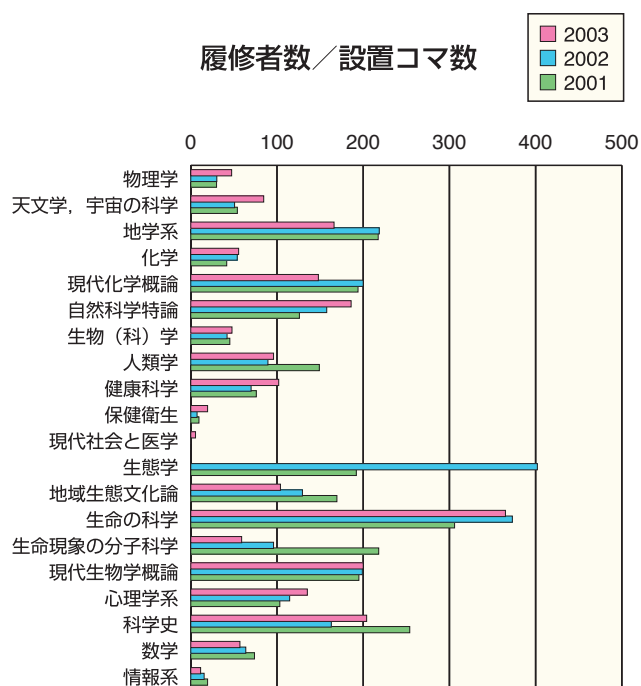
設置コマ数



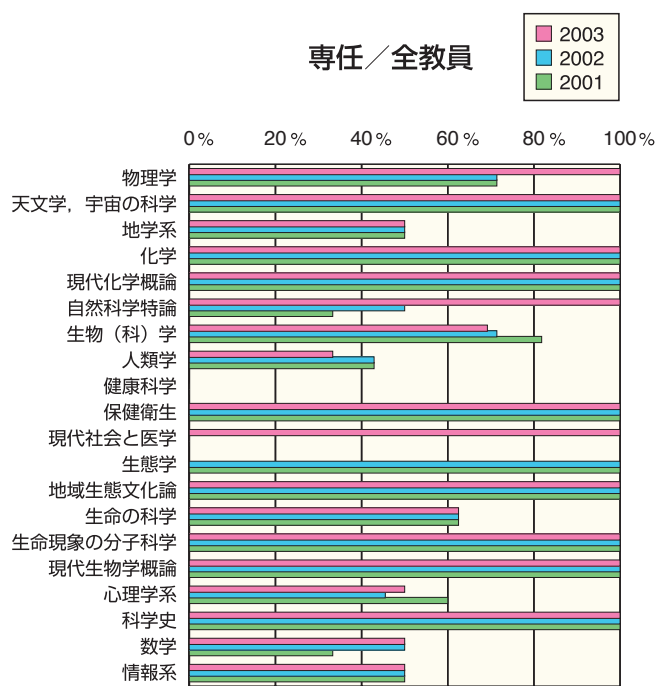
総履修者数



履修者数／設置コマ数



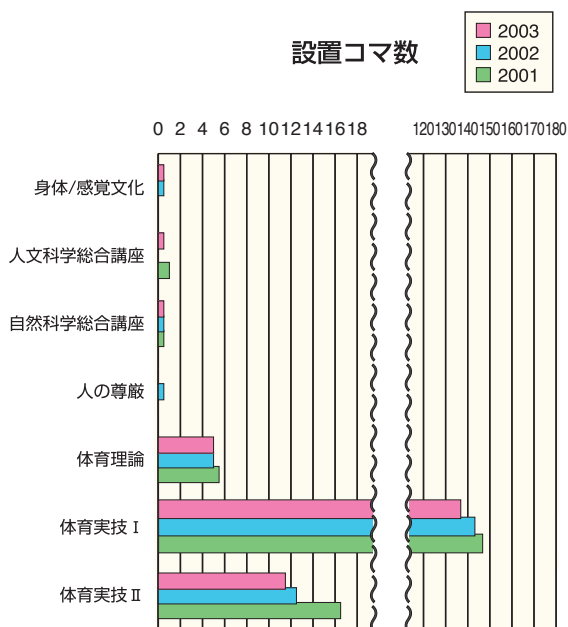
専任／全教員



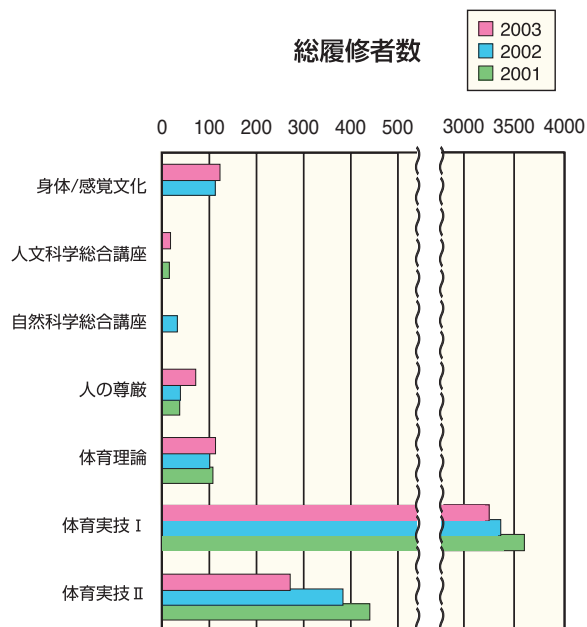
「複合知」および「その他の科目」関連各科目のコマ数、履修者数、専任担当割合

	設置科目数	内半期科目数	設置コマ数	内半期コマ数	講義型	参加型	講義と実習	オムニバス	専任 (有期含む)	非常勤 (客員を含む)	総履修者数	履修者数 /設置コマ数	設置コマ数 /設置科目数	半期コマ数 /設置科目数	講義型 /全形態	専任 /全教員
身体/感覚文化2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	6	0	122.5	245	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
身体/感覚文化2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	3	0	112.5	225	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
人文科学総合講座2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	3	0	17.5	35	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
人文科学総合講座2001	1	1	1	1	0	0	0	2	9	4	15	15	1.0	100.0%	0.0%	69.2%
自然科学総合講座2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	3	0	32	64	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
人の尊厳2003	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	4	8	71	142	1.0	100.0%	0.0%	33.3%
人の尊厳2002	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	4	2	38.5	77	1.0	100.0%	0.0%	66.7%
人の尊厳2001	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	1	4	8	37	74	1.0	100.0%	0.0%	33.3%
体育理論2003	5	5	5	5	2	0	3	2	13	1	113	23	1.0	100.0%	28.6%	92.9%
体育理論2002	5	5	5	5	2	0	3	2	12	1	100.5	20	1.0	100.0%	28.6%	92.3%
体育理論2001	5	5	5.5	5.5	3	0	2	1	12	1	107.5	20	1.1	100.0%	50.0%	92.3%
体育実技Ⅰ2003	15.5	15.5	137	137	0	138	0	0	21	16	3251.5	24	8.8	100.0%	0.0%	56.8%
体育実技Ⅰ2002	15	15	143.5	143.5	0	144	0	0	21	30	3366.5	23	9.6	100.0%	0.0%	41.2%
体育実技Ⅰ2001	15	15	147	147	0	138	0	0	20	28	3601	24	9.8	100.0%	0.0%	41.7%
体育実技Ⅱ2003	11.5	11.5	11.5	11.5	0	23	0	0	2	21	271.5	24	1.0	100.0%	0.0%	8.7%
体育実技Ⅱ2002	12.5	12.5	12.5	12.5	0	25	0	0	2	23	383.5	31	1.0	100.0%	0.0%	8.0%
体育実技Ⅱ2001	16.5	16.5	16.5	16.5	0	33	0	0	2	31	440.5	27	1.0	100.0%	0.0%	6.1%

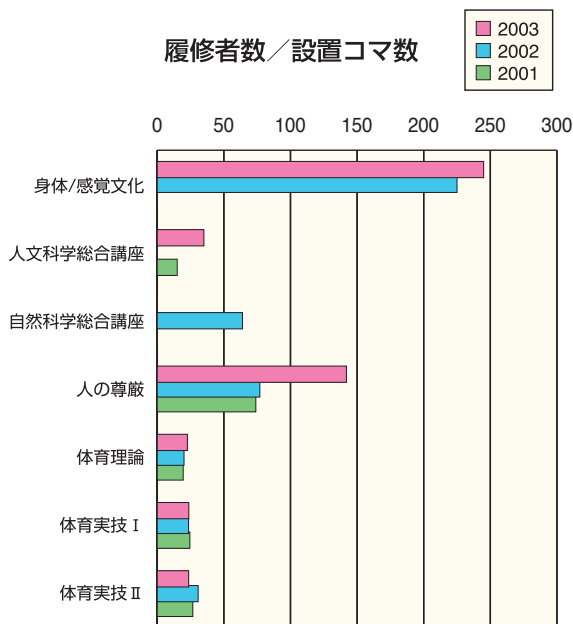
設置コマ数



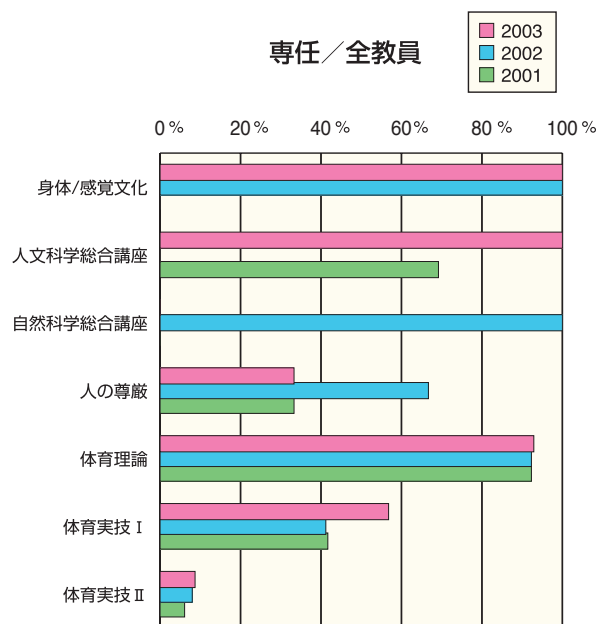
総履修者数



履修者数/設置コマ数



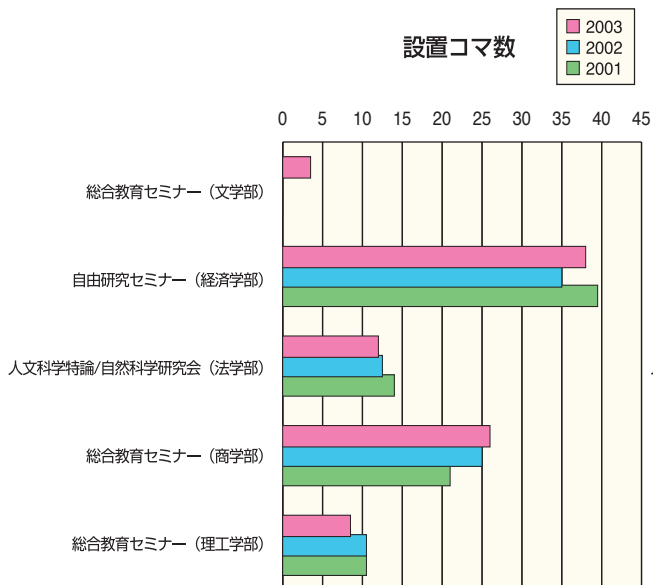
専任/全教員



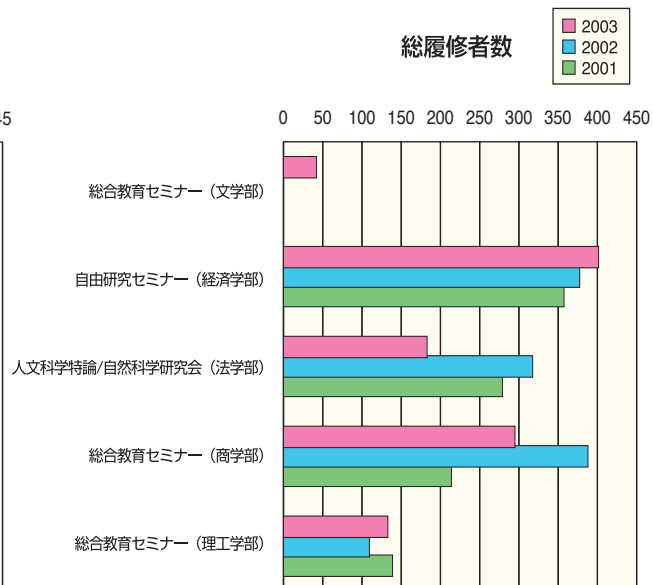
「少人数セミナー形式授業」関連各科目のコマ数、履修者数、専任担当割合

	設置科目数	内半期科目数	設置コマ数	内半期コマ数	講義型	参加型	講義と実習	オムニバス	専任 (有期含む)	非常勤 (客員を含む)	総履修者数	履修者数 /設置コマ数	設置コマ数 /設置科目数	半期コマ数 /設置コマ数	講義型 /全形態	専任 /全教員
文学部2003	3.5	3.5	3.5	3.5	0	7	0	0	7	0	42	12	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
経済学部2003	38	1	38	1	0	39	0	0	39	0	401.5	11	1.0	2.6%	0.0%	100.0%
経済学部2002	35	1	35	1	0	36	0	0	36	0	377.5	11	1.0	2.9%	0.0%	100.0%
経済学部2001	39.5	1.5	39.5	1.5	0	41	0	0	41	0	357.5	9	1.0	3.8%	0.0%	100.0%
法学部2003	12	12	12	12	0	12	0	0	14	0	183	15	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
法学部2002	12.5	12.5	12.5	12.5	0	12.5	0	0	14	0	317.5	25	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
法学部2001	14	14	14	14	0	14	0	0	13	0	279	20	1.0	100.0%	0.0%	100.0%
商学部2003	26	0	26	0	0	26	0	0	26	0	295	11	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
商学部2002	25	0	25	0	0	25	0	0	25	0	388	16	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
商学部2001	21	0	21	0	0	21	0	0	21	0	214	10	1.0	0.0%	0.0%	100.0%
理工学部2003	8.5	8.5	8.5	8.5	0	8.5	0	0	11	3	133	16	1.0	100.0%	0.0%	78.6%
理工学部2002	10.5	10.5	10.5	10.5	0	10.5	0	0	13	5	109.5	10	1.0	100.0%	0.0%	72.2%
理工学部2001	10.5	10.5	10.5	10.5	0	10.5	0	0	15	3	139	13	1.0	100.0%	0.0%	83.3%

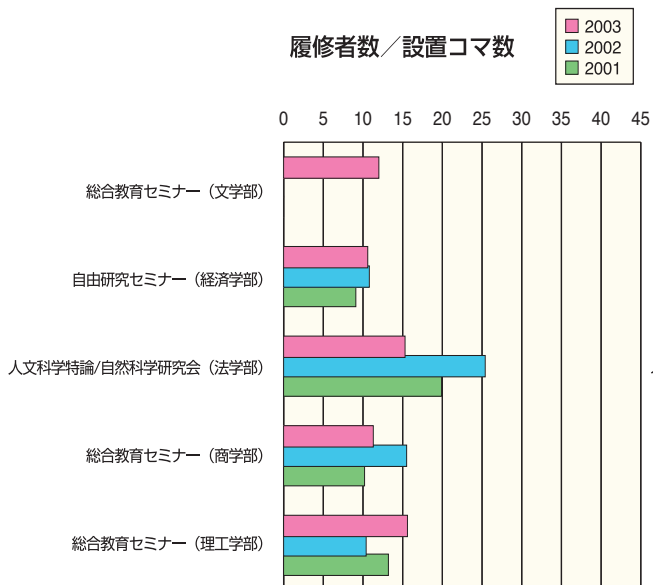
設置コマ数



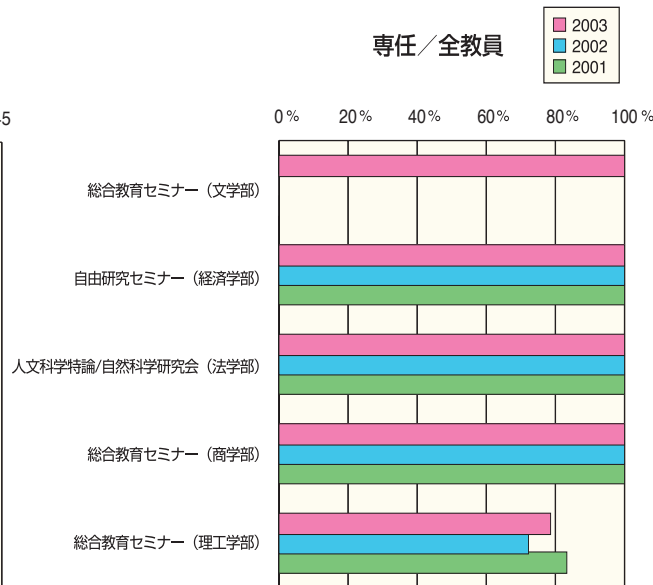
総履修者数



履修者数／設置コマ数



専任／全教員



3. 各科目へのコメント³⁾

ここではまず、下記に本書で行う科目分類の試みを提示した後、各科目にコメントを加えていく(なお、表中のカッコ内の数字は該当コメントの掲載ページを示す)。

1. 文化知

思想・言語系 (21)

哲学
倫理学
論理学系
宗教学
教育学
現代思想論
言語学系

芸術・文学系 (22)

文学
国語国文
漢文
美術
音楽
表象文化論
映像・音響文化論
現代メディア論
現代芸術論
造形・デザイン論
身体文化論
住宅・建築史概論

歴史・地域系 (24)

歴史
現代世界史・現代日本史
文明学説史
文化人類学
地域文化論
地域研究
ラテンアメリカ研究
地域と文化
比較文化論

2. 社会知

法律・政治系 (26)

法学
政治学系
近代思想史

社会・経済系 (26)

経済学
経済人類学
社会学
社会科学概論
現代社会論
戦争と社会
地理学
ジェンダー論, 女性学

3. 科学知

物理・化学系 (28)

物理学
天文学・宇宙の科学
地学系
化学
現代化学概論
自然科学特論

生命・心理系 (28)

生物(科)学
人類学
健康科学
保健衛生
現代社会と医学
生態学
地域生態文化論
生命の科学
生命現象の分子科学
現代生物学概論
心理学系

技術・環境系 (30)

科学史

数理・情報系 (31)

数学
情報系

4. 複合知 (31)

身体／感覚文化
人文科学総合講座
自然科学総合講座
人の尊厳
体育理論

*その他の科目 (32)

体育実技

1. 文化知

思想・言語系

■哲学(設置コマ数 12)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年12)。
- ・調整は文学部の哲学専攻における専攻会議で一元的に行っている。

②専任担当率, 日吉・三田担当者の割合

- ・専任者の担当者の率は3割弱(非常勤が7割強)。
- ・専任者は, 文学部および言語文化研究所所属。
- ・専任者2～3名が日吉設置科目を担当し, 日吉・三田の所属関係なく, ローテーションを組んでいる。
- ・非常勤は2年ごとに交代。

③テーマ分布

- ・現代哲学と哲学史の個別テーマを, バランスを考慮して配置。ただし, 全体を見通す概論や通史はない。
- ・ほとんどが西洋哲学関係の科目から構成。
- ・東洋系の哲学が極めて少ない。イスラム思想史は, 2003年度から言語文化研究所専任者担当で設置した。(ただし, インド哲学と中国哲学に関する総合教育科目は設置されていない。)

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■倫理学(設置コマ数 8)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年6)と商学部(通年2)。
- ・文学部倫理学専攻と商学部倫理学担当(日吉所属)が協議して, 科目設置を調整。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・文学部は通常, 三田の倫理学専攻専任が1コマ担当し, 他を非常勤が担当。商学部は日吉所属専任者が担当。
- ・2002年度は4割を専任者が担当(2003年度は専任者が留学)。

③テーマ分布

- ・倫理の基礎と応用倫理学のバランスをとっている。

- ・広領域を扱う科目とかなり特殊な内容を扱う科目から選択できるようになっている。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■論理学系(論理学, 論理学序論・本論)(設置コマ数9)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年5)と理工学部(通年3, 半期2)。
- ・文学部哲学専攻と理工学部論理学担当者が協議して科目設置を調整(2003年度まで)。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・非常勤の担当率が高い(理工学部日吉専任者通年換算4コマ担当)。
- ・日吉専任者が2003年度まで1名(理工学部, 2004年度以降はゼロ)。

③テーマ分布

- ・総じて現代論理学の基礎・入門。
- ・数学の基礎知識などのレベル差によって教育内容が変わる科目であるが, レベル差の区別は行われていない。

④年度ごとの変化

- ・2004年度以降, 日吉担当の専任者が退職し, 同じ専門の後任者が採用されなかったため, 科目の扱いについては現時点では協議中。

■宗教学(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(通年1)。
- ・経済学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任者担当はなし。

③テーマ分布

- ・概論。
- ・宗教学が1科目しかないため, 2001, 2002年度は履修者数が300人を越えていた。2003年度から調整を行い, 履修者数はやや少なくなっている。
- ・ユダヤ教, キリスト教, イスラムを扱う科目がない。

④年度ごとの変化

3) コメントの読み方に関しては, 1. 2) データの見方(10ページ)を参照。

・2003年度から三田の学生の履修を認めなくなったため、履修者数が抑制されている。

・同じ講師が長年担当している。

■教育学(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年1)。

・調整は文学部教育学専攻が行っている。

②専任担当率、日吉・三田所属専任者の担当割合

・全員が三田所属(文学部教育学専攻)専任教員(3～4名)。

③テーマ分布

・教育学の入門として、教育史、教育心理学、教育哲学、比較教育学(2002年度から)各分野の専門家が分担して講義している。

④年度ごとの変化

・2002年度から1名(比較教育学)が担当に参加した。

■現代思想論(設置コマ数 1.5)

①科目設置母体と調整

・理工学部(半期3)。

・理工学部が設置。

②専任担当率、日吉・三田所属専任者の担当割合

・日吉所属専任教員1, 非常勤1。

③テーマ分布

・ポストモダンの問題。

④年度ごとの変化

・2002年度は半期2コマ, 2003年度は半期3コマに増。
2004年度は新任の専任教員赴任のため半期4コマ。

■言語学系(設置コマ数 4.5)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年1), 経済学部(半期2), 法学部(半期4), 理工学部(半期1)。

②専任担当率、日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任者担当は10割(日吉所属5人で、いずれも語学担当教員)。

・文学部開講の授業は理工学部の専任教員が担当。

・担当者間でゆるやかな調整が行われている。

③テーマ分布

・前期後期で分かれている授業は、Iが概論で、IIが

特殊的な授業を行っているものが多く、IとIIを併せて履修することを勧めている。

・社会言語学・認知言語学の関連科目が中心。言語認識論の科目も設置されている。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

芸術・文学系

■文学(設置コマ数 21)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年6), 経済学部(通年4), 法学部(通年6), 商学部(通年2), 理工学部(通年3)。

・学部間の調整は行われていない。

②専任担当率、日吉・三田所属専任者の担当割合

・8割強を専任者が担当。

・担当専任者はほとんどが日吉所属(各学部所属の外国語教員と経済学部日吉所属の文学専任教員1名で担当)。

・非常勤を出しているのは文学部のみ。

③テーマ分布

・朝鮮文学・スペイン文学・イタリア文学は交代で設置。

・英米文学, ドイツ文学, フランス文学, ロシア文学は、常時設置。

・中国文学は常時設置されてはいない。(ただし、別に漢文が設置)。

・舞踊論が文学として含まれている(理工学部専任者が担当)。

・講義科目としては、平均受講人数が少ない。少人数セミナーにふさわしい内容の授業も散見される。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■国語国文(設置コマ数 4)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年2), 経済学部(通年2)。

・調整は行われていない。

②専任担当率、日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任担当は6割強。経済学部文学担当教員と文学部は1名専任1名非常勤。

③テーマ分布

- ・中古・近世の日本文学の講読。
- ・履修人数は少ない。内容的には少人数授業。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■漢文(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・年度ごとに担当者の所属学部が設置する。2003 年度は経済学部(通年 1)

- ・日吉の中国語部会が調整。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・各学部の中国語担当専任教員または非常勤が交代で担当。

③テーマ分布

- ・中国古典を読むことを中心に毎年テキストを変えている。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■美術(設置コマ数 9)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年 7), 理工学部(通年 2)。
- ・文学部の美学美術史専攻が主体的に調整し, 理工学部所属担当者がそれに加わっている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任者担当は 3 割強。
- ・日吉所属専任者は 2 名(文学部と理工学部各 1)。

③テーマ分布

- ・日本美術, 西洋ルネッサンス以降の美術がほとんど。
- ・多文化主義的視点をもった科目は設置されていない。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■音楽(設置コマ数 11)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年 3), 経済学部(通年 1, 半期 2), 法学部(半期 4), 商学部(通年 4)。
- ・日吉音楽学研究室を中心に各学部の担当者と調整。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任者担当は 3 割強(2002 年度)。(2003 年度は日吉

専任教員が留学)

- ・日吉所属専任者は 1 名。

③テーマ分布

- ・西洋音楽が中心。民族音楽学は広範囲の音楽を扱っている。

- ・実技・実習を含む科目が 3 コマ設置されている。

- ・全体的な見取り図を与えるような授業は設置されていない。

- ・日本音楽, 音楽と社会とのかかわりを扱う科目は設置されていない。

④年度ごとの変化

- ・実技系の科目が, 2000 年度以降に設置されている(商学部音楽担当専任教員と経済学部英語担当の音楽学専門教員が 1999 年度に同時に赴任し, 科目配置のあり方が大幅に変化したため)。

■表象文化論(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(通年 1)。
- ・経済学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・経済学部の日吉専任者 3 名および非常勤 1 名によるオムニバス授業。

③テーマ分布

- ・映画論, 絵画, 写真についての講義。

④年度ごとの変化

- ・調査期間内の内容は同一。

■映像・音響文化論, 現代メディア論, 現代芸術論(設置コマ数 2002 年度 3.5, 2003 年度は 2.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期 7)。
- ・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・日吉所属専任教員 2 と非常勤 3 で担当。

③テーマ分布

- ・現代の美術・映像・メディア。

④年度ごとの変化

- ・2003 年度は現代芸術論が半期 1 コマのみ(現代思想論に 1 コマ分を充当。ただし新任の現代思想担当教員

赴任のため 2004 年度は半期 3 コマが復活)。

■造形・デザイン論(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期 2)。
- ・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・非常勤 2 で担当。

③テーマ分布

- ・1 コマ日本, 1 コマ現代のデザイン。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■身体文化論(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期 1)。
- ・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・非常勤 1 で担当。

③テーマ分布

- ・舞踊。
- ・理工学部は「文学」の枠内での舞踊に関するテーマも併設している。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■住宅・建築史概論(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期 1)。
- ・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・理工学部(矢上)専任教員が担当。

③テーマ分布

- ・住宅・建築についての概論。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

歴史・地域系

■歴史(設置コマ数 2002 年度 23, 2003 年度 19)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年 10), 経済学部(通年 2), 法学部(通年

4), 商学部(通年 7)。

・各学部例年のコマ数内で設置し, 調整は行っていない。

・日本史については文学部の日本史専攻が非常勤を置いている。

・東洋史は商学部が立てている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任がほぼ 5 割。

・日吉専任者が 4 名で, 全員が文学部以外。

③テーマ分布

・日本, 東洋, 西洋の地域, 古代から現代の歴史分布がほぼカバーできている。

・やや特殊な主題を扱う授業が多く, 概論的授業はない。

・履修者が非常に多く, 2003 年度は 7 科目の授業で抽選が行われている。

④年度ごとの変化

・法学部専任者が特別研究期間をとったため, 2003 年度はコマ数が減少。

■現代世界史・現代日本史(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部が設置(半期各 1 計 2)。
- ・理工学部向けに設置されたものを, 各学部へ開放。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・2003 年度, 現代日本史は文学部三田の専任者が担当, 現代世界史は非常勤が担当。

③テーマ分布

・内容的には, 歴史というよりは, 政治学。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■文明学説史(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・商学部(通年 1)
- ・商学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・近代思想史担当日吉専任教員 1 名が担当。

③テーマ分布

・徂徠学, 福沢諭吉。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■文化人類学(設置コマ数 3)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年1), 法学部(半期2), 理工学部(半期2)。
- ・調整は行われていない。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任教員は50%。文学部専任者1名と理工学部言語学担当専任者1名, および非常勤で担当。

③テーマ分布

- ・多様性・異文化理解。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■地域文化論(設置コマ数 10)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(半期20)。
- ・法学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任者8割弱。専任者は全員日吉所属。

③テーマ分布

- ・イギリス, アメリカ, ドイツ, フランス, ロシア, ラテンアメリカ, 中国。語学の開講科目と対応。
- ・2年生を対象とする高度レベルの科目がいくつかある。

④年度ごとの変化

- ・同分野教員による持ち回り。
- ・理工学部設置の同一科目があるが調査対象年度には開講されていない。
- ・2004年度からは地域文化論Ⅰ, Ⅱの履修を前提とする地域文化論Ⅲ, Ⅳができた。

■地域研究(設置コマ数 3)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(半期6)。
- ・経済学部の外国語担当で協議して設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・すべて専任で担当。経済学部外国語担当教員。

③テーマ分布

- ・中国, 北米など。
- ・法学部の地域文化論と近接する科目。

④年度ごとの変化

- ・2004年度よりスペイン移民に関する科目が加わる。

■ラテンアメリカ研究(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(通年1)。
- ・経済学部がスペイン語担当で設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・すべて専任で担当。経済学部スペイン語担当教員がコーディネート。学部を横断した塾内専任者の講義からなるオムニバス形式。

③テーマ分布

- ・ラテンアメリカ。2004年度は共通テーマを設定。

④年度ごとの変化

- ・2001年度より経済学部科目として開講, 2002年度からは全学部対象科目となる。

■地域と文化(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・商学部(通年1)。
- ・商学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・商学部の日吉専任者によるオムニバス授業。

③テーマ分布

- ・各国の文化。

④年度ごとの変化

- ・2004年度に廃止された。

■比較文化論(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部設置(通年1)。
- ・2001年度のみ理工学部設置(半期2)。
- ・経済学部専任者がコーディネートにあたっている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・オムニバス形式で, 日吉所属専任者を中心に, 非常勤講師が加わる場合もある。理工学部設置の授業では, 日吉所属専任者が担当していた。

③テーマ分布

- ・比較文化にかかわるさまざまなトピックをとりあげた, オムニバス形式。

④年度ごとの変化

・理工学部設置の授業は、2002年度以降、理工学部生のみ履修可となり併設科目ではなくなった。

2. 社会知

法律・政治系

■法学(設置コマ数 9)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(通年 9)。
- ・法学部法律学科が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任は2割強。専任は全員三田所属

③テーマ分布

- ・憲法を含む法学の入門・基礎。教職科目。
- ・法学部の学生は履修できない。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■政治学系(政治学, 世界の政治, 日本の政治)(設置コマ数 13)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(通年11), 商学部(通年1), 理工学部(半期2)。

・法学部の部分は, 法学部政治学科が設置。他は, それぞれの学部が独自に設置。

- ・政治学科の学生は履修できない。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任は3割。専任は三田所属3, 日吉商学部専任1。他は非常勤。

③テーマ分布

・現代日本政治, 現代国際政治, 西洋政治思想史の3種類が設置されている。

・担当者が各々の特殊専門領域について話すケースが多い。概論的な授業ではない。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■近代思想史(設置コマ数 2002年度7, 2003年度は6)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年1), 経済学部(通年1, 2003年は0), 法

学部(通年1), 商学部(通年4)。

- ・調整は行われていない。

・経済学部の責任部会は学史・思想史部会。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任は4割。専任は商学部日吉所属専任2名。

③テーマ分布

・近代思想史(日本)と近代思想史(西洋)と現代思想と3種類の授業がある。

④年度ごとの変化

・経済学部設置分は担当者が特別研究期間のため, 2003年度のみ休講となった。

社会・経済系

■経済学(設置コマ数 2)

①科目設置母体と調整

- ・法学部設置(通年2)。
- ・法学部が独自に設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任担当はなし。

③テーマ分布

- ・経済学の入門。
- ・経済学部の学生は履修できない。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■経済人類学(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(通年1)。
- ・経済学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任担当はなし。

③テーマ分布

- ・市場経済とのかかわり。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■社会学(設置コマ数 7)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年2), 経済学部(通年4), 法学部(通年1)。
- ・調整は行われていない。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任は2割。専任は文学部三田所属1。

③テーマ分布

・家族, 自我とコミュニケーション, 権力, シンボリックインタラクショニズムなどさまざまなトピックが並立。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■社会科学概論(設置コマ数1)

①科目設置母体と調整

・商学部(通年1)。
・商学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・商学部日吉所属社会科学担当専任教員による科目。

③テーマ分布

・社会科学者の研究。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■現代社会論(設置コマ数1.5)

①科目設置母体と調整

・理工学部(半期3)。
・理工学部で設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任担当はなし。

③テーマ分布

・高齢化社会, 臨床社会学, 国際社会学のトピック。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■戦争と社会(設置コマ数0.5)

①科目設置母体と調整

・経済学部(半期1)。
・経済学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・経済学部三田所属の専任教員がコーディネート。経済学部スタッフを主に含む塾内外の講師によるオムニバス形式。

・経済学部三田所属の専任教員2名がコーディネートに

あたっている。

③テーマ分布

・20世紀の戦争をめぐるさまざまな問題。

④年度ごとの変化

・外部講師は年度によって交代している。

■地理学(設置コマ数12)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年2), 経済学部(通年10)。
・経済学部地理担当専任教員が設置調整を行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任担当率4割。専任者は経済学部日吉所属2名。

③テーマ分布

・人文地理学と自然地理学にわかれ, 人文地理学がやや多い。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■ジェンダー論, 女性学(設置コマ数2)

①科目設置母体と調整

・経済学部(半期2), 理工学部(半期2)。
・調整は経済学部教員が行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任は8割弱。専任は, 経済日吉所属(歴史, 生物, スペイン語担当)の教員。

③テーマ分布

・ジェンダー論は, 異なった視点から3人の教員がディスカッションする。

・女性学のうち1コマはグループ発表・ディスカッション, 1コマは講義形式。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

3. 科学知

物理・化学系

■物理学(設置コマ数18)⁴⁾

①科目設置母体と調整

・経済学部(通年3), 法学部(通年9), 商学部(通年6)。

4) 実験科目。1コマ2時限分。

・調整は日吉物理学教室で行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・全員が日吉所属専任教員(6名)。

③テーマ分布

・現代物理学と古典物理学から選択。

・実験内容は, 各授業でほぼ統一。

④年度ごとの変化

・物理学は従来より全学部共通。

・年度によって, 1, 2名の非常勤が担当することがある。

■天文学, 宇宙の科学(設置コマ数 2.5)

①科目設置母体と調整

・商学部(半期1), 理工学部(通年2, ただし理工学部学生は履修できない)。

・天文学の調整は日吉天文学教室で行い, 宇宙の科学の調整は商学部物理学担当者が行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任教員のみで担当。理工学部日吉所属の天文学担当専任1, 商学部物理学担当専任1。

③テーマ分布

・宇宙一般。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■地学系(地学, 地球科学概論)(設置コマ数 6)

①科目設置母体と調整

・理工学部(通年5, 半期2)。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任担当率5割。専任者は矢上所属1, 日吉高等学校所属1。

③テーマ分布

地球の資源・物質, 気象・大気科学で半々。地球科学概論は理工学部向け。

④年度ごとの変化

特記事項なし。

■化学(設置コマ数 13)⁵⁾

①科目設置母体と調整

・文学部(通年3), 経済学部(通年3), 法学部(通年7)

・調整は日吉化学教室で行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・全員が日吉所属専任教員(4名)。

③テーマ分布

・化学一般。

・実験内容は各授業でほぼ統一。

④年度ごとの変化

・化学は従来より全学部共通。

■現代化学概論(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

・理工学部(半期1)。

・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・すべて理工学部専任者が担当。

③テーマ分布

・現代化学の最前線。

・オムニバス形式。

・高校化学の履修が前提。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■自然科学特論(設置コマ数 1.5)

①科目設置母体と調整

・法学部(半期3)。

・法学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・すべて法学部自然科学専任者が担当。

③テーマ分布

・物理学・化学, 生物などにおける特殊的なテーマをその都度, 授業ごとに設定。

④年度ごとの変化

・1, 2名非常勤が担当する年度がある。

生命・心理系

■生物(科)学(設置コマ数 30)⁶⁾

①科目設置母体と調整

・文学部(通年5), 経済学部(通年6), 法学部(通年10), 商学部(通年9)。

・調整は日吉生物学教室で行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任者が留学・特別研究期間の場合に限り、非常勤がそのコマを担当。専任者は全員が日吉所属(10名)。

③テーマ分布

・講義内容は4つの系統(環境・生態, 進化・系統, 遺伝学, 発生・生理)を配慮して設置。実験内容は, 各授業で異なり, 各担当者ごとに独自性をもっている。

・法学部設置の科目名は「生物科学」。2004年度からこれを「生物科学／生物学」と併記することで, 全学部で共通化がはかられた。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■人類学(設置コマ数 5.5)

①科目設置母体と調整

・文学部(通年3), 経済学部(通年2), 理工学部(半期1)。

・調整は文学部専任教員が行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任が3割強。専任は文学部所属, 経済・理工学部設置は非常勤。

③テーマ分布

・自然人類学と人の進化。

④年度ごとの変化

・2002年度までは文学部設置によるオムニバス授業「自然とヒト」が開講されていたが, その後廃止(担当者は文学部専任教員)。

■健康科学(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

・理工学部(半期1)。

・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・非常勤2名で分担。

③テーマ分布

・化学物質・薬について。

④年度ごとの変化

・特記事項なし。

■保健衛生(設置コマ数 2003年度2, 2002年度5.5)

①科目設置母体と調整

・体育研究所(半期4)。

・設置コマ数, 講義内容については保健管理センターに一任。

②専任担当率

・2002年度以降は全て保健管理センター所員が担当。

③テーマ分布

・医学概論

④年度ごとの変化

・2003年度より保健管理センターが独自に科目を新設したため, 設置コマ数を削減。

・2004年度以降は, 保健体育科目再編のため開講されていない。

■現代社会と医学(設置コマ数1)

①科目設置母体と調整

・保健管理センター(半期2)

・保健管理センターが設置。

②専任担当率

・保健管理センター所属の専任教員が担当。

③テーマ分布

・医学概論。

・オムニバス形式。

④年度ごとの変化

・2003年度より保健管理センター設置科目として新設。

■生態学(設置コマ数 2002年度 0.5)

①科目設置母体と調整

・理工学部(半期1)。

・理工部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

・専任の法学部日吉所属化学担当教員による。

③テーマ分布

・化学から見た生態学。

④年度ごとの変化

・2003年度以降は設置されていない。

5) 実験科目。1コマ2時限分。

6) 実験科目。1コマ2時限分。

■地域生態文化論(設置コマ数 1)

①科目設置母体と調整

- ・経済学部(半期2)。
- ・経済学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・経済学部の生物学専任教員1名が担当。

③テーマ分布

- ・地域生態と地域文化の融合。
- ・自然保護, 自然共生型の都市づくり。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■生命の科学(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・医学部(半期1)。
- ・医学部が設置(ただし医学部学生は履修できない)。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・医学部専任教員がコーディネートし, 外部講師を含む担当者によるオムニバス形式。

③テーマ分布

- ・生命科学の最前線。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■生命現象の分子科学(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期1)。
- ・理工学部が設置

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・非常勤が担当。

③テーマ分布

- ・分子生物学の入門。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■現代生物学概論(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(半期1)。
- ・理工学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・すべて理工学部専任者が担当。

③テーマ分布

- ・生命の科学と工学の最先端。
- ・オムニバス形式。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

■心理学系(含 社会心理学)(設置コマ数 27)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年5), 経済学部(通年6), 法学部(半期18), 商学部(通年6), 医学部(通年1)。

- ・日吉心理学教室で調整。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・専任担当率5割強。日吉4名(文・経・法・商), 三田2名(文)。

③テーマ分布

- ・概論, 実験心理学, 応用心理学, 発達心理学, 社会心理学, その他。

- ・理工学部は人文科学としての心理学に特化した授業を学部独自に設置している。

- ・文学部, 経済学部, 法学部, 商学部は自然科学としての心理学を提供しており, 共通化は可能ということで, 学部共通に入れている。

- ・医学部学生専用の授業を開設してほしいと学部から要請があり, その状態が現在も続いている。ただし, 近年は他の学部と同じにしてほしいという逆の要請があった。

④年度ごとの変化

- ・2002年度までは学部指定で指定学部の授業しか履修できなかった。2003年度以降は, 指定学部以外の学生も定員に余裕がある場合に限り履修可となった。

技術・環境系

■科学史(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(半期1)

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・日吉法学部物理学担当専任教員が担当。

③テーマ分布

- ・核問題。

④年度ごとの変化

- ・特記事項なし。

数理・情報系

■数学(設置コマ数 2.5)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(通年2), 経済学部(半期1)。
- ・調整は日吉数学教室で行っている。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・全員が非常勤(6名)。

③テーマ分布

- ・線形代数, 微分積分の基礎数学の2種類。
- ・総合教育科目としては高校数学の復習(経済, 商, 理工は専門の必修科目として数学を履修)。

④年度ごとの変化

- ・2001年度までは, 経済学部が経済学部のみ履修対象として, データ解析入門の授業を総合教育科目として設置していたが, この授業は専門科目となった。

■情報系(情報処理教育室設置講座)(設置コマ数3.5)

①科目設置母体と調整

- ・理工学部(通年3, 半期1)。
- ・各学部から推薦された各1名を含んで構成される情報処理教育室運営委員会が, 日吉・三田・各学部設置講座を運営。
- ・文, 経, 法, 商の各学部が設置している情報科目は, 名称, 時期, 講師, 時間などが異なり, 内容も少しずつ違うので, 現状では共通科目化は難しい。

- ・講師人事は各学部によって異なり, 情報処理教育室に委嘱して教授会で審議されない学部もある。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・理工学部専任者と非常勤が半分ずつ担当。

③テーマ分布

- ・C言語によるプログラミング入門。
- ・パソコンによる情報整理学(学部設置の同題名科目と同じ内容)。
- ・コンピュータ・グラフィックス。

④年度ごとの変化

- ・2002年度までは, 人工知能に関する半期授業も開講

されていた。

4. 複合知

■身体／感覚文化(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・文学部設置(2004年度は法学部)(半期1)
- ・学部横断による複数専任教員でコーディネート。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・コーディネーターは日吉専任教員 2002年度は3名(2004年度は6名, 教員は学部専門横断)で, 約半数を非常勤が1回ずつのレクチャーを担当するオムニバス授業。

③テーマ分布

- ・視覚に関わる複合知(2003年度)。
- ・年度ごとにテーマを変更。

④年度ごとの変化

- ・2002年度新設科目。
- ・外部講師の招聘上の理由で設置母体学部が変化。
- ・テーマに応じて毎年講師を交代。

■人文科学総合講座(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(半期1)。
- ・法学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・コーディネーターは日吉専任教員で, 塾内外の講師を中心とするオムニバス授業。

③テーマ分布

- ・年度ごとにさまざまなテーマを選んでいる。

④年度ごとの変化

- ・2002年度は, 開講しなかった。

■自然科学総合講座(設置コマ数 2002年度0.5)

①科目設置母体と調整

- ・法学部(半期1)。
- ・法学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・日吉の自然科学担当専任教員が交代して共担。

③テーマ分布

- ・共通テーマで各分野からのアプローチ

④年度ごとの変化

- ・原則隔年度設置(担当者の都合で2004年度は延期)。

■人の尊厳(設置コマ数 0.5)

①科目設置母体と調整

- ・文学部(半期1)。
- ・文学部が設置。

②専任担当率, 日吉・三田所属専任者の担当割合

- ・コーディネーターは文学部の専任教員複数名。内外の講師によるオムニバス形式。

③テーマ分布

- ・社会と人権をめぐる諸問題。

④年度ごとの変化

- ・2001年度より設置。

■体育理論(設置コマ数 5)

①科目設置母体と調整

- ・体育研究所が設置(半期10)。
- ・調整は体育研究所で行っている。

②専任担当率

- ・原則として体育研究所専任教員が担当。

③テーマ分布

- ・スポーツ総論, スポーツ医科学, スポーツ心理学, スポーツ社会学, 運動処方, アウトドア。
- ・教養課程の科目であることを念頭に, 総じて概論的な授業が多いが, 特殊領域に的を絞った授業もある。

④年度ごとの変化

- ・保健体育科目再編のため, 2004年度以降, 体育学講義と体育学演習に改称。

*その他の科目

■体育実技Ⅰ(ウィークリー・スポーツ)(設置コマ数 137)

①科目設置母体と調整

- ・体育研究所(半期274)。

- ・全て半期科目(三田地区でも実施。今回の集計には反映されていない)。

- ・調整は主として体育研究所で行っている。

②専任担当率

- ・例年, 設置コマ数の2/3前後は体育研究所専任教員および嘱託所員が担当。

③テーマ分布

- ・球技, 武道, 個人種目等多彩な種目を開講。
- ・種目によってはレベル分けがある。

④年度ごとの変化

- ・2004年度以降成績評価の方法に応じて体育実技A(A～D評価), 体育実技B(Pass & Fail評価)として再編成された。

■体育実技Ⅱ(シーズン・スポーツ)(設置コマ数 11.5)

①科目設置母体と調整

- ・体育研究所(半期扱い23)。
- ・7日間の集中授業(通い), もしくは3泊4日の合宿。
- ・調整は体育研究所で行っている。

②専任担当率

- ・体育会OBが実技指導員として責任者となっている種目がほとんど。2003年度では23種目中, 専任教員が責任者となっている種目は2種目のみ。但し, 合宿種目に関しては専任教員が必ずサポートに入っている。

③テーマ分布

- ・球技, 武道, 個人種目等多彩な種目を開講。

④年度ごとの変化

- ・数年来, シーズン性や特殊事情のある種目を除いて, 体育実技Ⅱはなるべく体育実技Ⅰとする方向で調整している。

- ・2004年度以降成績評価の方法に応じて体育実技A(A～D評価), 体育実技B(Pass & Fail評価)として再編成された。

第 2 章

授業内容，分野・系列の問題

1.3 系列均等履修方式と系列外科目の扱い

現在、日吉設置の総合教育科目について、どの分野をどれだけの単位数履修させるかについては、各学部が独自に規定している状況にある。伝統的な3系列(人文・社会・自然)の枠組みを維持しながら、各系列から一定数の単位を履修するように指導している学部(文、法)がある一方で、人文と社会を一体にしてより自由な単位履修をはかっている学部(経、商、医、理工)もある。また、「系列外科目」という扱いになることで、学生の履修において優先順位が低くなる科目が生じるといった、制度上の問題も見受けられる。

このような学部ごとの枠組み設定は、総合教育科目の自由で豊かな科目編成を可能にしている反面、全体としての無秩序やモラルの欠如を生んでいる。「教養教育」が全体としてどのようなべきかを根本から検討し、学部の枠組みを超え全体としてそれを実現するような方策が望まれる。

2. バランスが取れた科目配置

総合教育科目については、これまで各学部が歴史的に設置してきた予定調和的な科目編成がなされている。それゆえ、枠組みの形骸化の他に、時代の流れとともに分野ごとの偏りが生じたり、新しい知の枠組みに対応できないなどの問題が生じている。無論、多い少ない

という評価は何をもって「教養」とするかに掛かっているが、明らかな不均衡は学生の選択にとっても望ましくないと考えられる。

①まず、全体として「文化知」と分類される科目が多く、それに比して「社会知」の科目が少ない。その一つの理由は、法・経・商の各学部では「法学」「政治学」「経済学」などの社会系の科目を専門基礎として提供し、自学部の中で必修扱いとすることがあげられる。このあり方は、たとえば文学部の学生が「社会知」に触れる機会が比較的少ないといった状況をもたらしている。

②また、「複合知」の科目も多くはない。この点については、湘南藤沢キャンパスの2学部が多くの複合的な科目を提供し、また理工学部も「現代」的な複合的な視点をもった科目を積極的に設置していることと対照的である。しかし、学生から見た場合、こういった科目の履修に便宜を図るか、新たに複合的科目を増やすことが望ましい。

③特定科目についても、際立って少ない分野が散見される。

・現在「宗教学」は全体で1コマしか開講されていない。概論だけでなく、キリスト教、仏教、イスラム教といった個別宗教についての授業も必要であり、また「宗教と社会」、「宗教と政治」、「宗教と科学」といったテーマの授業も望まれる。この科目の増設は、時代のニーズでもあり、早急な改善が

望まれる。

- ・「科学史」も現在1コマのみの開講で、科学史・技術論(STS)・科学哲学について、著しく授業が不足している。科学的知識自体の不足に加えて、現代社会における科学の役割についても学生が反省する機会が少ないと言われている。誤った情報や偏った見方に流されないためにも、正確な科学知識に基づく、公正な科学・技術観を持つことが何よりも大切であろう。あわせて、「環境」に関する授業科目も極端に少ないことが指摘される。
- ・「法律」、「経済」、「会計・財務」などについて、専門の基礎としてではなく、生活に関わる基本的な考え方を習得する入門的な科目が必要であろう。また、「統計学」や「データベース」を取り扱う、専門以外の手ほどきの授業も検討されるべきである。

3. 学生に必要なもの

学生が総合教育科目に何を求めているか、現在何が不十分と考えているかについては、アンケートを行ってそれを正確に分析する必要がある。

授業の増設や統合にはさまざまな困難が予想されるが、さしあたり改善可能な点では、分野や授業名称・区分の工夫によって見通しをよくすることが考えられる。現状では各学部のカリキュラムの都合や設置にあたっての経緯から、不統一な名称や中身にそぐわない名称、科目分類がいくつか見られる。

選択し履修する学生の身になって、分かりやすい授業科目名が必要である。特に、サブタイトルとして、授業の内容を適切に表すものをつけるよう、場合によっては調整や設置責任者からのアドバイスも必要であろう。

4. 授業レベルの問題

日吉設置の学部共通総合教育科目については、一般にレベル分けが少ない。科目によっては、既に高度の

知識や習熟を有する学生と、まったくの初心者とを区別して教える必要もある。また、専門課程にどこまで必要か、単位取得の難易度や履修人数との関係も考慮して、レベル設定の問題を総合的に考えていくべきであろう。

その際、現在多くの学部で導入されている「半期制」との関係で、科目の扱いを整理する必要がある。たとえば、1・2年の前期・後期で「Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ」と科目名に明記し、それぞれの履修条件を設定することが考えられる。科目によっては、Ⅰから順に履修することを条件とする場合もあれば、順序は構わずにいくつか単位をそろえることが出来る場合もあるはずである。科目の難易度ではなく、体系的な履修の仕方を整理して提示することが求められていく。

「歴史」「地理」「自然科学」「音楽」「美術」などいくつかの科目については、高校までに履修したかどうかで、「導入科目」を設ける必要があるかを検討する。履修にあたっての「プレイスメント・テスト」の実施も考えられる。

また、レベルだけではなく、内容について包括的な内容(「概論」「入門」「通史」など)と個別的な内容(各論)でメリハリをつけ、学生の関心やレベルに応じた授業を提供する必要がある。

また、初級を履修した学生には、より高度な発展形の授業に進む可能性を考慮すべきであろう。たとえば、三田キャンパスでの授業との連携・継続や、「副専攻」の問題とも関係づける必要があるかもしれない。

5. GPA 問題

履修や成績評価については、GPAのシステムが有効か、また、必要かを今後慎重に検討していく。GPAの導入によって履修人数の配分に改善が見られるかもしれないが、成績評価や履修指導の仕方については、なお検討課題が多い。また、専門科目とあわせて導入するか、全塾的課題であろう。

第 3 章

授業の形態

現在日吉で行われている総合教育科目の授業形態としては、①教員が単独で講義を行う講義型、②自然科学分野(生物、化学、物理学)の実験を伴う講義型、③少人数セミナー形式、④あるテーマをめぐって複数の教員が分担するオムニバス型、⑤その他、自然科学分野以外で実技を課すものなど、に分類することができる。授業の形態は、当該授業の内容と目的によって左右されるものと考えることができるが、履修者数の多寡や担当者の意向によって変化することもあり得る。

1. 講義型

教員が各々の専門分野について単独に授業を展開する伝統的な授業形態で、学生はもっぱら教員の声に耳を傾けノートを取る。日吉設置の総合教育科目は、そのおおよそ6割弱(210数コマ)がこの範疇に属する。その利点は、基礎的であるがゆえに履修者の多い科目について、効率的に知識を伝達教授できるところにある。したがって、一般的には大・中教室での授業が想定されている。しかしながら、履修者統計データによると、この講義型に分類できる授業にあっても、その履修者数には300名超～10名前後までのばらつきがあり、履修者が少人数となった場合には効率重視の一方的授業の必然性が薄まり、むしろ少人数セミナー形式授業に似た形態の授業に変更を余儀なくされる可能性もある。また、ほんの少数ではあるが、純粋に座学ではなく、演習

や討論を組み込んだ参加型の講義もある。純粋講義型の欠点はといえば、教員と一人一人の学生との距離が遠く、出席管理を含めて学生の理解度や満足度といった反応を把握するのが難しく、教員が独断に陥る危険が挙げられる。成績評価も学期末あるいは学年末のレポートか試験に拠っているため、完備したノートさえあれば授業に出席せずとも単位の取得が可能である。そうした欠陥を補うために、頻繁に課題を出してレポートの提出を求めたり、一部の学生の意見を発表させたりする工夫が行われ始めているが、50～60人規模であるならまだしも、大人数の授業では教師の負担には自ずと限界がある。

大教室での講義型授業を排する理由はないが、担当の教員が魅力ある授業を展開した上で、学生の能動的な取り組みが成績評価に積極的に反映されるような手だてが検討される必要がある。

2. 実験を伴う講義型

自然科学3科目(生物学、化学、物理学)について行われている授業形態である。隔週で実験と講義があり、実験を行うため、1コマは2時限となっている。講義だけでは伝えきれない自然現象を、自分の手で再現することにより、その客観的事実や自然のメカニズムに触れる機会があり、非常に意義のある科目である。その一方で、講義が隔週となり、継続性や積み上げ式教育に難

がある。また、理系の講義が、2 時限分続けてあることは、文系学部学生にとって辛いことは確かである。3 時間、学生のモチベーションを保つ講義を行うべく、教員は努力している。

本科目は、理系学部を除くすべての学部生が履修可能である。実験設備に限りがあるため、1 クラス約 60 名と履修人数は制限されるが、日吉全体で通年 60 コマを開講している。多少の差はあれ、文系学部の多くが自然科学科目を選択必修としていることもあって、履修者は約 3000 人と多く、文系学部生（文、経、法、商）の 1 学年約 5000 人に対して約 6 割となっており、文系学生に対する理系科目として重要な位置を占めている。それにともない、専任教員数は、33 名（嘱託助手 8 名を含む）となっており、他大学と比べて抜きん出ている。

本形態は、新制大学開設当時の 1950 年頃から現在まで続いており、文系の学生を対象とした自然科学教育を、総合教育科目のコアとする伝統を積極的に踏襲している点で特色を示している。

3. 少人数セミナー型

慶應義塾大学日吉キャンパスに設置されている少人数セミナー型授業には、文学部の「人文科学特論」「社会科学特論」「自然科学特論」「総合教育セミナー」（2003 年度から）、法学部の「人文科学特論」「自然科学研究会」「演習」、経済学部の「自由研究セミナー」、商学部の「総合教育セミナー」、理工学部の「総合教育セミナー」がある。その内、文学部の 3 系統に分かれた「特論」と法学部の「演習」は、いわば専門基礎の範疇であり、原則として他学部生には開放されていないので、ここではそれ以外のものについて概観しておきたい。詳しくは第 4 章で扱っている。

大綱化以降、少人数セミナー形式の授業は、大学における学問手法を会得させる初年度導入的なコア科目として重要性を帯びてきた。現在では、全学部共通で必修化をはかっている大学も少なくない。

学部によって設置時期やその経緯・目的は異なるものの、義塾におけるセミナー形式授業（日吉）の歴史は

浅くない。全体で年間 80 ～ 90 コマ（通年換算）開講されており、ここ数年で、所属学部を問わず共通科目としての履修が可能になっている。授業の内容も手法も百花繚乱の感があるが、複数の学部では、学生の自発的な問題意識に基づく調査・発見能力と、知識を深めてそれを統合・発信する能力を涵養する「スタディ・スキルズ」に特化する傾向が見られる。新入学の学生たちを水先案内する基盤的な科目として、全学部が一体となって強化策を検討する必要がある。

4. オムニバス型

オムニバス型授業とは、一人または複数のコーディネーターのもとで、あるテーマをめぐって複数の教員が担当する授業を指す。日吉の総合教育科目では 14 コマ程度が開講されてきたが、徐々に増加する傾向にあると考えられる。因みに 2004 年度は 17 コマとなっている。

オムニバス型授業の特性は、あるテーマを対象にさまざまな領域の専門家が各自の学問技法に基づいて授業を展開することで、多面的なものの見方を開陳して現代社会の抱える複合的な知のありようを示すことにある。これを学際的アプローチと呼んでもよい。総合教育科目の「総合」という観点に立てば、うまくいけばこれほど優れた授業形態は他にないとも言える。

これまでに日吉で開講された 14 のオムニバス型の授業をみると、人文系 4、社会系 2、自然系 5、複合系 3 と分類できる。参考までに 2004 年度では、人文系 5、社会系 3、自然系 5、複合系 4 となっている。人文系のは大半は、地域文化論系統のオムニバスであるが、これは理由無しとはしないであろう。というのも、地域文化論系の授業は基本的に、人文と社会を跨いだ複合的な科目であり、取り扱うテーマいかんによっては、むしろオムニバス型授業のほうが説得的な効果をあげうる可能性があるからである。全体的にコマ数もまだ少ないうえ、多領域・多分野を横断した真に複合的なオムニバス授業はごく僅かしかないのが現状である。また、オムニバス授業の発想・企画母体（設置学部ではなく、コー

ディネーターや講師陣の所属)は単独学部型、学部横断型、分野横断型、部会企画型、諸センター企画型など多様である。

オムニバス型の授業は、大学内外から自由に講師陣を選定できる(学外からの講師については、特別招聘講師としての予算措置が各学部 to 設けられている)強みもあり、先にも述べたように総合教育科目として非常に魅力的な側面を有している。しかしながら、こうした授業の組み立てには多くの労力と困難が伴う。まず、それを企画立案して実現をはかるコーディネーターが必要であり、かつその人の資質が問われるのである。その人には、深くて広い豊かな学識と、学生の知的意欲を沸き立たせる努力を惜しまない教育に邁進する姿勢の持ち主であることが求められる。単なる講師陣の寄せ集めや、有機性を欠いたリレー方式の授業であっては、その授業の意義は無に帰してしまうことになりかねない。ただの思いつきではなく、準備の段階から複合的なものの見方をいかに学生に理解させるかに腐心し、ひとたび授業が開始されれば、その都度学生とともに講義の跡をたどってみせるような熱意が要求されるのである。そうして始めてオムニバス型授業は、表層的な知の連関を越えて、語源的な意味でのラディカルな複合・総合性へと深みを増すことが可能になるのである。

結局のところ、オムニバス型授業の成否は、ひとえにコーディネーターの労苦にかかっている。それが特定の人に集中して負担が過重になれば、自ずと授業の不活性化をもたらすのであるから、一定期間で仕事のノウハウの引き継ぎを図りながら交代することが望ましい。また、この役割をたとえば半期2コマ分に充当して責任コマ数に組み込むなど、制度的な位置づけも検討すべきであろう。さらには、オムニバス授業の設置に関する案件を討議するための、学部横断的な会議体も必要となろう。

5. その他

この範疇に分類できるものは、日吉の総合教育科目としては新たな試みと捉えることができる。そのひとつは、一部の「音楽」の授業にみられるような、講義型の側面を残しながらも合唱や楽器演奏という実技を中心にすえた授業である。またこれに類するものとして、演劇をテーマにワークショップを一部取り入れている授業もある。これらの授業ではその成果を演奏会や芝居の上演というかたちで発表しているが、身体を通して知に至るいわゆる「身体知」教育の試みであり今後の展開に注目したいところである。また、「女性学」のように、少人数セミナー授業以外でもグループ単位で学習させその成果を発表させている授業や、「ジェンダー論」のように複数の共担教員が討論形式で授業を展開し、そこに学生も参加するといういわばディベート型の形態もある。

授業という範疇からはやや外れるが、学生が企業などに短期間出向いて実地研修を行う「インターンシップ」も挙げておかねばならない。これは商学部が独自に実施している学外研修の試みですでに単位化されている。

また、今後の展望として、ボランティア活動や学外踏査(フィールドワーク)などを絡めた授業形態も研究されつつある。授業形態の多様化は、教育に対する教員の創意努力の表れであり、それが学生のモチベーションを高める契機になることが期待される。

以上、日吉設置の総合教育科目の授業形態をおおまかに分類しコメントを加えたが、要は形態自体に問題があるのではなく、履修者数や学生の要望を考慮したうえで、いかにバランスよく各形態の授業を配置するか、また、授業のコンテンツとその目的に即した柔軟な手法を、教員一人一人がいかにして編み出すかにかかっているように思われる。そのためには、唯我独尊の孤立志向を排して、教員相互の情報交換や授業参観を通して、自らの授業運営を絶えず見直す姿勢が望まれる。

第 4 章

少人数セミナー

1. 概況

日吉キャンパスでは、各学部で少人数セミナーを開講しており、2004 年度の開講数の総計は、90 コマ(通年換算、ただし併設科目に限る)にのぼる。この中には、教養研究センターが開講¹⁾している「スタディ・スキルズⅠ」(春学期開講)2 コマ、「スタディ・スキルズⅡ」(秋学期開講)2 コマも含まれる。

日吉キャンパスにおける少人数セミナーの特徴として、次のことが指摘できよう。すなわち、各学部が独自の目的と理念でそれぞれの少人数セミナーを設置し運営していること、それと同時に、開講されている少人数セミナーのほとんどが、各学部の学生だけに閉じられているのではなく、併設科目として全学部の学生が履修することができるものであるということである。これを学生側から見れば、豊富でそれぞれ特色のある授業群の中から、各自が自分の興味と目的にしたがって、自由に授業を選択することができ、またそこでは自学部の学生だけではなく、学部・学年の枠を越えてさまざまな学生たちとともに学んで啓発を受けることができる、ということになる。

少人数セミナーを全学部の学生に開いていることのメリットを有効に生かすために、いくつかの施策が展開されてきた。そのうちの二つを紹介しよう。

一つ目は、学生への案内の方法の改善である。従来、

各学部の時間割には自学部の少人数セミナーしか掲載されていなかったため、学生が他学部の少人数セミナーを探すのは、たいへん困難であった。おそらくこのことが大きな原因となって、制度としては全学部の学生に開かれたものでありながら、現実には各少人数セミナーの履修者の大半が開講学部の学生によって占められてきた。この点を改善するために、2005 年度からは、少人数セミナー共通時間割を作成・配布することになった。2003 年度の「講義要綱」より「少人数セミナー」という項目が立てられ、各学部の少人数セミナーが一括して紹介されているが、これと、共通時間割の配布とが相まって、学生の学部を越えた履修選択が今後より進展するものと思われる。

二つ目は、少人数セミナーのよりよい発展のために、学部間、教員と学生、教員と学事センター等の事務部門といったさまざまな関係における情報交換の場を設けるということである。2004 年 12 月に、教養研究センター主催のシンポジウム「少人数セミナー形式授業の理念・目的とその手法」が開催された²⁾。このシンポジウムでは、パネリストが各学部の少人数セミナーの理念・現状・今後の展開などについて報告をし、それに基づいて、教員・学生・学事センター職員などが、それぞれの立場と視点から少人数セミナーのあるべき姿について活発な議論を行った。少人数セミナーに対するさまざまな考え方、現在抱える問題点や今後の発展の可能性など、広い視点から有益な情報交換を行うことができた。

今後もこのような交流の場を継続的に設けることが望まれる。

少人数セミナーに対しては、立場によって、さまざまな考え方が存在する。一例として、各学部の開講の主旨・理念と学生側の期待・不満とを比較してみよう。

各学部の少人数セミナー開講の趣旨・理念には以下のようなものがある。

- ・専門教育への橋渡し(文学部・経済学部〔三田教員担当〕)
- ・副専攻を視野に入れた体系的な教育の一環(経済学部・法学部・商学部)
- ・問題発見・問題解決能力などスタディ・スキルズ養成の場(商学部・理工学部)
- ・教師と学生との人間的接触の場(経済学部・商学部)
- ・日吉の教員の専門領域を生かした教育の場(法学部)

これに対して、先のシンポジウムの席上、学生からは、少人数セミナーに対して次のような期待が寄せられた。

- ・スタディ・スキルズの習得の場
高校と大学の断絶にとまどっている(高校では教わったことを覚えればよかったのに、大学にはいると突然、自分で考えることが要求される。それにもかかわらず、その方法を教えてくれない)
- ・学部・学年を越えた学生同士の交流の場

また、現状に対する不満として次のような意見があがった。

- ・大学／学部が少人数セミナーをどう位置づけているかがわからない
「重要な科目だからぜひ履修するように」と勧められている割には、科目としての扱いが軽かったりする。
- ・各学部によって授業名が一致していないが、全学

部で共通化した方がわかりやすい。

これを見ると、少人数セミナーに対する学部と学生の考え方の間には、共通するものもあるが(スタディ・スキルズを養成する場という位置づけなど)、各学部が独自の理念のもとに少人数セミナーを位置づけ、展開しようとしているのに対し、学生側は全学部共通のフォーマットを求めたり、学部の枠を越えた学生交流の場としての意義を見出したりしているなど、方向性が異なっているものもある。これをどのようにとらえるか、あるいはどのように調整するかは、今後の大きな課題となっていくものと思われる。

いずれにしても、少人数セミナーは、今後さらに展開されていくことが期待される。しかし、そのためには解決しなければいけない課題も数多くある。概況報告の最後に、今回の調査、および前述のシンポジウムでの発言などから浮かび上がってきた課題を列挙しよう。

①学生への案内のしかた

前述したように、2005年度から各学部の少人数セミナーを共通の時間割で学生に提示することになった。これは大きな前進である。しかし、学生が数多くの少人数授業の中から、自分の興味にあった授業を見つけるためのサポートとしては、まだまだなすべきことは残されているように思われる。これについては、理工学部の試みが参考になるであろう。理工学部では、毎春、同学部で開講している「総合教育セミナー」の各授業を手際よく紹介したA4版カラー印刷のチラシを作成し、学生に配布している。これは、学生の授業選択に大いに役立っているということである。分厚い「講義要綱」の中から、履修したい授業を探すのに困難を訴える学生が多いことを考えると、このようなコンパクトな形で学生の選択を助ける手段を、積極的に考え導入していくべきであろう。

②カリキュラムの継続性の問題

1) 「併設」の意味については、本書第5章(48ページ)参照のこと。

2) 報告書として、『慶應義塾大学教養研究センター第6回シンポジウム・少人数セミナー形式の理念・目的とその手法』(2005.2.25)が刊行されている。

③総合教育科目の中での少人数セミナーの位置づけ

各学部の4年間のカリキュラムの中での少人数セミナーの位置づけ、とりわけ三田の専門課程との連携については、以下の各学部の少人数セミナーについての報告からわかるように、すでにいろいろ考えられて、今後の展開についてもさまざまな計画がなされている。しかしその一方で、日吉の総合教育科目のなかに少人数セミナーをどのように位置づけるかということについては、なお検討の余地があるように思われる。たとえば、大人数教育と少人数教育とをどのように組み合わせていくか、すなわち、座学型の講義と演習科目としての少人数セミナーをどのように連携させていくべきか、授業の目的、内容などでどのような役割分担をしていくか、といった問題である。

もちろん、これには次のような意見もあり得よう。すなわち少人数セミナーを、他の総合教育科目と、あるいは専門教育とつなげる必要が本当にあるのか、基礎的なスタディ・スキルズを訓練することができれば、それでよいのではないか、少人数セミナーは単独で考えた方がよいのではないか、という意見である。

④共通化を求めるか求めないか？

学生の要望の中でとりわけ興味深いのは、各学部の少人数セミナーのさらなる共通化である。これは、各学部がそれぞれの考え方に基つき個性的な少人数セミナーを展開しようとしているのとは、きわめて対照的であり、今後より深く考えていくべき問題である。

⑤科目の理念・主旨について

⑥スタディ・スキルズ重視かコンテンツ重視か？

⑦必修科目とすべきか、選択科目とすべきか？（消極的な学生に基本的なスキルをどう教えていくか？）

学生自らが問題を発見し、その解決のために試行錯誤をし、レポート・プレゼンテーションなど多くの課題をこなすことを求められる少人数セミナーを履修する学生の多くは、学習意欲が旺盛で、自己表現がもともと得意であったり好きであったりする学生である。一方、スタディ・スキルズを学ぶことが最も必要な学生の多くは、おそらく自分から積極的に履修しようとはしないだろうことが懸念される。これから考えれば、少人数セミナー

を必修科目として学生全体に履修させることが望ましい。しかし、必修科目として必要なコマ数を用意することは事実上困難である。また、意欲的な学生が集まることで、活気のある授業が展開できる環境を維持したいということから考えれば、必修科目ではなく選択科目とすることが望ましい。この二律背反的な状況をどのように解決していくべきか議論が必要である。

⑧キャパシティの問題

時間割・教室・教員のロードの問題。

⑨メディアセンター・ITC などとの協力体制の構築

⑩教員間の交流・ノウハウの交換の場の設定

⑪成果発表に対するサポート体制の確立

報告集・Webなどの作成に関わる技術的・実務的・経済的サポート体制。

以下に、各学部で展開されている少人数教育を個別に紹介する。

2. 各学部の少人数セミナー

A. 文学部

少人数セミナー科目は、「特論」と「総合教育セミナー」の二種類がある。

I 「特論」

1. 科目名

「人文科学特論」「社会科学特論」「自然科学特論」

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

専攻ごとに設置

「人文科学特論」：総合教育科目人文系列科目

「社会科学特論」：総合教育科目社会科学系列科目

「自然科学特論」：総合教育科目自然科学系列科目

②担当教員

専任教員（日吉、三田）

③併設の有無

現在「特論」の履修は文学部生にのみ許可されているが、近い将来他学部の学生にも開放する方向で検討

がなされている。

3. 科目設置の時期・科目の変遷

1970年代初頭に設置。

4. 目的・理念

・当時常態化していたマスプロ教育の弊害を是正し、日吉在籍の1年生と学部教員との交流を密にすべきであるとの方針から、少人数によるセミナー形式の授業を導入した。

・カリキュラム上は、専門教育の導入的科目という位置づけがなされている。2年次から三田の各専攻に進級して専門課程に入る学生に、専門課程で学ぶ内容を伝達して専攻選択の際の判断材料とさせるという意味合いを持つ。

5. 現状

「人文科学特論」

(哲学, 倫理学, 美学美術史学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 民族学考古学, 国文学, 中国文学, 英米文学, 独文学, 仏文学の12科目)

「社会科学特論」

(図書館・情報学, 教育学, 社会学, 人間科学の4科目)

「自然科学特論」(心理学)

6. 特徴・問題点

① 特徴

・運営方法は、各専攻にまかされている(オムニバス講義, オムニバス+演習などある)

・学生に各専攻分野を能動的に体験させる。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ・今後の展開

2年次から三田の各専攻に進級して専門課程に入る

学生に、専門課程で学ぶ内容を伝達して専攻選択の際の判断材料とさせる。

II「総合教育セミナー」

1. 科目名

「総合教育セミナー」

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

半期科目(総合教育科目系列外2単位)

② 担当教員

日吉専任教員

③併設の有無

併設あり

3. 科目設置の時期・科目の変遷

2002年7月、教養研究センターの開設にともなって発足した日吉学事カリキュラム委員会は、各学部独自に少人数で行われている研究会・セミナー型授業の各学部共通化を提案し合意を見た。これを受けて文学部でも検討を開始したが、文学部の少人数セミナー科目「特論」は上記のように専門基礎科目として位置づけられるため、日吉全体の共通化にはそぐわないと判断し、他学部との整合性をはかるため2003年度に「総合教育セミナー」を新設した。

4. 目的・理念

3 参照。

5. 現状

①開講数

表1のとおり。

6. 特徴・問題点

①特徴

表1 「総合教育セミナー」(文学部)の開講数([]内は通年換算)

	2003 年度	2004 年度
I (春学期開講)	3 [1.5] (自然 2 [1], 人文 1 [0.5])	3 [1.5] (自然 2 [1], 人文 1 [0.5])
II (秋学期開講)	4 [2] (自然 2 [1], 人文 2 [1])	4 (自然 2 [1], 人文 2 [1])
計	7	7
担当教員	化学, 生物学, 人類学, 英語, イタリア語	化学, 生物学, 人類学, 英語, スペイン語

・同科目は文学部1年生をおもに対象として、日吉所属の文学部専任教員が、各自の専門分野の知見・情報を提示しながら解説と討論を進めていく形態をとっている。授業の内容充実と教員／学生間のコミュニケーションを緊密に保つため、履修者の上限は25名程度とする。日吉の他学部にも開放するが、履修登録には文学部学生を優先する。

・実際の授業の内容・進め方は教員の個性に委ねられ、最新、先端的なニュース、話題、論文等を紹介・解題する形態、特定のテーマにそって教員・学生が渾然一体となって知識や能力を深めてゆく形態、一般的、基礎的、教養的な学問・研究を紹介してゆく形態など、各教員が自由に設計・進行する。

②問題点

やる気のある学生以外、あるいは少人数セミナーを履修しない学生の基礎学力をどのように養成していくか？

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ・今後の展開

・第2学年以降への継続性への取り組み(特に三田に受け皿になる専攻のない場合、たとえば、自然科学系)

・2～4学年対象に、三田に演習科目を設置(2004年度から)。

・日吉教員が卒論指導まで行うことも検討。

B. 経済学部

1. 科目名・開講形態

「自由研究セミナー」

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

通年／半期両方あり。

1・2学年で履修できる科目の中で、総合教育科目の第Ⅲ系(総合・関連系)に含まれる。単位数は2または4。同一担当者でも内容が異なる場合に限り、複数履修することができる。

(注)総合教育科目は卒業までに20単位以上(Ⅰ系6、Ⅱ系10単位)を取得しなければならないが、必ずしもⅢ系からとる必要はない。

②担当教員

専任教員(日吉・三田)

③併設の有無

併設あり。

3. 科目設置の時期・科目の変遷

・1954年度から開講(科目名「自由研究」)

・第2学年にプロゼミナールを設置する。

・日吉教員も開講しているが、あくまで三田の授業の前提という位置づけであったと思われる。

・1965年度の履修要綱には、「自由研究—日吉ゼミナール」開講の記録がある。

・1971年度から「自由研究Ⅰ、Ⅱ」が開講されている。Ⅰにはカッコ書きで「日吉セミナー」と付記されている。

Ⅱは三田の専任による授業。第2学年しか履修できない。

・1992年度までは「自由研究」として、2単位科目。

・1993年度、カリキュラム改革の一環として、現行の「自由研究セミナー」が発足。4単位に拡大された(4単位になったことで、逆に履修者数が減少するという傾向もある)。

4. 目的・理念

少人数教育の重視。教師と学生間のコミュニケーションを密にするため。

5. 現状

①2004年度開講数・担当教員内訳

通年 31 (春集中を含む)

日吉 18 (人文13, 社会2, 自然3)

三田 13

半期 3

日吉 1 (人文1)

三田 2

計 32.5

②開講数・担当者・期間・分野の推移

・「自由研究Ⅰ・Ⅱ」

1970年代 30～40コマ。

1980～92 45～57コマ(最高66コマ)。

・「自由研究セミナー」

表2のとおり。

表2 「自由研究セミナー」(経済学部)の開講数・担当者・期間・分野の推移

	2001 年度	2002 年度	2003 年度
開講数(通年換算)	39.5(半期 1.5)	35(半期 1)	38(半期 1)
担当者(三田)	18	19	19
(日吉)	23	17	20

表3 「自由研究セミナー」(経済学部)の履修者数野の推移

	2001 年度	2002 年度	2003 年度
履修者数	365 名	380 名	407 名
最小クラス人数	2 名	1 名	1 名
最大クラス人数	47 名	67 名	60 名

・履修者数の推移

表3 のとおり。

6. 特徴・問題点

①特徴

日吉の少人数教育の中で最も古い歴史を持つ。

②問題点

少人数セミナーなのに履修者数が多い授業も。三田のゼミによる「青田刈り」の現象が起きている場合もある。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ、今後の展開

「研究プロジェクト」との関連

参考：研究プロジェクトについて

2 タイプ

a. 誘導展開型

講義要綱に載っている授業の中から選択し履修する従来の形。

b. 自発展開型

学生自ら研究計画を立て、自分のつきたい教員に開講を依頼する。

教員個人の判断だけではなく、コーディネーター役の教員のチェックが必要。

中間発表をし、最後は Web 上で学習成果を公開する。

C. 法学部

1. 科目名

「人文科学特論」「自然科学研究会」

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

人文科学科目、自然科学科目

②担当教員

担当教員：担当しているのは、すべて日吉の専任教員である。自然科学では6名、人文では8名(2004年度)。

③併設の有無

併設あり。

3. 科目設置の時期・科目の変遷

・1983年頃に「一般教育研究会」としてスタート。三田の教員は含まれない。人文と自然の区別はなかった。

・当時の一般教養科目(現在の総合教育科目)はほとんどが大人数講義科目であったため、外国語などを教えている日吉所属の教員も外国語を教えるだけでなく、各自の専門に近いヴァリエーションに富んだ主題を、少人数の演習形式で教えようというところから始まる。

・10年ほど前に、「人文科学特論」「人文科学研究会」

表4 「人文科学特論」「自然科学研究会」(法学部)の開講数の推移(通年換算)

	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度
人文科学特論	11	9.5	9	7.5
自然科学特論	3	3	3	5

「自然科学研究会」という名称になる。

・人文系は、「人文科学特論」が日吉、「人文科学研究会」が三田という区別で、いずれも20名程度の少人数クラスになっている。担当しているのはどちらも日吉の教員であるが、特論と研究会の両方を担当することはない。

・自然科学系は、日吉・三田いずれも「自然科学研究会」という名称で少人数クラスになっている（「自然科学特論」は少人数科目ではない）。

4. 目的・理念

趣旨は、大人数講義から少人数演習授業、各教員のそれぞれの専門を活かした教育、といったところ。日吉の教員が、三田の教員のように学生と少人数で接して、専門に近いことを教えるという喜びを得る一方、専門だけではない知識や研究の喜びを学生にももって欲しい、ということ。

5. 現状

開講数の推移は表4のとおり。

6. 特徴・問題点

①特徴

- ・いずれも、10人から20人の少人数クラスとなっている。
- ・研究会も特論も卒業単位となる。これが履修数の安定を保っていると考えられる。
- ・さらには、専門とまったくことなる分野を学びたいという学生のニーズにこたえているとも言える。

②問題点

開講コマ数が少ない。ただし、専門基礎として半期科目の「演習」が多数設置されている。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ、今後の展開

①三田での展開

三田の少人数セミナー「人文科学研究会」「自然科学研究会」との関連。

②副専攻認定制度

- ・ゼミナール→卒業発表・成果発表→認定証発行(学部長名)
- ・学生が自分でプログラムを組み立てる。
- ・履修すべき科目を指定しておらず、学生自身が法学部のみならず他学部設置の授業から、興味のある科目

を見つけ履修する。その後、三田で「人文科学研究会」「自然科学研究会」を履修し、日吉で2年間積み上げたものをさらに深める。

参考：「自然科学特論」および「自然科学研究会」の状況
ともに日吉設置の授業で「研究会」が20名程度の少人数、「特論」が100から300人の講義となっている。この10年前の改正でも、地域文化系講義開設と同時にこのような設置となり、やはり教員がそれぞれの専門を教育の場で生かしている環境作りの一環として整備された。

D. 商学部

1. 科目名

総合教育セミナー

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

主として通年。

総合教育科目Ⅰ類(自然科学)、Ⅱ類(人文・社会科学)、Ⅲ類(学際的・総合的科目)

②担当教員

日吉専任教員を主体とする。三田教員も少数ながら担当する。

③併設の有無

併設あり。

3. 科目経緯の時期・経緯

- ・前史として、1965年度からすでに「研究会Ⅰ」という名称で少人数セミナーが開講される。毎年、10～22クラス。1972年度からは、三田の教員も担当している。
- ・「総合教育セミナー」という名称での少人数セミナーは、1993年度より開講される(1991年度よりカリキュラム検討委員会において検討)。

4. 目的・理念

①少人数クラスで、教員の専門についての教育を通じて、大学で学ぶということがどういうことであるかを知る。

②3, 4学年のゼミと相似の形式の科目を日吉でも開講する(三田の専門課程の教員のなかで強く必要性を訴える教員がいたという)。

③クラス担任制が機能を果たさなくなっていく中、教員

表5 「総合教育セミナー」(商学部)の現状

		2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度
開講数		21	25	26	28
Ⅰ類(自然科学)		8	9	10	9
Ⅱ類(人文社会)		12	14	14	16
Ⅲ類(分野横断・総合的)		1(留学生セミナー 1)	2(内 留学生セミナー 1)	2(内 留学生セミナー 1)	3(内 留学生セミナー 2)
担当者	三田	1	1	1	1.5 (0.5は日吉教員との 共同担当)
	日吉	22	24	25	26.5

と学生の相互の顔の見える授業が必要であると考えられた。

5. 現状

表5 のとおり。

6. 特徴・問題点

①問題点

a. 全学生が履修することが望ましいという考え方はあったが、担当教員の数が足りないため、実際にはそれは実現していない。

b. 共通の教育目標・理念がない。個々の教員の自助努力に任されている。何をやるべきかが見えない。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ、今後の展開

①三田との関連性

「関連課題研究」との関連

参考：関連課題研究

広い意味での商学——“専門に横串を刺す”：複合的な要因が絡みあって、変化を遂げている現代の状況においては、商学部の専門的な知識だけではなく、幅広い分野の知識が必要である——という認識から、2005年度からのカリキュラム改革で新たに設けられた科目。

商学部の専門だけではなく、いろいろな文化、社会、あるいは自然科学などについての幅広い知識が必要であり、そこに日吉の教員の協力が必要である。

教員の専門に近い教養教育をすることによって、幅広い知識を学生に身につけてもらうということが授業の主旨。

おそらく、1・2年で展開される総合教育セミナーとつながるような形で動いていくのではないかな。

②今後の方針

- ・2005年度から、拡大して、日吉の全教員が担当する。
- ・2005年度46コマ開講。

(A) 目的

a. 「教員と学生との人間的接触を重視する」という学部の基本理念を実現するため。

b. 学生の問題発見・問題解決能力を早い時期から養成する。

(B) 開講形態

通年／半期両方あり得る。

(C) 拡大に向けての取り組み

a. 勉強会開催

教員間でのノウハウの交換。

b. ガイドラインの作成

・講義ではなく、学生の自主的な勉学やプレゼンテーションを中心に授業を組み立てる。

・内容は教員の専門や、あるいは専門ではなくても、学生に広く資するものを扱う。

・学生の自発的な勉学を奨励すること。レポートの書き方の基本を学べることが望ましい。

E. 理工学部

1. 科目名

「総合教育セミナー」

2. 開講形態・担当教員・併設の有無

①開講形態

総合教育科目(日吉設置、1・2年生対象)

②担当教員

専任教員(日吉・矢上), 非常勤講師

③併設の有無

併設あり。

3. 科目設置の時期・科目の変遷

・1996年度からのカリキュラム改革の一貫として設置された。

・当初, 25 クラス(1 クラス上限 20 名) 最大 500 名(一学年の半数)が履修可能。

・2, 3 年前から 300 名程度履修。

4. 目的・理念

理工学部では, 学生の価値観の急速な多様化や科学技術の先端化・グローバル化に應えるために, 学部・大学院の教育・研究システムの大改革を行なった。学部改革では, 1996 年度からスタートした新カリキュラムで, 人間と社会に対する深い洞察力を養成することを目的として, 従来の一般教育科目に代わる「総合教育科目」を設置した。その目玉の一つが, 自らの問題意識に基づいて自発的に調査・探求する行動力と, 断片的知識をまとめ上げる想像力を養成することを目的とした科目「総合教育セミナー」である。この科目は, 理工系学生に新たな自然観・人間観・社会観を形成するために, 言語に根差した思考力と発信力を身につけさせるための演習科目である。

5. 現状

① 2004 年度開講数

I (春学期) 13 (自然 4, 社会 2, 人文 7)

II (秋学期) 10 (自然 4, 人文 6)

計 23

② 2004 年度担当者内訳

日吉教員 8 名, 矢上教員 4 名, 非常勤 4 名

③開設コマ数の変遷

17 ~ 25 コマ(半期科目, 年度によって開設数が異なる)。表 6 参照。

④分野

主に自然・人文科学

6. 特徴・問題点

①特徴

a. テーマは, 各教員に任される。

b. レポート・論文を小冊子にまとめるケースもあり。

c. 授業アンケート

内容

・自己申告による出席率。

・セミナーを実際に履修してみて感じたこと。

・履修した結果, 日本語の文章能力があがったか。

・人前での話し方が上達したと思うか。

学部全体で集計結果を出す。

d. ガイダンス

専用のチラシ(A4 カラー両面)作成配布。

e. 1996 ~ 97 年度 共同研究「理工学部『総合教育セミナー』の効果的運用に関する研究」(慶應義塾学事振興資金)。

成果『理工系大学生のための日本語文書知的作成法』。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ, 今後の展開

・2004 年度から特色 GP により, 重点的に予算が与えられる。機材・非常勤講師・TA の充実をはかる。

表 6 「総合教育セミナー」(理工学部)の開講数の推移

		2001 年度	2002 年度	2003 年度
開講数 ([] 内は通年換算)		21 [10.5]	21 [10.5]	17 [8.5]
担当者	日吉教員	8	7	7
	矢上教員	7	6	4
	非常勤講師	3	5	3

F. 教養研究センター

1. 科目名

「スタディ・スキルズⅠ,Ⅱ」(2004年度から正式開講)

2. 開講形態, 担当教員, 併設の有無

①開講形態

主に1, 2年生を対象として, 教養研究センターで開講。単位数は半期²⁾。

②担当教員

各学部教員。

③併設の有無

すべての学部の学生を対象として開講されている。2003年度秋学期は無単位。2004年度は, 文・法・商・看護医療学部で卒業要件単位として単位取得できるようになった。ただし, 経済学部, 理工学部, 医学部, 総合政策学部, 環境情報学部は自由科目。

3. 科目設置の時期・科目の変遷

2003年度秋学期に, 教養研究センターの実験科目として開設。2004年度より, 正式なセンター開設科目となる。

4. 目的・理念

- ・「自ら考え, 選び, 学ぶこと」の体得。
- ・問題を発見し, 解決する能力, 学問的・知的作業のためのスキルを身につける。

5. 現状

①2004年度開講数

半期 4

②担当教員の内訳

法学部⁴⁾, 商学部²⁾, 理工学部¹⁾, 医学部¹⁾, 体育研究所¹⁾(すべて日吉所属)。

6. 特徴・問題点

①特徴

・Ⅰ,Ⅱを連続履修することを推奨し, 秋学期においてはオムニバス形式の連続講義「生命の教養学」あるいは「身体／感覚文化」とリンクした内容の調査・研究の練習を行う。

・さまざまな学部の学生を対象とし学部横断的な教育の試みを行っている。

・学部の異なる教員が複数で担当し, 教員自らも学びあう(Faculty Developmentの試み)。

・他の教育研究プロジェクトとリンクさせながら, 教材開発も同時に進めている。

②問題点

・教育内容・方法など確立してない面が多いため, 試行錯誤的に授業を進めざるを得ない, そのための不効率の問題となっている。

・教育効果の測定方法が確立されていないため, 評価が難しい。

7. 学部教育全体・教養教育全体における位置づけ, 今後の展開

・この授業は, 教養研究センター設立当初のメンバーが中心となって行った『教養教育グランド・デザイン』(文部科学省委託研究 2002)³⁾のなかでモデルを打ち立てた授業を実験的に行ったものである。このモデルにおいて, 「スタディ・スキルズ」は, 教養教育の基礎・基盤を身につけるための授業として新入生を対象として行うものである。専門領域の知識ではなく, 学問の手続きやルール, 学問的思考方の基本を学ぶ。

3) 11 ページ, 注 2) を参照。

第5章

科目設置の決定機関

本章では、科目設置の決定機関と設置の手順、およびその問題点について論じる。総合教育科目には、各学部によって設置されるものと、諸研究所が設置するものがある。諸研究所設置のうちのほとんどを占めるのが体育研究所の設置する体育関係の科目である。本章ではまず、1.において学部設置の総合教育科目が学部内部でどのような手順で設置され、どのような手順で共通科目となるかについて述べたあと、2.で学部設置の共通総合教育科目をめぐる問題点とこれに関する提言を行う。次に3.では、体育研究所が設置している科目について、その歴史的経緯と現状、および問題点について述べることにする⁹⁾。

1. 科目設置の決定機関について (学部設置科目の場合)

1) 科目設置の手順

第1章のデータで明らかにしたように、学部共通の総合教育科目の設置形態は、非常に複雑で多様である。それは、学部共通科目が複雑な経緯をたどって設置されることも関係している。

一般的には、新しい科目を立てる場合、ある学部の科目担当部局(または諸研究所)が提案をし、学部のカリキュラム案を決定する委員会¹⁰⁾の承認、および教授会または学部会議の決議を経て行われる。その科目の担当者の人選は科目を設置した学部で行われる。こま

での手続きが終了した時点では、当該学部の学生のみを対象とする授業ということになる。総合教育科目の場合、多くのケースでは、設置母体学部が他学部の学生の履修を認めると判断したあと(学部オープン)、併設を呼びかける。併設とは、その授業の設置母体以外の学部が、自らの学部カリキュラムに含まれる科目として認めることを言う。その科目がどの種類の科目として単位認定されるかは、併設をかけた学部の判断による。つまり、ある一定の学部横断的機関(たとえば日吉主任会議)が、共通科目にするかどうかの判断・認定を行うという仕組みにはなっていない。併設を行うかどうかは、あくまでも母体学部と併設を行う学部相互の判断による。これは、学部学生の教育は、当該学部が責任をもつという原則に従った措置である。

学部オープンと併設の制度は、学生に幅広い選択肢を与えるというメリットがある反面、レベルや内容分布の調整、評価方法などで著しいばらつきを生み、モラルハザードを起こしている面があることは否めない。

2) 責任体制について

いったん科目を設置し、併設がかかったら、他学部のカリキュラムとの関係も生じて、科目を整理したり廃止したりすることは難しい。そのため、過去数十年の歴史の中でさまざまな経緯で設置された多数の科目が、お互いの関係性を省みることなく累々と蓄積されている。これらは、目的をもって計画されたというよりは、む

しろ予定調和的なバランスで諸科目が布置されているというのが、日吉キャンパスにおける総合教育科目の現状である。

内容のバランス分布、レベル、評価方法、履修対象者などについての調整は、科目によってきわめて多種多様な方法で行われている。「第1章 1. 3) 科目設置母体と調整のパターンについて」で明らかにしたように、科目間の調整は、大きく分けて7つのパターンで行われている(10～11ページを参照)。調整の問題は、専任教員の所属という問題も絡んで複雑である。現状は、何か問題が起きた際に、その場限りのプラグマティカルな方法で対症療法的に対処するということになっている。長期的な視点で改善を行ったり、バランスをとったりということは、不可能な構図になっている。

設置母体が単一で、専門課程をもつ学部が設置する科目(あるいは分野)に関しては、ある程度の統一がとられていると考えられる。また、自然科学の科目のように設置母体が複数であっても、日吉に学部を超えて「教室」という単位の専任教員のグループが形成されている場合も、ある程度科目間調整が行われている。

しかし、設置母体が単一でない科目などには、調整や学部間での相談がまったく行われていないというケースも少なくない。内容やレベル設定が、科目担当者に全面的に委任されているケースが非常に多い。これは、総合教育科目に対する学生のインセンティブと教員・学生双方のモラルの低下の一因になっていると考えられる。

3) 部門会議、日吉主任会議、学習指導連絡会議

科目設置の学部間の調整の機能は、部門会議がもつという考え方は、日吉所属の一部の教員に存在する。

人文科学部門会は、次年度の科目設置計画が出揃った段階で、人文科学部門に関係する学部共通科目の増減、担当者の変更について検討し、担当者が新任であった場合には、その履歴書を回覧し、担当者の適正について審議をしている。しかし、学部共通科目として認められるためには部門会議の承認が必要であるという、学事上の規則はどこにも存在していない。人文科学部門に関して言えば、この会議は学部共通科目間のバランスについて、専門的な立場から検討できる唯一の機関ではあるが、学則上の裏づけがまったくなく、明確に規定された権限もないため、多くの教員がこの会議への出席を義務とみなしていない。そのため、調整機関としての人文部門会の役割は非常に限定的である。

自然科学関連の科目は、学事上の調整を部門会単位ではなく、教室単位で行っている。以前は自然科学の多くの科目が、各学部別々に開設されていたが、現在はすべて共通科目となって、カリキュラム上の調整も教室単位で行われるようになってきている³⁾。

社会科学関連の科目に関しては、科目間の調整は公式の会議体ではまったく行われていない。

日吉主任会議は、学部間の共通科目について最終的な調整を行うことになっているが、すべての科目に関する設置コマ数、担当者、内容、評価に関する事柄をここで検討することは、不可能である。2004年度に学部間の科目調整等について話し合うために、日吉主任、学習指導主任と学事センター課長から構成される学習指導連絡会議という会議が設置された。この会議は部門主査、研究所所長等を加えて拡大で行うこともある。しかし、現時点においては、その活動は、現状の問題点に関する意見交換を行うにとどまっている。

1) 1961年以来独立した機関としての歴史をもつ体育研究所は、専門家の集団として、科目設置については明確な責任体制をもって行っている。その一方、専攻の学生や所属学生を擁していないという機関の性格上、各学部のカリキュラムとの調整でしばしば困難が生じている。研究所設置科目の抱える問題と学部設置科目の抱える問題は根本的に異なることから、本章では、体育研究所設置の共通科目に関して、別途節を設けて検討することとする。

2) たとえば、文学部は運営委員会、経済学部はカリキュラム委員会、商学部は研究教育委員会。

3) 本調査の対象期間である2001～2003年度では生物学や心理学などの科目がまだ完全には学部共通科目として取り扱われていなかったが、2004年度において主要な科目がほぼすべて共通化されている。

2. 問題点と提言

多様な科目が設置され、多様な知のかたちが提供されているということは大学の財産であり、それがさまざまなかたちで選択可能であるということ自体は、学生にとって間違いなくメリットである。しかし、その多様さが無秩序につながるとするならば、問題であろう。

現代の大学は、選ばれた少数のエリートに対して、エリートのシンボルとしての教養を提供する機関ではもはやない。このようなかつての教養観に基づく教養教育であるならば、大学は学生にも教員にも無限大の自由を与えていれば良かったかもしれない。しかし、今日大学が前提としている状況は、かつてとはまったく異なっている。学生の資質、興味、ニーズに応じて、時代を切り拓くにふさわしい知を提供し、目的を明示したうえで、評価を通じて内容を向上させてゆくシステムは、現代の大学に不可欠である。

しかしながら、現在の科目の設定形態は、ほとんど把握不可能なまでに複雑であり、そのため、責任の所在があいまいになってしまっている。現行の制度下にあっても、ほとんどの授業では多くの担当教員の努力によって一定のレベル、教育水準と効果が保たれているという面はたしかにある。しかし、目標設定に関する認識がまちまちで、担当者の自由裁量の割合が極めて大きく、大学全体としてのミッションや、各授業のカリキュラムのなかでの位置づけなどが、専任教員から非常勤講師にいたるまでの個々の担当者に浸透していない。この現状が、多数の学生のモラルの低下(すなわち労力をかけずに単位が取得できる方策をさがす行動——いわゆる「楽勝科目」の問題——など)を招いていることは、直視しなければならない。

これらの問題はそのほとんどの部分が、科目配置、分野配分、レベル決定、評価方法の指針、対象学生と担当者の割り当てなどを、責任をもって調整する機関が存在していないということによって生じていると考えられる。

これらのことが、調整できるのは、やはり同一あるいは近接分野の専門家からなる集団ということになるであ

ろう。現状では、調整が比較的うまくいっている例としては、専門課程をもつ学部を担当部会が一元的にオーガナイズするパターンと(たとえば哲学)、日吉キャンパスに設置された複数学部の教員が所属する教室が一元的にオーガナイズするパターン(たとえば物理学)がある。両者は、組織的には対極にあるが、複数の専門教員が責任をもって全体を見渡し、人事の提案も含む決定を行うことができるという点では、共通している。

したがって、上記に述べた科目設置と調整の問題に対処する短期的な改善策としては、科目の設置と運営に関して、責任がもてる専門家の集団を編成しなおし、その機関に目標の設定と評価を明確にする責務を課すと同時に、その機関にある程度の決定権限(あるいは専門的な立場からの提案の権限)を与える、ということが考えられる。もっとも、この機関が特定の利益代表機関とならないように、また独善的な判断を行わないように、教育学的な配慮をもってチェックする方策をきちんと論議する必要がある。

長期的に見れば、専任教員が学部に分属している人事体制も検討し直すべきかもしれない。現在、総合教育科目を主に担当する専任教員は、学部の専攻に関係なく人事配置されている。専任教員の配置は、学部の専管事項になっているが、本研究で明らかにしたように、総合教育科目の複雑な配置からいって、ある学部の決定が他の学部の教育に及ぼす影響は非常に大きい。専任教員の配置が、歴史的経緯の偶然によるものであって、それが何らかの教育的必然性によるものではないとするならば、見直してしかるべきであろう。

各学部とも、専門課程のカリキュラムに関してはかなりの力を入れて近年改革が進められている。それに対して、一般的な教養教育は、一時代前の放任主義がまだ継続している。専門教育と教養教育が決して対極にあるものではなく、相互補完的なものであり、現在行われている専門教育というものも決して職業教育ではなく、教養教育的側面をもっているということを認識して、新しい時代の慶應義塾の教育のかたちを創生すべきであると考える。

3. 体育研究所設置科目

1) 保健体育科目設置の経緯

体育研究所が設置する保健体育科目4科目(保健衛生1単位, 体育理論1単位, 体育実技2コマ各1単位)は, 1949年の新制大学の発足と同時に必修科目として各学部設置された。当時, 保健体育科目の設置母体としては体育委員会があり, 各学部長, 各学部体育関係教員, 体育会理事, 実技指導委員長, 教務課長が, カリキュラムの企画等について審議・決定していた。

1961年にはそれまで各学部所属していた保健体育科目担当教員が, 新たに設置された体育研究所所属教員となり, 体育研究所が保健体育科目のカリキュラムを企画・立案し, 体育委員会がこれを審議・決定するようになった。その後カリキュラムの展開は体育研究所主導で検討されるようになった。

1991年の大学設置基準の大綱化を受け, 1993年度以降各学部ではカリキュラム改定が行われた。それに伴いこれまで必修科目であった保健体育科目は, 選択科目となった。この学部カリキュラムの改定に合わせて体育研究所は新たなカリキュラムを検討, 次年度以降学生のニーズに合う授業展開を試みている。

2) 科目設置の決定機関と設置の手順

現在, 保健体育科目には以下の4科目がありそれぞれの科目設置の決定は各学部が行う。しかし, 科目内容・設置コマ数とその展開については体育研究所が中心となり検討を行い決定している。保健衛生については保健管理センターの協力のもと行われてきた。

各科目の展開とその内容については以下の通りである。

①講義科目

・保健衛生(1単位)

保健衛生は医学部出身体育研究所専任教員が中心となりカリキュラムの展開を行ってきた。しかし体育研究所専任教員の専門の変化に伴い, 保健管理センター専任教員の協力を得る度合いが大きくなってきた。1993年度の保健体育科目の必修科目から選択科目への移

行にともない, 大幅に履修者が減少したため2000年度より授業内容の変更と授業コマ数の大幅減という調整を行った。履修学生数は必修時の1/50まで減少。

・体育理論(1単位)

体育理論は1993年度の学部カリキュラム改定以降, 専任教員の授業開講希望を基に, 所内カリキュラム編成担当委員会が科目の性格や位置付けについて検討し, 調整を行っている。科目名には授業内容を反映した副題をつけることとし, 授業内容の多彩な展開を目指した。現在の授業内容は運動生理学, トレーニング科学, スポーツ心理学, スポーツ社会学など多岐にわたっている。履修学生数は必修時の1/25。

②実技科目

実技科目は体育実技Ⅰと体育実技Ⅱからなり, 体育実技Ⅰは, 各学期中の決められた曜日時限に行われるものであり, 体育実技Ⅱは夏季または冬季休暇中に行われる。

・体育実技Ⅰ(1単位)

体育実技Ⅰは, 必修科目であった1992年度までは, 男子学生は体操, 剣道, バスケットボール, 水泳の組み合わせまたは陸上競技, 柔道, バレーボール, 水泳の組み合わせのいずれか指定された授業を必修として履修することとなっていた。また女子学生は女性体育教員が担当するダンス, 球技(バレーボール・バスケットボール), 水泳等からなる女子体育を履修していた。1993年度以降, 選択制になったことをきっかけに男女共修のスポーツ種目を中心とした授業展開に変わり, 毎年学生のニーズに合わせてつつも体育科目としてふさわしい授業の展開を体育研究所で検討し実施している。履修人員は必修時代の1.3倍。

・体育実技Ⅱ(1単位)

体育実技Ⅱは, 必修科目であった1992年度までは体育会OBより選出された実技指導員が先輩補助員, 学生補助員と共に指導。40種目に及ぶスポーツ種目を展開していた。選択制になって以降も同様の展開をしていたが, 履修者数が激減したため, 不人気種目を閉講すると同時に, 体育実技Ⅰに移行可能な科目は移行するように調整した。履修者数は必修時代の1/7。

1993 年度より実施された各学部のカリキュラム改定に伴う保健体育科目の授業内容の検討は、「内容の多様化」と「選択肢の拡大」という学生ニーズに合わせたものである。すなわち、実技科目におけるスポーツを通しての身体活動と、それに伴う健康の維持・増進、そしてスポーツ種目の持つ社会性の涵養といったねらいをいかに多くの学生に伝えるかを考えた場合、選択制となった以上は、学生のニーズに合わせた展開が一番好ましいと考えられるからである。しかし、多様なスポーツ種目を展開しているにも関わらず、科目名にはあくまでも「体育」を使用しているのは、保健体育科目があくまでも教育的意図を持って、スポーツを手段として用いてなされることを明確に示す意図からである。

3) 問題点と今後の展開

1992 年度までのカリキュラムでは、施設と指導人員からみて上記 2) に示したカリキュラム展開以外、不可能な状態であった。1993 年度以降、体育研究所は保健体育科目の展開について検討を続け、学生のニーズに合った多様な展開を試みたことにより一応の成果を見

ている。しかし、必修時代は各学部とも保健体育科目を同様に扱っていたが、1993 年度のカリキュラム改定以降、その扱いは学部によって大きく異なる状況が続いている。現在の学部中心のカリキュラムの決定方式では、保健体育科目の意義などについて、塾内で統一した考えを打ち出すことが難しいのが現状である。各学部が保健体育科目をどう扱うかについては、ある程度統一した方針を打ち出すことが必要であると思われる。統一した方針が出されればさらに有効な、魅力あるカリキュラムを展開する可能性が開かれる。

また、体育研究所では、各学部が設置する総合教育科目との整合性を図るような科目設置の仕方を模索している。2004 年度には従来の保健体育科目を体育科目と改称し、体育学講義(半期 2 単位)、体育学演習(半期 1 単位)、体育実技 A(半期 1 単位)、体育実技 B(半期 1 単位)の 4 科目編成とすることにした。従来の保健衛生は体育学講義の中に組み入れられ、その一部として展開されている。それと同時に、成績評価の方法や学生の授業評価等についても検討を加え、第三者評価に堪え得るものとなるように変更している。

第6章

履修登録の問題

1. 「講義要綱」と「履修案内」の作成について

各年度4月に刊行され、学生に配布されている「講義要綱」については、以下のような問題点が指摘されており、早急の改善が望まれる。

- ①「講義要綱」が冊子として大部で(400ページ弱)、持ち運びに適さないため、ガイダンス期間中に学生がキャンパスで情報をチェックしたり、授業の教室に持参することがなされにくい。そのため、学生主体で発行している履修案内誌など、他のより簡便な情報手段を利用するか、あるいは、授業内容からではなく時間割の都合だけで授業を選択するケースも多いという。(前者の利用については、その便利さの反面、偏った情報や評価によって、履修選択に大きな混乱や問題を引き起こすケースが見られる)。
- ②「講義要綱」では、「日吉設置共通授業科目」が五十音順に配列されており、「宇宙の科学、映像・音響文化論、音楽……」と何の内容的な脈絡もないままに、個別科目が記載されている。内容的に近接する科目でも、名称に応じて離れて掲載されることも多い。これは、系統的に授業を選択しようと望む学生や、特定の関心から授業を選ぼうとする学生にとって、甚だ不便である。
- ③各授業の概要が担当教員に任されているため、記述法がまちまちで、必要な情報が適切に記載されているとは言えない場合も見られる。

このような問題点に対して、以下の改善案を提言する。

- ①「共通授業科目」の記載の配列を、五十音順から、分類(系)ごとに整理し、全体の見取り図(目次)をつける。「分類(系)」としては、当基盤研究で作成した「科目分類の試み」(20ページ参照)が一つのモデルとなろう。その趣旨は、学生が選択にあたって、学問の全体像や関連科目への見通しをはっきりと持ち、自覚的かつ系統的に科目選択をする助けとすることにある(なお、「講義要綱」には現在でも、科目名・教員名の「索引」がついているので、五十音順を変えることに不都合はない)。
 - ②「講義要綱」については、冊子だけでなくWeb上に同じ情報を掲載し、系統やキーワードから自由に検索できるようにする。たとえば、学生が「人文、哲学、カント」と入力すれば、それを含む科目の情報が検索されるように工夫する。
 - ③「時間割」は、これまで学部ごとに個別に作成されてきたが、「共通授業科目」については、全学の情報が盛り込まれた「共通時間割」を作成する。
 - ④また、「時間割」とWebをリンクさせ、たとえば、「火曜2時限」と入力すると、その時間に開講されている科目が検索でき、その授業案内を閲覧できるようにする。
- 「講義要綱」についての、以上のような具体的な改善は、日吉設置の学部共通総合教育科目を全体として整

理して受講させることにつながる。そのために、現在各学部がそれぞれ作成している「履修案内」を将来的には統合し、科目配置を念頭においたより系統的な履修指導を行っていく必要があろう。

2. 履修者数と「楽勝科目」の問題

科目の履修に関しては、履修登録時の人数制限、及び単位取得にあたっての難易度（いわゆる「楽勝科目」など）が問題として指摘されている（それら二つの問題には重なる部分もある）。

1) 履修登録制限についての問題

現在、科目履修の登録にあたり、教室の規模や教育効果上の理由から人数制限が設けられており、それにより希望科目を履修登録できない学生が多数生じている。また、最初に希望した科目を履修できなかった者が、学期の途中から他の科目に新たに登録する事態が生じ、それによってそれらの科目の授業運営にもしばしば不都合が起こっている。受講する学生からすれば、ガイダンスを含む数回の授業をすでに欠席していることになり、教員としては、最初から授業に出席している学生と進度を合わせる特別の配慮が必要となるからである。そういった事情から、追加履修の学生が途中で脱落する場合もしばしば見られる。

この問題については、まず現在の「履修者制限」の状況を正確に把握するために、具体的な調査が必要である。その際、問題が、開講コマ数と希望学生数との不釣り合いから生じる恒常的なものである場合には、科目や時間の増設が必要であろう。また、年度によって同一科目に大きな人数のばらつきが生じることもあり、時間割の組み方の問題である可能性もある。その場合には、同じ時間帯に多くの科目が重なってしまったり、逆に、開講科目が少ない時間帯がでるなどの不釣り合いを、出来るだけでなく調整も必要であろう。

やむなく履修者制限を実施する場合も、抽選がよい

か、他のやり方（レポート、試験）がよいか、どのように振り分けるかは、今後慎重に検討すべきである。不公平がないことも重要であるが、学事センターなどに過度の事務負担をかけないような方策が望まれる。

また、履修をはずれた学生が、五月に入って別の科目に追加履修登録をする場合も、それまで出席しなかった数回の授業をフォローするように、担当教員との面接を持たせる必要がある。

最後に、実技科目を中心に、履修登録後に「取り捨て」をする学生が出て、それによって授業運営に支障をきたすケースがある。一旦履修した上はきちんと受講させる方策も今後の課題である。

2) 単位取得の難易度の問題

特定の科目や教員が「楽勝」とであると学生の間で評判がたつと、実態とは無関係に受講者がその科目に流れる場合がある。そのような場合、出欠の確認やレポートの添削などが難しくなり、より細やかなケアを施すことが困難となり、結果として実際に「楽勝」となってしまうケースも出ている。

このような問題が生じないためには、科目設置母体と担当教員とが継続的に協議して、適正な評価法や履修制限を設けることなどに配慮すべきであろう。

「楽勝科目」と呼ばれる科目については、多くの場合、不適正な情報や偏った情報から、実態とかかわりなくそのようなレッテルが貼られる場合も多い。他方で、入門・中級・上級といったレベル設定の必要性や、達成目標の明確化などの措置によって、「楽勝」という認識で一部の科目に大量に学生が集中することを避ける方策が考案されなければならない。

このためには、各学部や各科目の履修ガイダンスで、明確な単位基準や習得目標を提示し、成績評価法についても、できるだけ厳格な意識をもつことが大切であろう（こういった問題の解決にはGPAの導入などが考えられるが、これについては今後十分な論議が必要であろう。第2章5.を参照）。

3. 学生の需要と授業の関係

現在開講されている授業については、学生の「授業評価」をよりシステマティックに導入するよう、慎重に検討すべきであろう。学部や授業科目によっては、これまでに一部「授業評価」が実施されている。しかし、日吉設置の学部共通総合教育科目の全体状況を把握するためには、共通の形式で「授業評価」を行うことが意味をもつ。ただし、学生の一方的な批評にならないように、より公正で有意義な評価方法が検討されなければならない。

学生がどのような授業(内容、形式)を望んでいるかについても、長期的な観点から調査が必要である。その結果を受けて、恒常的に受講人数が少ない場合、たとえば少人数科目やゼミ形式へ移行させたり、授業形態を工夫してその旨を「講義要綱」に明記するなどの改良を検討する余地がある。

総合教育科目については、学生と教員双方のアンケート調査が必要であり、定期的かつ統計的に授業のあり方を検討し、また積極的な意見の吸い上げをはかるべきであろう。

第II部

資料編

資料編データの見方

- 本資料作成年では半期科目より通年科目のほうが多いので、ここでは通年換算した数値とした。
- つまり、半期科目については、設置科目数、半期科目数、設置コマ数、半期コマ数、総履修者数をそれぞれ、1/2 換算した数値を採用した。
- 設置コマ数とは、同一科目を複数コマ行っている場合を含めた数とした。
- 形態数は、講義要綱に掲載されている科目数、つまり延べ科目数としており、半期科目について換算を行っていない。
- 担当者数は、延べ人数とした。同一担当者が、複数科目あるいは複数コマ数担当している場合は、1 名とした。オムニバス形態の場合も、担当した延べ人数とした。
- 総履修者数は、通年のコマを A 人、半期のコマを B 人履修している場合、A+B/2 とした。
- サブタイトルなどの数は、半期科目も 1 科目とする延べ科目数とした。また、半期科目は、サブタイトルの後にその旨示した。
- たとえば、論理学系 (61 ページ) の場合は以下の通りである。

科目名：論理学系（論理学、論理学序論・本論〈半期〉）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		7	7	7
（内半期科目数）		1	1	1
設置コマ数		9	9	9
（内半期コマ数）		1	1	1
形態	講義型	8	8	8
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	1
	専任内訳	三田 1 （文 1）	三田 1 （文 1）	日吉 1 （理工 1）
		日吉 1 （理工 1）	日吉 1 （理工 1）	
	非常勤（客員を含む）	4 （文 4）	4 （文 4）	4 （文 4）
総履修者数		1177.5	1772	1337.5

半期科目も 1 科目とすると 8 科目（内通年 6 科目）

半期科目も 1 科目とすると 2 科目

半期科目も 1 コマとすると 10 コマ
（内通年 8 コマ、内同一科目 2 コマ）

半期科目も 1 コマとすると 2 コマ

半期科目も 1 科目とした延べ科目数

専任教員担当者の延べ人数

三田所属の文学部教員担当者数

日吉所属の理工学部教員担当者数

文学部設置の非常勤教員担当者数

半期科目を換算しない延べ人数は 1341

内容		サブタイトルなど	
2003 年	論理学基礎 (8)	現代論理学の基礎	形式論理学入門
		記号論理学入門	形式的推論の入門
		推論の科学	推論の科学
		思考形式の科学（半期、序論）	思考形式の科学（半期、本論）
2002 年	論理学基礎 (8)	現代論理学の基礎	形式論理学入門
		記号論理学入門	形式的推論の入門
		推論の科学	推論の科学
		思考形式の科学（半期、序論）	思考形式の科学（半期、本論）
2001 年	論理学基礎 (8)	形式論理学入門	推論・知識の形式化
		記号論理学入門	形式的推論の入門
		推論の科学	推論の科学
		思考形式の科学（半期、序論）	思考形式の科学（半期、本論）

＊ 2001 ～ 2003 年度「記号論理学入門」および「推論の科学」は同一曜日にさらに 1 コマ開講されている

＊ 2001 ～ 2003 年度「推論の科学」「思考形式の科学（序論、本論）」は同一教員が担当

＊ 2002 ～ 2003 年度「現代論理学の基礎」は春・秋で異なる教員が担当

科目名：哲学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		12	11	8
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		12	13	12
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	10	10	7
	参加型	0	0	0
	講義と実習	2	1	1
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	3	3	2
	専任内訳	三田 2 (文 1、言文研 1)	三田 2 (文 2)	三田 1 (文 1)
		日吉 1 (文 1)	日吉 1 (文 1)	日吉 1 (文 1)
	非常勤（客員を含む）	10 (文 10)	8 (文 8)	6 (文 6)
総履修者数		1071	977	1145

	分野		時代		サブタイトルなど	
2003 年	現代哲学	(4)	現代	(4)	知識と心	知識と言語
					自然と人間	心のありかた
	西洋哲学史	(6)	古代・中世	(3)	古代ギリシア	西洋古代・中世古典
					基本的諸概念の研究	
			近代	(3)	英国古典経験論	近代思想とドイツ哲学
					フランス哲学	
	東洋哲学史	(1)		(1)	イスラーム思想史	
	比較思想	(1)		(1)	自然を哲学する－東西自然観の諸相	
2002 年	現代哲学	(5)	現代	(5)	知識と心の哲学	哲学的問題を考える
					自然と人間	科学における知識の特色
					論証の積み重ね	
	西洋哲学史	(6)	古代・中世	(3)	西洋中世哲学の根本問題	西洋の古代・中世哲学
					古代ギリシア哲学	
			近代	(3)	西洋哲学における近代	近代思想とドイツ哲学
2001 年					ホワイトヘッド哲学	
	現代哲学	(2)	現代	(2)	哲学的エッセイを書く	科学における知識の特色
	西洋哲学史	(6)	古代・中世	(2)	西洋中世哲学の根本問題	古代ギリシャ哲学の根源的問い
			近代	(4)	デイルタイ哲学	西洋哲学における近代
					人間：デカルト・パスカル・ベルクソン	ホワイトヘッド哲学

＊ 2003 年のサブタイトル「西洋哲学史における基本的諸概念の研究」は，春と秋で教員が異なる兼任

科目名：倫理学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		4	5	6
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		8	9	9
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	2	3	5
	参加型	0	0	0
	講義と実習	2	2	1
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	2	2
	専任内訳	日吉 1 (商 1)	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)
			日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)
	非常勤（客員を含む）	3 (文 3)	3 (文 3)	3 (文 3)
総履修者数		1399	1131	1943

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	倫理学基礎	(3)	アドルノの倫理学	自由と自己
			道徳の基礎論	
	応用倫理学	(1)	倫理から現代を捉える	
2002 年	倫理学基礎	(2)	ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』	自由と自己
	応用倫理学	(3)	討議倫理学	倫理から現代を捉える
			現代倫理学	
2001 年	倫理学基礎	(3)	ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』	価値観の倫理学
			幸福・自由・死	
	応用倫理学	(3)	生命倫理学入門	薬物乱用・倫理学・幸福
			現代倫理学	

＊ 2001 年「価値観の倫理学」と「生命倫理学入門」は同一教員担当

科目名：論理学系（論理学、論理学序論・本論〈半期〉）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		7	7	7
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		9	9	9
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	8	8	8
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	1
	専任内訳	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)	日吉 1 (理工 1)
		日吉 1 (理工 1)	日吉 1 (理工 1)	
	非常勤（客員を含む）	4 (文 4)	4 (文 4)	4 (文 4)
総履修者数		1177.5	1772	1337.5

	内容		サブタイトルなど	
2003 年	論理学基礎	(8)	現代論理学の基礎	形式論理学入門
			記号論理学入門	形式的推論の入門
			推論の科学	推論の科学
			思考形式の科学（半期，序論）	思考形式の科学（半期，本論）
2002 年	論理学基礎	(8)	現代論理学の基礎	形式論理学入門
			記号論理学入門	形式的推論の入門
			推論の科学	推論の科学
			思考形式の科学（半期，序論）	思考形式の科学（半期，本論）
2001 年	論理学基礎	(8)	形式論理学入門	推論・知識の形式化
			記号論理学入門	形式的推論の入門
			推論の科学	推論の科学
			思考形式の科学（半期，序論）	思考形式の科学（半期，本論）

＊ 2001 ～ 2003 年度「記号論理学入門」および「推論の科学」は同一曜日にさらに 1 コマ開講されている
＊ 2001 ～ 2003 年度「推論の科学」「思考形式の科学（序論，本論）」は同一教員が担当
＊ 2002 ～ 2003 年度「現代論理学の基礎」は春・秋で異なる教員が担当

科目名：宗教学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	1 (経 1)	1 (経 1)	1 (経 1)
総履修者数		272	353	335

	分野		サブタイトルなど
2003 年	宗教学概論	(1)	宗教とは何か
2002 年	宗教学概論	(1)	宗教とは何か
2001 年	宗教学概論	(1)	宗教とは何か

科目名：教育学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	4	4	3
	専任内訳	三田 (文 4)	三田 (文 4)	三田 (文 3)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		199	149	196

	内容		分野		サブタイトル
2003 年	教育学入門	(1)	教育史・教育心理学・教育哲学・比較教育学	(1)	教育を相対化する
2002 年	教育学入門	(1)	教育史・教育心理学・教育哲学・比較教育学	(1)	教育を相対化する
2001 年	教育学入門	(1)	教育史・教育心理学・教育哲学	(1)	教育を相対化する

科目名：現代思想論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	0.5	0.5
(内半期科目数)		1	0.5	0.5
設置コマ数		1.5	1	1
(内半期コマ数)		1.5	1	1
形態	講義型	2	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	0	0
	専任内訳	日吉 1 (理工 1)		
	非常勤（客員を含む）	1 (理工 1)	1 (理工 1)	1 (理工 1)
総履修者数		346.5	196	122

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	特になし	(2)	現代	(2)	脱資本主義的生(活)のデザインに向けて(半期)
					現代思想の争点(半期)
2002 年	ヨーロッパ	(1)	20 世紀	(1)	現代思想としての精神分析(半期)
2001 年	欧米	(1)	20 世紀	(1)	現代思想における「人間」概念の変遷(半期)

科目名：言語学系

年度		2003	2002	2001
設置科目数		4.5	4.5	4.5
(内半期科目数)		3.5	3.5	3.5
設置コマ数		4.5	4.5	4.5
(内半期コマ数)		3.5	3.5	3.5
形態	講義型	6	6	6
	参加型	0	0	0
	講義と実習	2	2	2
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	5	5	5
	専任内訳	日吉 5 (経 1、法 3、理工 1)	日吉 5 (経 1、法 3、理工 1)	日吉 5 (経 1、法 3、理工 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		450	500	369.5

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	言語	(1)	言語学概論	(1)	言葉って何だろうと思ったあなたへ
	言語学Ⅰ	(1)	言語学概論	(1)	言語のしくみ（半期）
	言語学Ⅰ	(1)	言語科学概論	(1)	言語の科学への招待（半期）
	言語学Ⅱ	(1)	社会言語学	(1)	ことば・人間・社会・ころ(半期)
	言語学Ⅱ	(1)	認知言語学	(1)	認知意味論（半期）
	言語・文化論	(1)	一般言語学	(1)	文化の反映としての言語（半期）
	言語・社会論	(1)	社会言語学	(1)	英語と社会・英語と世界（半期）
	言語認識論	(1)	認知意味論	(1)	人間の認識・思考と言語の関係について(半期)
2002 年	言語	(1)	言語学概論	(1)	言葉って何だろうと思ったあなたへ
	言語学Ⅰ	(1)	言語学概論	(1)	人間言語の特徴（半期）
	言語学Ⅰ	(1)	言語科学概論	(1)	言語のしくみ（半期）
	言語学Ⅱ	(1)	一般言語学	(1)	言語の構造と機能（半期）
	言語学Ⅱ	(1)	社会言語学	(1)	ことば・人間・社会・ころ(半期)
	言語・文化論	(1)	認知言語学	(1)	ことばと認識（半期）
	言語・社会論	(1)	社会言語学	(1)	コミュニケーションという社会(半期)
	言語認識論	(1)	認知意味論	(1)	人間の外界認識と社会（半期）
2001 年	言語	(1)	言語学概論	(1)	言葉って何だろうと思ったあなたへ
	言語学Ⅰ	(1)	言語学概論	(1)	人間科学としての言語学（半期）
	言語学Ⅰ	(1)	言語科学概論	(1)	言語のしくみ（半期）
	言語学Ⅱ	(1)	言語学概論	(1)	言語のはたらきと人間（半期）
	言語学Ⅱ	(1)	認知言語学	(1)	言語の認知科学的諸問題（半期）
	言語・文化論	(1)	一般言語学	(1)	伝達手段としての言語（半期）
	言語・社会論	(1)	社会言語学	(1)	言語使用の多様性（半期）
	言語認識論	(1)	認知意味論	(1)	人間の外界認識と社会（半期）

科目名：文学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		20	19	19
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		21	20	20
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	19	19	19
	参加型	1	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	17	15	16
	専任内訳	三田 1 (文 1)	日吉 15	三田 1 (文 1)
		日吉 16 (文 2、経 2、法 6、 商 3、理工 3)	(文 3、経 2、法 6、 商 1、理工 3)	日吉 15 (文 2、経 2、法 4、 商 3、理工 4)
	非常勤（客員を含む）	4 (文 4)	3 (文 3)	3 (文 3)
総履修者数		1512	1649	1438

	分野		時代		サブタイトルなど	
2003 年	日本文学	(6)	古典	(3)	上古・近世和歌史	百人一首
					民族学と上代文学	
			近代	(3)	漱石～加藤典洋	鷗外～潤一郎
					近現代文学	
	英文学	(3)	古典	(1)	シェイクスピア	
			近代	(2)	音楽と英文学	現代劇
	米文学	(1)	近代	(1)	歴史と文学，アフリカ系文学	
	独文学	(2)	近代	(2)	ゲーテ，ヘルダー，リルケと 四季派の詩人（日独比較）	ユダヤ人，世紀末～20 世紀
	仏文学	(2)	近代	(2)	19 世紀文学と社会	マルロー，カミュ，ロブ・グリエ
	露文学	(1)	近代	(1)	チェーホフ	
	朝鮮文学	(1)	前近代～近代	(1)	朝鮮文化・文学の歴史	
	世界文学	(1)	古今東西	(1)	詩による認識の拡大	
	その他	(2)		(2)	物語る自己と歴史	創作作法
2002 年	日本文学	(5)	古典	(3)	江戸小説の展開と『八犬伝』	百人一首をよむ
					和歌文学の歴史	
			近代	(2)	日本近代文学とジェンダー	谷崎潤一郎と／の 1920 年代
	英文学	(3)	古典	(1)	シェイクスピア	
			近代	(2)	音楽という視点から見たイギリス文学	現代劇
	米文学	(0)	近代	(0)		
	独文学	(2)	近代	(2)	ドイツの文学	ドイツ文学と・・・
	仏文学	(3)	近代	(3)	『教養小説』の系譜 － 19 世紀フランス文学を中心に	ヴィクトル・ユーゴーと 19 世紀フランス文学
					現代フランス文学入門	
	露文学	(1)	近代	(1)	チェーホフ	

	朝鮮文学	(0)	前近代～近代	(0)		
	世界文学	(2)	古今東西	(2)	名作の吟味	東西の詩
	その他	(2)		(2)	物語ること・自己・歴史	スペイン文学史
	範疇外	(1)		(1)	舞踊論	
2001 年	日本文学	(5)	古典	(3)	江戸小説の展開	百人一首研究
					和歌文学史	
	英文学	(2)	近代	(2)	日本近代文学とジェンダー	志賀直哉を読む
			古典	(1)	シェイクスピア	
			近代	(1)	音楽と接触したイギリス文学	
	米文学	(1)	近代	(1)	アメリカ小説を読む・	
	独文学	(3)	近代	(3)	20 世紀アフリカ系アメリカ文学	
					ゲーテとその時代・文学と近代科学	ドイツ文学と・・・
	仏文学	(2)	近代	(2)	ファウスト	
					ヴィクトル・ユーゴーと19 世紀ヨーロッパ	都市の詩情
						ー 19 世紀のパリと文学
	露文学	(1)	近代	(1)	ドストエフスキーとチェーホフ、	
					小説の面白さ	
	朝鮮文学	(0)	前近代～近代	(0)		
	世界文学	(1)	古今東西	(1)	東西の詩	
	その他	(3)		(3)	文学、実践と研究	イタリアの文学
					物語ること・自己・歴史	
	範疇外	(1)		(1)	舞踊論	

- * 2003 年の「歴史と文学，アフリカ系文学」および「朝鮮文化・文学の歴史」は，春と秋で教員が異なる兼任
- * 2002 年の「百人一首をよむ」と「和歌文学の歴史」は同一教員担当
- * 2001 年の「アメリカ小説を読む・ 20 世紀アフリカ系アメリカ文学」は，春と秋で教員が異なる兼任
- * 全年において「上古・近世和歌史」（2 コマ）と「百人一首」は同一教員担当

科目名：国語国文

年度		2003	2002	2001
設置科目数		4	4	4
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		4	4	4
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	4	4	4
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)
		日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)
	非常勤（客員を含む）	1 (文 1)	1 (文 1)	1 (文 1)
総履修者数		93	125	89

	分野		時代		サブタイトルなど	
2003 年	日本文学	(4)	古典	(4)	絵入り御伽草子を読む	『徒然草』を読む
					国語国文研究 (春：『伊勢物語』、秋：『徒然草』)	西行の和歌
2002 年	日本文学	(4)	古典	(4)	絵入り御伽草子を読む	国語国文研究 (春：『伊勢物語』、秋：『徒然草』)
					西行の和歌を読む	『源氏物語』を読む
2001 年	日本文学	(4)	古典	(4)	絵入り御伽草子を読む	国語国文研究 (春：『伊勢物語』、秋：『徒然草』)
					西行の和歌を読む	『源氏物語』 宇治十帖を読む

＊講読中心の授業。ただし、教員が講読するのか、参加学生が発表するのか不明

科目名：漢文

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	1	1	1
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	0	0
	専任内訳	日吉 1 (経 1)		
	非常勤（客員を含む）	0	1 (文 1)	1 (文 1)
総履修者数		52	60	44

	分野		時代		サブタイトルなど
2003 年	中国文学	(1)	六朝	(1)	『文選』を読む
2002 年	中国文学	(1)	古代・六朝	(1)	中国文言小説選
2001 年	中国文学	(1)	唐	(1)	唐代伝奇講読

科目名：美術

年度		2003	2002	2001
設置科目数		6	6	5
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		9	9	8
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	6	6	5
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	日吉 2 (文 1、理工 1)	日吉 2 (文 1、理工 1)	日吉 2 (文 1、理工 1)
	非常勤（客員を含む）	4 (文 4)	4 (文 4)	3 (文 3)
総履修者数		2356	1984	2092

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	日本	(2)	桃山～江戸	(1)	日本の近世美術
			飛鳥～鎌倉	(1)	日本の仏教美術、彫刻史
	ヨーロッパとアメリカ	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀の美術
	イタリア	(1)	ルネッサンス	(1)	イタリア・ルネッサンスの美術
	西洋(特にフランス)	(1)	19 世紀	(1)	19 世紀西洋美術史概説
	スペイン	(1)	16 ～ 20 世紀	(1)	スペイン美術史
2002 年	日本	(2)	江戸・明治	(1)	日本絵画の江戸、明治
			飛鳥～鎌倉	(1)	日本の仏教美術、彫刻史
	ヨーロッパとアメリカ	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀の美術
	イタリア	(1)	ルネッサンス	(1)	イタリア・ルネッサンスの美術
	西洋(特にフランス)	(1)	19 世紀	(1)	19 世紀西洋美術史概説
	スペイン	(1)	16 ～ 20 世紀	(1)	スペイン美術史
2001 年	日本	(2)	19 世紀	(1)	19 世紀の日本美術
			飛鳥～鎌倉	(1)	日本の仏教美術、彫刻史
	ヨーロッパとアメリカ	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀の美術
	イタリア	(1)	ルネッサンス	(1)	イタリア・ルネッサンスの美術
	西洋(特にフランス)	(1)	19 世紀	(1)	19 世紀西洋美術史概説

科目名：表象文化論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	3	3	3
	専任内訳	日吉 3 （経 3）	日吉 3 （経 3）	日吉 3 （経 3）
	非常勤（客員を含む）	1 （経 1）	1 （経 1）	1 （経 1）
総履修者数		167	121	174

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	仏、米、独他	(1)	主に現代	(1)	フランス短編映画、ニコラス・レイの映画とその時代 フリッツ・ラングの映画美学、自画像／自我像
2002 年	仏、日、独	(1)	現代	(1)	フランス現代映画、マキノ雅弘の映画とその時代 黒沢清の『CURE』、ドイツ語圏の写真
2001 年	仏、 ラテンアメリカ 他	(1)	主に現代	(1)	フランス・ヌーヴェルヴァーグの映画について、 「聖なるもの」の映画体験 ラテンアメリカ映画、自画像／自我像

科目名：音楽

年度		2003	2002	2001
設置科目数		11	11	10
(内半期科目数)		3	3	3
設置コマ数		11	11	10
(内半期コマ数)		3	3	3
形態	講義型	11	11	10
	参加型	2	2	2
	講義と実習	1	1	1
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	3	4
	専任内訳	三田 1 (文 1)	三田 2 (文 2)	三田 2 (文 2)
		日吉 1 (経 1)	日吉 2 (経 1、商 1)	日吉 2 (経 1、商 1)
	非常勤（客員を含む）	7 (文 3、法 1、商 3)	5 (文 3、法 1、商 1)	4 (文 2、法 1、商 1)
総履修者数		1184.5	838.5	1300

	地域		時代		サブタイトルなど	
2003 年	おもに西洋	(13)	17 ～ 18 世紀	(4)	バロック音楽（半期）	バロック音楽
					古典派の音楽（半期）	オーケストラ音楽
			17 ～ 20 世紀	(2)	オペラ史	クラシック音楽
			19 世紀	(1)	イタリア・オペラ	
			20 世紀	(1)	現代音楽（半期）	
			全般	(5)	合唱音楽	音楽理論
					声と声楽（半期）	声と声楽（半期）
					体系的音楽学（半期）	
	おもに非西洋	(1)	全般	(1)	民族音楽学	
2002 年	おもに西洋	(13)	17 ～ 18 世紀	(3)	バロック音楽（半期）	
					古典派の音楽（半期）	オーケストラ音楽
			17 ～ 20 世紀	(1)	クラシック音楽	
			19 世紀	(2)	後期ロマン派近代	イタリア・オペラ
			20 世紀	(1)	現代音楽（半期）	
			全般	(6)	合唱音楽	音楽理論
					体系的音楽学（半期）	鍵盤音楽史
					声と声楽 1（半期）	声と声楽 2（半期）
	おもに非西洋	(1)	全般	(1)	民族音楽学	

2001 年	おもに西洋	(10)	17 ～ 18 世紀	(2)	バロック音楽（半期） 古典派の音楽（半期）	
			17 ～ 20 世紀	(1)	クラシック音楽	
			19 世紀	(1)	イタリア・オペラ	
			20 世紀	(3)	現代音楽 1（半期）	両大戦間の音楽
					現代音楽 2（半期）	
			全般	(3)	合唱音楽	音楽理論
					管弦楽	
	おもに非西洋	(3)	全般	(3)	民族音楽学	日本伝統音楽 1（半期）
					日本伝統音楽 2（半期）	

科目名：映像・音響文化論，現代メディア論，現代芸術論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		2.5	3.5	3.5
(内半期科目数)		2.5	3.5	3.5
設置コマ数		2.5	3.5	3.5
(内半期コマ数)		2.5	3.5	3.5
形態	講義型	5	7	7
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	3	3
	専任内訳	日吉 2 (理工 2)	日吉 3 (理工 3)	日吉 3 (理工 3)
	非常勤（客員を含む）	3 (理工 3)	3 (理工 3)	3 (理工 3)
総履修者数		448	574	683

	科目名		地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	映像・音響文化論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	写真と現代美術（半期）
			特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	映像芸術の歴史と可能性（半期）
	現代メディア論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	メディア史からみる社会の変化・人間の変容（半期）
			日本・欧米	(1)	19 ・ 20 世紀	(1)	美術館のメディアとしての機能を考える（半期）
	現代芸術論	(1)	欧米	(1)	現代	(1)	現代美術（半期）
2002 年	映像・音響文化論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	写真と現代美術（半期）
			特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	映像芸術の歴史と可能性（半期）
	現代メディア論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	メディア史からみる社会の変化・人間の変容（半期）
			日本・欧米	(1)	19 ・ 20 世紀	(1)	美術館のメディアとしての機能を考える（半期）
	現代芸術論	(3)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	脱－身体的状況と芸術（半期）
			特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	芸術と社会の“ 熱い ” 関係（半期）
2001 年			講義要綱の記載なし（揭示参照）	(1)		(1)	
	映像・音響文化論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	写真と現代美術（半期）
			特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	映画表現の歴史と可能性（半期）
	現代メディア論	(2)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	メディア史からみる社会の変化・人間の変容（半期）
			日本・欧米	(1)	19 ・ 20 世紀	(1)	美術館のメディアとしての機能を考える（半期）
	現代芸術論	(3)	特定の地域なし	(1)	20 世紀	(1)	脱－身体的状況と芸術（半期）
			日本・欧米	(1)	主に 20 世紀	(1)	社会へ開かれる芸術（半期）
			主に日本	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀日本の美術と写真（半期）

*映像・音響文化論において「音響」に関するものなし
*この３つの科目については担当者が重複しているケースがある

科目名：造形・デザイン論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	2	2	2
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	2 (理工 2)	2 (理工 2)	2 (理工 2)
総履修者数		203.5	198.5	183.5

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	主に日本	(1)	19・20 世紀	(1)	日本の美術工芸の歴史と東西交流（半期）
	特になし	(1)	現代	(1)	ヴィジュアルの意味：すぐれた造形、良いデザイン？（半期）
2002 年	主に日本	(1)	19・20 世紀	(1)	美術工芸品の東西交流（半期）
	特になし	(1)	現代	(1)	ヴィジュアルの意味：すぐれた造形、良いデザイン？（半期）
2001 年	日本	(1)	19・20 世紀	(1)	日本美術の造形美を考察する（半期）
	特になし	(1)	現代	(1)	カワイイ、カッコイイ、ヴィジュアルとは？（半期）

科目名：身体文化論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	1	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	1 (理工 1)	1 (理工 1)	1 (理工 1)
総履修者数		100.5	38	118.5

	地域		サブタイトルなど
2003 年	限定せず	(1)	ダンスと身体（半期）
2002 年	限定せず	(1)	舞踊論（半期）
2001 年	限定せず	(1)	舞踊やパーフォーミングアーツを手がかりに（半期）

科目名：住宅・建築史概論

年度		2003	2002	2001	
設置科目数		0.5	0.5	0.5	
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5	
設置コマ数		0.5	0.5	0.5	
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5	
形態	講義型	1	1	1	
	参加型	0	0	0	
	講義と実習	0	0	0	
	オムニバス	0	0	0	
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1	
	専任内訳	矢上 1	矢上 1	矢上 1	
	非常勤（客員を含む）	0	0	0	
総履修者数		108.5	119	95.5	

	地域		サブタイトルなど
2003 年	特になし	(1)	建築史概論（半期）
2002 年	特になし	(1)	建築史概論（半期）
2001 年	特になし	(1)	建築史概論（半期）

科目名：歴史

年度		2003	2002	2001
設置科目数		17	19	17
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		19	23	21
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	17	19	17
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	6	6	7
	専任内訳	三田 2 (文 2)	三田 1 (文 1)	三田 3 (文 3)
		女子高 1	女子高 1	女子高 1
		日吉 3 (経 1、商 2)	日吉 4 (経 1、法 1、商 2)	日吉 3 (経 1、法 1、商 1)
	非常勤（客員を含む）	9 (文 8、商 1)	10 (文 9、商 1)	9 (文 8、商 1)
総履修者数		2981	3693	3048

	地域		時代		サブタイトルなど	
2003 年	日本	(6)	古代	(2)	古代の日朝関係と渡来人	日本古代史
			近世	(1)	近世対外交渉史（日蘭交渉を中心として）	
			近・現代	(1)	日本近代社会の歴史的特徴	
			先史時代～ 近・現代	(2)	日本列島の社会経済史	史料で見る歴史の諸問題 (国文史料入門)
	東洋	(5)	古代～近・現代	(5)	中国の王朝と民衆社会	モンゴル時代史概説
					ベルシャ文化史論	
					中東の歴史	イスラームの歴史
	西洋	(6)	古代～近・現代	(2)	ヨーロッパの修道制	書物と読書の歴史
			近代	(4)	ヨーロッパ近代史に学ぶ	病氣と医療の歴史
2002 年					災害都市トゥルーズ － 1628 ～ 1636 －（フランス近代史）	近世フランスの新聞と社会文化論
	日本	(6)	古代	(2)	日本の古代政治史(6・7世紀)を中心として	日本古代史
			近・現代	(1)	日本近現代の歴史学と女性	
			先史時代～ 近・現代	(3)	日本列島の社会経済史	史料で見る歴史の諸問題 (国文史料入門)
					法と制度から見た日本史	
	東洋	(5)	古代～近・現代	(5)	中国の民間宗教結社と明清両王朝	モンゴル時代史概説
					ベルシャ文化史論	
					アラブの歴史	イスラームの歴史
	西洋	(8)	古代～近・現代	(2)	狂気の歴史	バレエの歴史
			中世～近世	(2)	西洋中世・近世社会史	ベストの社会史
			近代	(4)	ヨーロッパ近代史に学ぶ	十九世紀フランス・バレエの歴史
					フランス革命史	近世フランスの新聞と社会文化史

2001 年	日本	(6)	古代	(2)	日本の古代政治史を中心として	日本古代史
			近世	(1)	近世日本の法と政策	
			近・現代	(2)	書簡を通じてみた福澤諭吉とその時代	日本近現代の思想と文化
			古代～近・現代	(1)	史書・史料編纂の日本史	
	東洋	(3)	古代～近・現代	(3)	中国の民間宗教－その文化的・社会的位置付け	ペルシャ文化史論
					イスラーム世界史概説	
	西洋	(8)	古代～近・現代	(1)	バレーの歴史	
			中世	(1)	西ヨーロッパ世界の形成(12 世紀ルネサンス)	
			近代	(6)	フランス革命史	十九世紀フランス・バレーの歴史
					近代ドイツ史	近代ヨーロッパの旅の社会史
					身体と病気と医療の歴史 1750 ～ 1950	近世フランスの新聞と社会文化史

＊ 2003 年度：「災害都市トゥルーズ－ 1628 ～ 1636 －（フランス近代史）」と「病気と医療の歴史」は同一内容の講義が2コマ開講
 ＊ 2002 年度：「フランス革命史」,「狂気の歴史」,「バレーの歴史」,「十九世紀フランス・バレーの歴史」は同一内容の講義が2コマ開講
 ＊ 2001 年度：「近代ヨーロッパの旅の社会史」,「身体と病気と医療の歴史 1750 ～ 1950」,「バレーの歴史」,「十九世紀フランス・バレーの歴史」は同一内容の講義が2コマ開講

科目名：現代世界史，現代日本史

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	2	2	2
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	0	0
	専任内訳	三田 1 (文 1)		
	非常勤（客員を含む）	1 (理工 1)	2 (理工 2)	2 (理工 2)
総履修者数		179	172.5	155.5

	科目名		時代		サブタイトルなど
2003 年	現代世界史	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀の国際政治（半期）
	現代日本史	(1)	20 世紀	(1)	海外に渡航した日本人をもとに日本人形成について（半期）
2002 年	現代世界史	(1)	20 世紀	(1)	20 世紀の国際政治（半期）
	現代日本史	(1)	20 世紀後半	(1)	戦後の言論界（半期）
2001 年	現代世界史	(1)	20 世紀後半	(1)	第二次大戦後の国際政治（半期）
	現代日本史	(1)	20 世紀後半	(1)	戦後の言論界（半期）

科目名：文明学説史

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	1	1	1
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		79	29	53

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	日本	(1)	近代	(1)	古流兵法と徂徠学・福沢学による上流武士道と市民文明
2002 年	日本	(1)	近代	(1)	古流兵法と徂徠学・福沢学による上流武士道と市民文明
2001 年	日本	(1)	近代	(1)	徂徠学と福沢学による教養形成

科目名：文化人類学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		3	3	3
(内半期科目数)		2	1	2
設置コマ数		3	3	3
(内半期コマ数)		2	1	2
形態	講義型	5	4	5
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	2
	専任内訳	日吉 1 (理工 1)	日吉 1 (文 1)	三田 1 (文 1)
				日吉 1 (理工 1)
	非常勤（客員を含む）	3 (文 1、法 1、理工 1)	2 (文 1、理工 1)	1 (理工 1)
総履修者数		513	286.5	411

	地域		時代		サブタイトルなど	
2003 年	全般	(4)	現代中心	(3)	物質文化	言語・文化
					異文化理解（半期）	
				(1)	死生観	
	特定地域	(1)	現代中心	(1)	ミクロネシア（半期）	
2002 年	全般	(3)	現代中心	(2)	物質文化	異文化理解（半期）
				(1)	死生観	
	特定地域	(1)	現代中心	(1)	ミクロネシア（半期）	
2001 年	全般	(5)	現代中心	(3)	人間を科学する	物質文化
					異文化理解（半期）	
				(2)	伝統社会	儀礼（半期）

科目名：地域研究

年度		2003	2002	2001
設置科目数		3	2.5	2.5
(内半期科目数)		3	2.5	2.5
設置コマ数		3	2.5	2.5
(内半期コマ数)		3	2.5	2.5
形態	講義型	2	2	2
	参加型	1	1	1
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	3	3	3
	専任内訳	日吉 3 (経 3)	日吉 3 (経 3)	日吉 3 (経 3)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		243.5	129	230

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	アメリカ	(1)	近現代	(1)	アメリカの地理・文化（半期，春・秋）
	中国	(2)	近代	(1)	中国近現代史（半期，春・秋）
			現代	(1)	中国情報化事情（半期，春・秋）
2002 年	アメリカ	(1)	近現代	(1)	アメリカの地理・文化（半期，春・秋）
	中国	(2)	近代	(1)	中国近現代史（半期，春・秋）
			現代	(1)	中国情報化事情（半期，秋）
2001 年	アメリカ	(1)	近現代	(1)	アメリカの地理・文化（半期，春・秋）
	中国	(2)	近代	(1)	中国近代史（半期，秋）
			現代	(1)	中国情報化事情（半期，春・秋）

科目名：地域文化論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		10	9	7.5
(内半期科目数)		10	9	7.5
設置コマ数		10	9	7.5
(内半期コマ数)		10	9	7.5
形態	講義型	20	18	15
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	11	10	7
	専任内訳	日吉 11 (法 11)	日吉 10 (法 10)	日吉 7 (法 7)
	非常勤（客員を含む）	3 (法 3)	3 (法 3)	4 (法 4)
総履修者数		1823	1531	1820.5

	地域		科目名		サブタイトルなど
2003 年	イギリス	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	イギリス地域研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	英国近現代の文化的想像力（半期）
	アメリカ	(4)	地域文化論Ⅰ	(1)	アメリカ研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(3)	アメリカ南部（半期）
					現代アメリカにおける集団的記憶の再構築(半期)
					アメリカン・シアター：時代の戦争の記憶(半期)
	ドイツ	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	ドイツ文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	トーマス・マンのドイツ文化論(半期)
	フランス	(4)	地域文化論Ⅰ	(2)	フランス文化入門（半期）
					ベル・エポックのパリⅠ（半期）
			地域文化論Ⅱ	(2)	20 世紀前半の芸術状況をめぐって(半期)
					ベル・エポックのパリⅡ（半期）
	ロシア	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	ロシア文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	19 世紀末から 20 世紀初頭のロシア文化(半期)
	スペイン	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	スペイン文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	人物を通してスペインを見る(半期)
	ラテンアメリカ	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	中米・カリブ海地域とメキシコ(半期)
			地域文化論Ⅱ	(1)	ラテン・アメリカに見る他者像(半期)
	中国	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	中国、台湾、香港映画とその背景(半期)
			地域文化論Ⅱ	(1)	映画のなかの中国、台湾、香港(半期)
2002 年	イギリス	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	イギリス地域研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	印刷される情報と大衆文化（半期）
	アメリカ	(4)	地域文化論Ⅰ	(1)	アメリカ研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(3)	アメリカ南部（半期）
					アメリカ文化の中の性と暴力（半期）
					アメリカン・シアター：時代の鏡(半期)
	ドイツ	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	ドイツ文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	19 世紀末から 20 世紀前半のドイツ(半期)

	フランス	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	パリー町の歴史（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	19世紀の首都パリー芸術と社会(半期)
	ロシア	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	ロシア文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	ロシア映画（半期）
	スペイン	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	スペイン文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	人物を通してスペインを見る(半期)
	ラテンアメリカ	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	中米・カリブ海地域とメキシコ(半期)
			地域文化論Ⅱ	(1)	ラテンアメリカに見る他者像(半期)
	中国	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	中国、台湾、香港映画とその背景(半期)
			地域文化論Ⅱ	(1)	映画のなかの中国、台湾、香港(半期)
2001 年	イギリス	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	イギリス地域研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	[科学]と社会--ヴィクトリア朝の英国(半期)
	アメリカ	(4)	地域文化論Ⅰ	(1)	アメリカ研究入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(3)	アメリカ南部（半期）
					アメリカ文化の中の性と暴力（半期）
					アメリカン・シアターにみる差別(半期)
	ドイツ	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	ドイツ文化入門（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	19世紀末から20世紀前半のドイツ(半期)
	フランス	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	パリー町の歴史（半期）
			地域文化論Ⅱ	(1)	19世紀の首都パリ（半期）
	ロシア	(1)	地域文化論Ⅰ	(1)	20世紀ロシア文化をみる（半期）
	スペイン	(1)	地域文化論Ⅰ	(1)	スペイン（半期）
	ラテンアメリカ	(1)	地域文化論Ⅰ	(1)	ラテンアメリカ（半期）
	中国	(2)	地域文化論Ⅰ	(1)	中国、台湾、香港映画とその背景(半期)
			地域文化論Ⅱ	(1)	映画のなかの中国、台湾、香港(半期)

＊年々科目数が増えているだけでなく、それぞれの地域で、地域文化論Ⅰを入門に、地域文化論Ⅱをより詳しい文化論に、という系統立てが整備されていっている

科目名：ラテンアメリカ研究

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	8	7	7
	専任内訳	三田 1 (経 1)	三田 2 (経 1、法 1)	三田 1 (経 1、法 1)
		日吉 6 (経 3、法 1、商 2)	日吉 4 (経 2、法 1、商 1)	日吉 5 (経 2、法 1、商 1)
		藤沢 1 (環情 1)	藤沢 1 (環情 1)	藤沢 1 (環情 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		42	66	32

	地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	ラテンアメリカ	(1)	近現代	(1)	ラテンアメリカの地域研究
2002 年	ラテンアメリカ	(1)	近現代	(1)	ラテンアメリカの地域研究
2001 年	ラテンアメリカ	(1)	近現代	(1)	ラテンアメリカの地域研究

科目名：地域と文化

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	6	6	6
	専任内訳	日吉 6 (商 6)	日吉 6 (商 6)	日吉 6 (商 6)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		44	40	55

	サブタイトル	
2003 年	各国の文化を考える	(1)
2002 年	各国の文化を考える	(1)
2001 年	各国の文化を考える	(1)

＊ 2004 年度から開講しない

科目名：比較文化論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	2
(内半期科目数)		0	0	1
設置コマ数		1	1	2
(内半期コマ数)		0	0	1
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	2
担当者数	専任（有期含む）	2	4	4
	専任内訳	日吉 2 (経 2)	日吉 4 (経 3、商 1)	日吉 4 (経 3、理工 1)
	非常勤（客員を含む）	2	1	1
		経 2	経 1	経 1
総履修者数		58	56	123.5

	タイトル		サブタイトルなど
2003 年	クラシック／モダン	(1)	モダンの変質、中国における恋愛と性愛、三島由紀夫とロマン主義、複数のアヴァンギャルドと周縁
2002 年	(なし)	(1)	内と外、文学と「天候」、中国の亡国詩人、近代日本における演劇の展開と多様性、文学と科学
2001 年	(なし)	(1)	文化メディアとユダヤ人像をめぐって、中国におけるメディアと文学、近代日本における「文学」と「非文学」
	中国文化とフランス文化(半期2)	(1)	

科目名：法学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		9	9	8
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		9	9	8
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	9	9	8
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	1
	専任内訳	三田 2 (法 2)	三田 2 (法 2)	三田 1 (法 1)
	非常勤（客員を含む）	7 (法 7)	7 (法 7)	7 (法 7)
総履修者数		1792	2079	2271

	分野		サブタイトルなど
2003 年	法学概論	(9)	法律学の基礎
			法の主要分野の基礎的問題の検討
			法および法律についての基礎知識
			法学の基礎を学ぶ
			法学の基礎および日本国憲法
			法学の基礎および日本国憲法
			法律の基礎的・実践的な知識と法的なものの見方
			法の分類方法
			法の基本と現代的課題
2002 年	法学概論	(9)	法学の基礎知識
			法の主要分野の基礎的諸問題の検討
			法および法律についての基礎知識
			法解釈の理論と実際
			法学概論
			法学の基礎を学ぶ
			法学の基礎および日本国憲法
			法の分類方法
			法の基本と現代的課題
2001 年	法学概論	(8)	法学の基礎知識
			法の主要分野の基礎的諸問題の検討
			法および法律についての基礎知識
			法学概論
			法学の基礎を学ぶ
			法学の基礎及び日本国憲法
			法の効力の範囲（限界）
			法の基本と現代的課題

科目名：政治学，世界の政治，日本の政治

年度		2003	2002	2001
設置科目数		13	11	11
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		13	11	11
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	14	11	11
	参加型	0	1	1
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	5	4	5
	専任内訳	三田 4 (法 4)	三田 3 (法 3)	三田 4 (法 4)
		日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)
	非常勤（客員を含む）	9 (法 8、理工 1)	8 (法 7、理工 1)	7 (法 6、理工 1)
総履修者数		2188	2207	1754

	科目名		地域		時代		サブタイトルなど
2003 年	政治学	(12)	西欧政治思想史	(2)	通史	(2)	「カイザルのものと神のもの」－西欧政治思想史の一試論－
							西洋政治思想史
			特になし	(3)	特になし	(1)	統治と自治
					現代	(2)	比較政治学
							現代社会と政治
			国際政治	(1)	現代	(1)	現代国際政治を考える
			日本政治	(5)	現代	(5)	現代日本政治の分析
							政治学－政策過程の理論と事例を中心に
							現代日本の政治過程
							戦後日本の政治過程
							現代政治を見る眼
			南米・アフリカ	(1)	現代	(1)	途上地域の政治－比較政治学の観点からアフリカ、ラテンアメリカを中心に
	世界の政治	(1)	世界	(1)	現代	(1)	国家と民主主義のゆくえ（半期）
2002 年	日本の政治	(1)	日本	(1)	現代	(1)	戦後日本政治の展開とその特徴を理解する（半期）
	政治学	(10)	特になし	(2)	特になし	(1)	国家と社会
					現代	(1)	現代民主政治の動態とその行方
			西欧政治思想史	(1)	通史	(1)	「カイザルのものと神のもの」－西欧政治思想史の一試論
			世界・欧米	(1)	現代	(1)	戦後世界の政治
			日本政治	(5)	現代	(5)	政治学は、現代日本政治をどう説明（予測）するのか
							政治的に考える
							現代日本の政治過程
							戦後日本の政治過程
							現代日本における選挙行動・政策過程
			日本外交	(1)	通史	(1)	国家・外交・戦争
	世界の政治	(1)	世界	(1)	現代	(1)	国家と民主主義のゆくえ
	日本の政治	(1)	日本	(1)	現代	(1)	戦後日本政治の展開とその特徴を理解する

2001 年	政治学	(10)	特になし	(2)	特になし	(1)	統治と自治
					現代	(1)	現代政治学入門
			政治思想史	(1)	通史	(1)	デモクラシーとリベラリズム
			西欧政治思想史	(1)	通史	(1)	国家、その過去・現在・未来
			世界	(1)	現代	(1)	政治体制論
			世界・欧米	(1)	現代	(1)	戦後世界の政治
			日本外交	(1)	通史	(1)	国家・外交・戦争
			日本政治	(3)	現代	(3)	日本の選挙
							政策をつくる
							現代日本における選挙行動・政策過程
	世界の政治	(1)	世界	(1)	現代	(1)	国家と民主主義のゆくえ（半期）
	日本の政治	(1)	日本	(1)	現代	(1)	戦後日本政治の展開とその特徴を理解する（半期）

科目名：近代思想史

年度		2003	2002	2001
設置科目数		5	6	6
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		6	7	7
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	5	6	6
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	3	3
	専任内訳		三田 1 (経 1)	三田 1 (経 1)
		日吉 2 (商 2)	日吉 2 (商 2)	日吉 2 (商 2)
	非常勤（客員を含む）	3 (文 1、法 1、商 1)	3 (文 1、法 1、商 1)	3 (文 1、法 1、商 1)
総履修者数		1093	1058	1097

	分野		地域		サブタイトルなど	
2003 年	近代思想史	(4)	西洋	(2)	ルソー、文明と自由	ヨーロッパの「市民社会」概念
			日本	(2)	日本における近代の受容	丸山思想史研究
	現代思想	(1)		(1)	現代思想を武器に常識を問い直す	
2002 年	近代思想史	(5)	西洋	(3)	ヨーロッパの「市民社会」概念	近代思想史における自由と平等
					ルソーの文明と自由	
			日本	(2)	丸山思想史研究	近代の受容と拒絶
	現代思想	(1)		(1)	現代思想を武器に常識を問い直す	
2001 年	近代思想史	(5)	西洋	(3)	民主制と自由	自由と平等
					ヨーロッパの「市民社会」概念	
			日本	(2)	近代思想の受容と拒絶	丸山思想史研究
	現代思想	(1)		(1)	モダンとポスト・モダン	

科目名：経済学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		2	2	2
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		2	2	2
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	2	2	2
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	2	2	2
		(法 2)	(法 2)	(法 2)
総履修者数		266	164	127

		サブタイトルなど	
2003 年	(2)	経済理論	ミクロ・マクロ経済
2002 年	(2)	経済理論	ミクロ・マクロ経済
2001 年	(2)	経済理論	ミクロ・マクロ経済

科目名：経済人類学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	1 (経 1)	1 (経 1)	1 (経 1)
総履修者数		127	86	48

		サブタイトルなど
2003 年	(1)	人は市場経済とどう関わってきたかー K.ポラニーの所説を踏まえてー
2002 年	(1)	人は市場経済とどう関わってきたかー K.ポラニーの所説を踏まえてー
2001 年	(1)	人は市場経済とどう関わってきたかー K.ポラニーの所説を踏まえてー

科目名：社会学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		5	5	5
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		7	7	7
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	5	5	5
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)	三田 1 (文 1)
	非常勤（客員を含む）	4 (文 1、経 2、法 1)	4 (文 1、経 2、法 1)	4 (文 1、経 2、法 1)
総履修者数		1510	2306	1791

サブタイトルなど			
2003 年	(5)	食・農・地域	現代社会と家族
		自我とコミュニケーション	
		権力と社会	シンボリックインタラクショニズム
2002 年	(5)	家族	社会とは
		コミュニケーション	
		夢と権力	社会認知とコミュニケーション
2001 年	(5)	家族とジェンダー	社会とは
		コミュニケーション	
		夢と権力	家族からみる現代社会

＊その他，メディア・コミュニケーション研究所が日吉に設置している科目として，「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」「社会心理学Ⅰ・Ⅱ」がある。

科目名：社会科学概論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)	日吉 1 (商 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		53	62	46

		サブタイトルなど
2003 年	(1)	社会科学者の社会科学
2002 年	(1)	社会科学者の社会科学
2001 年	(1)	社会科学者の社会科学

科目名：現代社会論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1.5	1.5	1.5
(内半期科目数)		1.5	1.5	1.5
設置コマ数		1.5	1.5	1.5
(内半期コマ数)		1.5	1.5	1.5
形態	講義型	3	3	3
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	3 (理工 3)	3 (理工 3)	3 (理工 3)
総履修者数		286	351	285

	時代		サブタイトルなど
2003 年	現代社会	(3)	高齢化社会の実態と課題（半期）
			臨床の“ 智 ”を練り上げる（半期）
			国民国家の変容をめぐる国際社会学(半期)
2002 年	現代社会	(3)	高齢化社会の実態と課題（半期）
			臨床の“ 智 ”を練り上げる（半期）
			脱工業化とグローバリゼーションの国際社会学(半期)
2001 年	現代社会	(3)	高齢化社会の実態と課題（半期）
			旅する社会学（半期）
			脱工業化とグローバリゼーションの国際政治学(半期)

科目名：戦争と社会

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	5	5	5
	専任内訳	三田 4 (経 4)	三田 4 (経 4)	三田 4 (経 4)
		日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)
	非常勤（客員を含む）	7 (経 7)	5 (経 5)	5 (経 5)
総履修者数		107	84	83.5

		サブタイトルなど
2003 年	(1)	戦争と社会（半期）
2002 年	(1)	戦争と社会（半期）
2001 年	(1)	戦争と社会（半期）

科目名：地理学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		7	7	7
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		12	11	11
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	7	7	7
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	日吉 2 (経 2)	日吉 2 (経 2)	日吉 2 (経 2)
	非常勤（客員を含む）	3 (文 1、経 2)	3 (文 1、経 2)	3 (文 1、経 2)
総履修者数		2258	1971	1933

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	人文地理学	(5)	地図と文化の地理学	日本とイギリスの地域的対照性
			開発・災害・環境	農業・農村地域の持続的発展を考える
			現代の地域問題を地理学から考える	
	自然地理学	(2)	自然災害の地理学的考察	自然地理学的視点からみた環境問題
2002 年	人文地理学	(5)	地図と文化の地理学	人間の諸活動と生活空間
			日本とイギリスの地域的対照性	開発・災害・環境
			農業・農村の持続的発展を考える	
	自然地理学	(2)	自然災害の地理学的考察	自然地理学的視点からみた環境問題
2001 年	人文地理学	(4)	生活・文化の地域性	日本とイギリスの地域的対照性
			開発・災害・環境	農業・農村地域の持続的発展を考える
	自然地理学	(3)	日本列島の自然環境とその変遷	自然地理学的視点からみた環境問題
			自然災害の地理学的考察	

科目名：ジェンダー論、女性学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		2	2	2
(内半期科目数)		2	2	2
設置コマ数		2	2	2
(内半期コマ数)		2	2	2
形態	講義型	1	1	1
	参加型	1	1	1
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	3	3	3
	専任内訳	日吉 3 (経 3)	日吉 3 (経 3)	日吉 3 (経 3)
	非常勤（客員を含む）	1 (理工 1)	1 (理工 1)	1 (理工 1)
総履修者数		419	512	470.5

	科目名		時代		サブタイトルなど	
2003 年	ジェンダー論	(2)		(2)	ジェンダー論Ⅰ（半期）	ジェンダー論Ⅱ（半期）
	女性学	(2)	現代	(2)	暴力とは…？（半期）	セクシュアリティ（半期）
2002 年	ジェンダー論	(2)		(2)	ジェンダー論Ⅰ（半期）	ジェンダー論Ⅱ（半期）
	女性学	(2)	現代	(2)	家族とは何か？（半期）	メディアの女性学（半期）
2001 年	ジェンダー論	(2)		(2)	ジェンダー論Ⅰ（半期）	ジェンダー論Ⅱ（半期）
	女性学	(2)	現代	(2)	性とは何か？（半期）	メディアの女性学（半期）

科目名：物理学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		6	7	7
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		18	17	17
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	6	7	7
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	6	5	5
	専任内訳	日吉 6 (経 1、法 3、商 2)	日吉 5 (法 3、商 2)	日吉 5 (経 1、法 2、商 2)
	非常勤（客員を含む）	0	2 (経 2)	2 (経 2)
総履修者数		853	514	508

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	現代物理学	(2)	素粒子物理と宇宙	相対性理論・素粒子物理・宇宙物理
	古典物理学	(2)	身の回りの物理	素朴な疑問に答える物理
	技術	(1)	物理と技術	
	環境	(1)	エネルギーと環境	
2002 年	現代物理学	(1)	相対性理論・素粒子物理・宇宙物理	
	古典物理学	(3)	身の回りの物理	素朴な疑問に答える物理
			生活の科学	
	技術	(1)	物理と技術	
	環境	(1)	エネルギーと環境	
	法則	(1)	物理学の基礎となる法則について	
2001 年	現代物理学	(3)	20 世紀の物理	相対性理論・素粒子物理・宇宙物理
			相対論・素粒子物理・宇宙物理」	
	古典物理学	(1)	身の回りの物理	
	技術	(1)	物理と技術	
	環境	(1)	エネルギーと環境	
	物理全般	(1)	「新世紀に生きる人たちのために」	

＊実験科目（生物(科)学，化学，物理学）の 1 コマは，2 時限分

科目名：天文学、宇宙の科学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1.5	1.5	1.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		2.5	2.5	2.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	2	2	2
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	日吉 2 (商 1、理工 1)	日吉 2 (商 1、理工 1)	日吉 2 (商 1、理工 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		211.5	127	135

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	宇宙の科学	(2)	宇宙	(1)	宇宙の過去・現在・未来（半期）
	天文学			(1)	宇宙のなかの人間（半期）
2002 年	宇宙の科学	(2)	宇宙	(1)	宇宙の過去・現在・未来（半期）
	天文学			(1)	宇宙の中の人間（半期）
2001 年	宇宙の科学	(2)	宇宙	(1)	宇宙の過去・現在・未来（半期）
	天文学			(1)	宇宙の中の人間（半期）

科目名：地学系（地学，地球科学概論（半期））

年度		2003	2002	2001
設置科目数		5	5	5
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		6	6	6
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	5	5	5
	参加型	1	1	1
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	矢上 1	矢上 1	矢上 1
		高校 1	高校 1	高校 1
	非常勤（客員を含む）	2 (理工 2)	2 (理工 2)	2 (理工 2)
総履修者数		997	1311.5	1304.5

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	地球の資源・物質循環	(3)	地球と生命の歴史	地球システムの科学
			地球の構成要素と資源問題・物質循環	
	気象・大気科学	(3)	気象・天文分野	インターネット気象学（半期）
			大気科学（半期）	
2002 年	地球の資源・物質循環	(3)	地球と生命の歴史	地球システムの科学
			地球の構成要素と資源問題・物質循環	
	気象・大気科学	(3)	気象学入門	コンピュータを利用した大気科学入門（半期）
			大気科学（半期）	
2001 年	地球の資源・物質循環	(3)	生命の歴史と地球表層環境の変遷	地球システムの科学
			地球の構成要素と資源問題・物質循環	
	気象・大気科学	(3)	気象学入門	コンピュータを利用した大気科学入門（半期）
			大気科学（半期）	

＊地球科学概論は理工向け

科目名：化学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		4	4	5
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		13	13	15
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	4	4	5
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	4	4	5
	専任内訳	日吉 4 (文 1、経 1、法 2)	日吉 4 (文 1、経 1、法 2)	日吉 5 (文 1、経 1、法 3)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		721	701	626

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	化学一般	(4)	化学結合と地球環境	なぜなんだろうを化学する
			現代化学のあけぼの	物質の化学
2002 年	化学一般	(4)	化学結合と物質の性質	なぜなんだろうを化学する
			現代化学のあけぼの	物質の化学
2001 年	化学一般	(5)	化学結合と物質の性質	なぜなんだろうを化学する
			現代化学のあけぼの	物質の化学
			環境の化学	

＊実験科目（生物(科)学，化学，物理学）の 1 コマは，2 時限分

科目名：現代化学概論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	12	12	10
	専任内訳	矢上 12	矢上 12	矢上 10
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		74	100	97

	分野		サブタイトルなど
2003 年	現代化学の最前線	(1)	拡がり深まる化学（半期）
2002 年	現代化学の最前線	(1)	化学の最前線－創造性と責任（半期）
2001 年	現代化学の最前線	(1)	化学の最前線－創造性と責任（半期）

＊受講者は少なくとも高校で化学を履修していることが望ましいとされている

科目名：自然科学特論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1.5	1.5	1.5
(内半期科目数)		1.5	1.5	1.5
設置コマ数		1.5	1.5	1.5
(内半期コマ数)		1.5	1.5	1.5
形態	講義型	3	3	3
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	3	1	1
	専任内訳	日吉 3 (法 3)	日吉 1 (法 1)	日吉 1 (法 1)
	非常勤（客員を含む）	0	1 (法 1)	2 (法 2)
総履修者数		279	236.5	189

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	物理	(1)	環境基礎論 ごみ処理問題などのエントロピー論(半期)	
	化学	(2)	化学の言葉で自然の不思議をひも解く(半期)	21 世紀を生きるために知っていたい化学(半期)
2002 年	物理	(1)	環境基礎論 ごみ処理問題などのエントロピー論(半期)	
	化学	(2)	エネルギーと環境（半期）	身のまわりの化学（半期）
2001 年	物理	(2)	環境基礎論 ごみ処理問題などのエントロピー論(半期)	エネルギーとは何か（半期）
	化学	(1)	日常の化学（半期）	

＊ 2002 年において担当者数と科目数が一致しないのは、1 担当者が 2 科目担当しているから

科目名：生物（科）学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		13	12	11
(内半期科目数)		0	0	0
設置コマ数		30	31	28
(内半期コマ数)		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	13	12	11
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	9	10	9
	専任内訳	日吉 9 (文 1、経 3、 法 2、商 3)	日吉 10 (文 2、経 3、 法 2、商 3)	日吉 9 (文 2、経 3、 法 2、商 2)
	非常勤（客員を含む）	4 (文 2、法 2)	4 (法 2、商 2)	2 (法 1、商 1)
総履修者数		1433	1305	1268

	分野		サブタイトルなど	
2003 年	環境・生態	(2)	生物多様性と地球環境の危機	生物の多様性と生態系
	進化・系統	(2)	生物の多様性と進化	物質の進化、生物の進化、そして私たち
	遺伝学	(2)	遺伝子から見た生物の世界	ヒトの誕生と病気の”遺伝子”生物科学
	発生・生理	(7)	ニュースの中の生物科学	生き物のダイナミクス
			ヒトの生物学	生命の科学
			ヒトにみる生物学	生命の不思議を考える
			生物としてのヒト	
2002 年	環境・生態	(2)	生物多様性と地球環境の危機	生物の多様性と生態系
	進化・系統	(1)	進化と多様性の生物学	
	遺伝学	(1)	ヒトの生命活動と環境	
	発生・生理	(8)	ニュースの中の生物学	生き物のダイナミクス
			生命はこうして支えられている	いまをいきることを生物学から考える
			ヒトの生物学	生命の科学
			ヒトにみる生物学	生命の不思議を考える
2001 年	環境・生態	(2)	生物多様性と地球環境の危機	生物の多様性と生態系
	進化・系統	(0)		
	遺伝学	(2)	ヒトの自然科学的理解	「生命機械」はどのように動いているか
	発生・生理	(7)	ニュースの中の生物学	生き物のダイナミクス
			生命と自然	いまをいきることを生物学から考える
			ヒトの生物学	生命の科学
			生命の不思議を考える	

＊実験科目（生物(科)学，化学，物理学）の１コマは，２時限分
＊ 2002 年度秋学期から非常勤講師 2 名での兼任がある

科目名：人類学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		2.5	3.5	3.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		5.5	6.5	7.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	3	3	3
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	1	1
担当者数	専任（有期含む）	1	3	3
	専任内訳	日吉 1 (文 1)	日吉 3 (文 3)	日吉 3 (文 3)
	非常勤（客員を含む）	2 (経 1、理工 1)	2 (文 2、経 1、理工 1)	2 (文 2、経 1、理工 1)
総履修者数		528	582	1118

	科目名		サブタイトルなど	
2003 年	人類学	(2)	自然界の中のヒト：進化と変異	進化・適応・変異からみた人類の理解
	自然人類学	(1)	ヒトの進化（半期）	
2002 年	人類学	(2)	自然界の中のヒト：進化と変異	進化・適応・変異からみた人類の理解
	自然人類学	(1)	ヒトの進化（半期）	
	自然とヒト	(1)	Homo sapiens の現在	
2001 年	人類学	(2)	自然界の中のヒト：進化と変異	進化・適応・変異からみた人類の理解
	自然人類学	(1)	ヒトの進化（半期）	
	自然とヒト	(1)	Homo sapiens の現在	

科目名：健康科学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	0	0	0
	非常勤（客員を含む）	2 (理工 2)	2 (理工 2)	2 (理工 2)
総履修者数		51	35	38

	分野		サブタイトルなど
2003 年	化学物質・薬	(1)	健康と環境因子，病気と薬（半期）
2002 年	化学物質・薬	(1)	健康と環境因子，病気と薬（半期）
2001 年	化学物質・薬	(1)	健康と環境因子，病気と薬（半期）

科目名：保健衛生

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1.5	5	5.5
(内半期科目数)		1.5	5	5.5
設置コマ数		2	5.5	6.5
(内半期コマ数)		2	5.5	6.5
形態	講義型	3	10	11
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	6	7
	専任内訳	日吉 2 （保管 2）	日吉 6 （保管 6）	日吉 7 （保管 6、体研 1）
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		39	40	61.5

	分野		サブタイトルなど
2003 年	医学概論	(3)	大学生でも知っておきたい医学知識（半期）
			現代人の病気(ライフスタイルと病気の予防)（半期）
			親準備学(子供の心身の成長と発達)（半期）
2002 年	医学概論	(10)	医学入門：ホルモンと健康・病気の基礎知識（半期）
			内科学談義（半期）
			心臓病の基礎知識（半期）
			生活習慣病の正しい知識とその予防（半期）
			病気の予防とライフスタイル（半期）
			生活習慣病と職場環境について（半期）
			環境と現代病（半期）
			知的食卓のすすめ（現代の“食”を考える）（半期）
			災難を避けるための医学的知識（半期）
			親準備学(子供の心身の成長と発達)（半期）
2001 年	医学概論	(11)	医学概論（半期）
			内科学談義（半期）
			心臓病の基礎知識（半期）
			生活習慣病の正しい知識とその予防（半期）
			病気の予防とライフスタイル（半期）
			体重コントロールと諸問題（半期）
			遺伝、環境と現代病（半期）
			環境と健康（半期）
			知的飲酒のすすめ（半期）
			災難を避けるための医学的知識（半期）
			親準備学(子供の心身の成長と発達)（半期）

＊ 2001 年「医学概論」，2001 年～2003 年「親準備学」は春・秋ともに開講
＊ 2004 年からは開講されない

科目名：現代社会と医学

年度		2003		
設置科目数		1		
(内半期科目数)		1		
設置コマ数		1		
(内半期コマ数)		1		
形態	講義型	0		
	参加型	0		
	講義と実習	0		
	オムニバス	2		
担当者数	専任（有期含む）	1		
	専任内訳	日吉 1 (保管 1)		
	非常勤（客員を含む）	0		
総履修者数		5.5		

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	現代社会と医学Ⅰ	(1)	医学概論	(1)	海外生活と医療（半期）
	現代社会と医学Ⅱ	(1)	医学概論	(1)	現代社会と生活習慣病（半期）

＊保健管理センター設置科目として 2003 年より開講

科目名：生態学

年度		2003	2002	2001
設置科目数			0.5	0.5
(内半期科目数)			0.5	0.5
設置コマ数			0.5	0.5
(内半期コマ数)			0.5	0.5
形態	講義型		1	1
	参加型		0	0
	講義と実習		0	0
	オムニバス		0	0
担当者数	専任（有期含む）		1	1
	専任内訳		日吉 1 （法 1）	日吉 1 （法 1）
	非常勤（客員を含む）		0	0
総履修者数			201	96

	分野		サブタイトルなど
2002 年	生命と生態系	(1)	化学の言葉で生物の不思議をひも解く（半期）
2001 年	生命と生態系	(1)	化学の言葉で生物の不思議をひも解く（半期）

＊ 2002 年まで

科目名：地域生態文化論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1	1	1
(内半期科目数)		1	1	1
設置コマ数		1	1	1
(内半期コマ数)		1	1	1
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)	日吉 1 (経 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		104	129.5	169.5

	分野		サブタイトルなど
2003 年	環境	(1)	自然と共存する都市づくり（半期，春・秋）
2002 年	環境	(1)	自然と共存する都市づくり（半期，春・秋）
2001 年	環境	(1)	自然と共存する都市づくり（半期，春・秋）

科目名：生命の科学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	5	5	5
	専任内訳	信濃町 5	信濃町 5	信濃町 5
	非常勤（客員を含む）	3	3	3
		(医 3)	(医 3)	(医 3)
総履修者数		182.5	186.5	153

	分野		サブタイトルなど
2003 年	生命科学	(1)	生命科学の最前線の現状と問題（半期）
2002 年	生命科学	(1)	生命科学の最前線の現状と問題（半期）
2001 年	生命科学	(1)	生命科学の最前線の現状と問題（半期）

＊医学部の専門研究者による人文，社会，理工など他分野との関連を考慮した生命科学の解説

科目名：生命現象の分子科学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	矢上 1	矢上 1	矢上 1
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		29.5	48	109

	分野		サブタイトルなど
2003 年	分子生物学	(1)	分子生物学の立場から生命の基本的な仕組みを理解する（半期）
2002 年	分子生物学	(1)	分子生物学の立場から生命の基本的な仕組みを理解する（半期）
2001 年	分子生物学	(1)	分子生物学の立場から生命の基本的な仕組みを理解する（半期）

科目名：現代生物学概論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	13	13	13
	専任内訳	矢上 13	矢上 13	矢上 13
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		100	99.5	97.5

	分野		サブタイトルなど
2003 年	現代生物学の科学と工学	(1)	生命の科学と工学の最先端を平易に紹介する（半期）
2002 年	現代生物学の科学と工学	(1)	生命の科学と工学の最先端を平易に紹介する（半期）
2001 年	現代生物学の科学と工学	(1)	生命の科学と工学の最先端はここまできている（半期）

科目名：科学史

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	1	1	1
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	日吉 1 (法 1)	日吉 1 (法 1)	日吉 1 (法 1)
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		102	81.5	127

	時代		サブタイトルなど
2003 年	現代（1940 年以降）	(1)	核の時代に起こったこと（半期）
2002 年	現代（1940 年以降）	(1)	核の時代に起こったこと（半期）
2001 年	現代（1940 年以降）	(1)	核の時代に起こったこと（半期）

科目名：心理学系

年度		2003	2002	2001
設置科目数		13	13	13
(内半期科目数)		4	4	4
設置コマ数		27	27	27
(内半期コマ数)		9	9	9
形態	講義型	12	12	13
	参加型	0	0	0
	講義と実習	5	5	4
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	6	5	6
	専任内訳	三田 2 (文 1、メ・コ 1)	三田 1 (メ・コ 1)	三田 2 (文 1、メ・コ 1)
		日吉 4 (文 1、経 1、 法 1、商 1)	日吉 4 (文 1、経 1、 法 1、商 1)	日吉 4 (文 1、経 1、 法 1、商 1)
	非常勤（客員を含む）	6 (文 1、経 2、 法 2、商 1)	6 (文 2、経 1、 法 2、商 1)	4 (文 1、経 1、 法 1、商 1)
総履修者数		3651.5	3098	2788.5

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	心理学	(15)	概論	(7)	知覚・学習・言語
					視覚・知覚（半期）
					性格・動物・発達・知能・ストレス（半期）
					認知・感覚・知覚・記憶・問題解決（半期）
					行動・社会科学・論理構成力（半期）
					感覚・記憶・学習・社会（半期）
					知覚・学習・記憶・教育・発達・パーソナリティ・犯罪・産業
			実験心理学	(5)	比較心理学・聴覚・音声
					実証科学的手法
					行動科学
					障害理解・教育と福祉
					脳・神経系・視覚系・感覚・知覚・認知・学習
			発達心理学	(1)	学習・動機づけ・知覚・記憶・性格
			応用心理学	(1)	適性・性格・企業内教育・勤労動機・対人関係（半期）
			その他	(1)	環境の認知・行動・個性
	社会心理学	(2)		(2)	社会的認知（半期）
					コミュニケーション（半期）

2002 年	心理学	(15)	概論	(6)	知覚・学習・言語 視覚・知覚（半期）
					知覚・学習・動機づけ・記憶（半期）
					認知・感覚・知覚・記憶・問題解決（半期）
					行動・社会科学・論理構成力（半期）
					知覚・学習・記憶・教育・発達・パーソナリティ・犯罪・産業
			実験心理学	(5)	心理量の測定・知覚・記憶・知能
					実証科学的手法
					行動科学 障害理解・教育と福祉
					脳・神経系・視覚系・感覚・知覚・認知・学習
			発達心理学	(1)	学習・動機づけ・知覚・記憶・性格
			応用心理学	(2)	適性・性格・企業内教育・勤労動機・対人関係（半期）
					対人関係・集団行動・産業（半期）
			その他	(1)	環境の認知・行動・個性
	社会心理学	(2)		(2)	社会的認知（半期）
					コミュニケーション（半期）
2001 年	心理学	(15)	概論	(7)	知覚・学習・言語 視覚・知覚（半期）
					脳・感覚・知覚・（半期）
					認知・感覚・知覚・記憶・問題解決（半期）
					行動・社会科学・論理構成力（半期）
					学習・知能・発達（半期）
					知覚・学習・記憶・教育・発達・パーソナリティ・犯罪・産業
			実験心理学	(4)	実証科学的手法
					行動科学
					障害理解・教育と福祉
					脳・神経系・視覚系・感覚・知覚・認知・学習
			発達心理学	(1)	学習・動機づけ・知覚・記憶・性格
			応用心理学	(1)	適性・性格・企業内教育・勤労動機・対人関係（半期）
			その他	(2)	環境の認知・行動・個性
					認知心理学・
	社会心理学	(2)		(2)	社会的認知（半期）
					コミュニケーション（半期）

＊「専任内訳」にある「メ・コ」はメディア・コム

＊担当者数と設置科目数が合わないのは，同一教員が半期科目と通年科目を受け持っているため

科目名：数学

年度		2003	2002	2001
設置科目数		1.5	1.5	3.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	2.5
設置コマ数		2.5	2.5	4.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	2.5
形態	講義型	2	2	2
	参加型	0	0	4
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	1	1	1
	専任内訳	矢上 1	矢上 1	矢上 1
	非常勤（客員を含む）	1 (文 1)	1 (文 1)	2 (文 1、経 1)
総履修者数		142.5	159.5	332.5

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	基礎の数学	(1)	一変数の微積分法	(1)	数学が苦手な人のための数学（半期）
	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ)	(1)	線形代数	(1)	2次元の線形代数・平面の1次変換の分類
2002 年	基礎の数学	(1)	一変数の微積分法	(1)	数学が苦手な人のための数学（半期）
	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ)	(1)	線形代数	(1)	2次元の線形代数・平面の1次変換の分類
2001 年	基礎の数学	(1)	一変数の微積分法	(1)	数学が苦手な人のための数学（半期）
	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ)	(1)	線形代数	(1)	2次元の線形代数・平面の1次変換の分類
	数学	(4)	データ解析	(2)	データ解析入門Ⅰ（半期）
					データ解析入門Ⅱ(半期)
				(2)	データ解析Ⅰ（半期）
					データ解析Ⅱ(半期)

科目名：情報系

年度		2003	2002	2001
設置科目数		2.5	3	3
(内半期科目数)		0.5	1	1
設置コマ数		3.5	5	5
(内半期コマ数)		0.5	1	1
形態	講義型	0	0	0
	参加型	3	4	4
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	3	3
	専任内訳	矢上 2	矢上 3	矢上 3
	非常勤（客員を含む）	理工 2	理工 3	理工 3
総履修者数		40	77.5	97.5

	分野		サブタイトルなど
2003 年	情報処理概論Ⅰ	(1)	C 言語によるプログラミング入門
	情報処理概論Ⅲ	(1)	パソコンによる情報整理学
	情報処理応用Ⅰ	(1)	コンピュータ・グラフィックス（半期）
2002 年	情報処理概論Ⅰ	(1)	C 言語によるプログラミング入門
	情報処理概論Ⅲ	(1)	パソコンによる情報整理学
	情報処理応用Ⅰ	(1)	コンピュータ・グラフィックス（半期）
	情報科学Ⅰ	(1)	人工知能に関するもの（半期）
2001 年	情報処理概論Ⅰ	(1)	C 言語によるプログラミング入門
	情報処理概論Ⅲ	(1)	パソコンによる情報整理学
	情報処理応用Ⅰ	(1)	コンピュータ・グラフィックス（半期）
	情報科学Ⅰ	(1)	人工知能に関するもの（半期）

＊「パソコンによる情報整理学」は学部設置の同題名科目と同じ内容

科目名：身体／感覚文化

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	
(内半期科目数)		0.5	0.5	
設置コマ数		0.5	0.5	
(内半期コマ数)		0.5	0.5	
形態	講義型	0	0	
	参加型	0	0	
	講義と実習	0	0	
	オムニバス	1	1	
担当者数	専任（有期含む）	6	3	
	専任内訳	日吉 6 （文 1、経 1、法 1 理工 1、医 1、体研 1）	日吉 3 （文 1、経 1、理工 1）	
	非常勤（客員を含む）	0	0	
総履修者数		122.5	112.5	

		サブタイトルなど
2003 年	(1)	視覚論（半期）
2002 年	(1)	触覚論（半期）

＊ 2003 年：文学部設置、経、商、医、理。スタディ・スキルズと連携
＊ 2002 年：文学部設置、経、商、医、理。新開講

科目名：人文科学総合講座

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5		1
(内半期科目数)		0.5		1
設置コマ数		0.5		1
(内半期コマ数)		0.5		1
形態	講義型	0		0
	参加型	0		0
	講義と実習	0		0
	オムニバス	1		2
担当者数	専任（有期含む）	3		9
	専任内訳	日吉 3 （法 3）		三田 2 （法 2）
				日吉 7 （法 7）
	非常勤（客員を含む）	0		4 （法 4）
総履修者数		17.5		15

	地域		サブタイトルなど
2003 年	イギリス	(1)	さまざまなイギリス文化--High Culture and Low Culture（半期）
2001 年	フランス語圏	(1)	フランス語圏文化の中心・ケベック（半期）
	ヨーロッパ	(1)	シェイクスピアとヨーロッパ文明（半期）

＊ 2003 年：専任教員 3 名がコーディネイターとなり、塾外研究者などを講師として招いている
＊ 2002 年：開講されなかった

科目名：自然科学総合講座

年度		2003	2002	2001
設置科目数			0.5	
(内半期科目数)			0.5	
設置コマ数			0.5	
(内半期コマ数)			0.5	
形態	講義型		0	
	参加型		0	
	講義と実習		0	
	オムニバス		1	
担当者数	専任（有期含む）		3	
	専任内訳		日吉 3 (法 3)	
	非常勤（客員を含む）		0	
総履修者数			32	

	分野		サブタイトルなど
2002 年	物理・化学・生物	(1)	対象と非対称（半期）

＊ 2 年に 1 回行われている

科目名：人の尊厳

年度		2003	2002	2001
設置科目数		0.5	0.5	0.5
(内半期科目数)		0.5	0.5	0.5
設置コマ数		0.5	0.5	0.5
(内半期コマ数)		0.5	0.5	0.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	0	0	0
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	1	1	1
担当者数	専任（有期含む）	4	4	4
	専任内訳	三田 2 (文 2)	三田 2 (文 2)	三田 2 (文 2)
		信濃町 1	信濃町 1	信濃町 1
		藤沢(環情)1	藤沢(環情)1	藤沢(環情)1
	非常勤（客員を含む）	8 (文 8)	2 (文 2)	8 (文 8)
総履修者数		71	38.5	37

	時代		サブタイトルなど
2003 年	現代	(1)	社会と人権（半期）
2002 年	現代	(1)	社会と人権（半期）
2001 年	現代	(1)	社会と人権（半期）

科目名：体育理論

年度		2003	2002	2001
設置科目数		5	5	5
(内半期科目数)		5	5	5
設置コマ数		5	5	5.5
(内半期コマ数)		5	5	5.5
形態	講義型	5	5	6
	参加型	0	0	0
	講義と実習	3	3	3
	オムニバス	2	2	1
担当者数	専任（有期含む）	13	12	12
	専任内訳	日吉 13 (体研 12、スポ研 1)	日吉 12 (体研 11、スポ研 1)	日吉 12 (体研 11、スポ研 1)
	非常勤（客員を含む）	体研 1	体研 1	体研 1
総履修者数		113	100.5	107.5

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	体育理論	10	スポーツ総論	2	スポーツの効用を多目的にみる（スポーツ総論）（半期）
					スポーツの技と文化を探る（半期）
			スポーツ医科学	3	からだの動きをはかる（バイオメカニクス）（半期）
					スポーツと身体（からだ）の基礎理論（半期）
					アスリートのためのスポーツ医・科学（半期）
			スポーツ心理学	2	スポーツ心理学における俗説と真理（半期）
					競技スポーツにおけるメンタルマネジメント（半期）
			スポーツ社会学	1	スポーツと国家・スポーツ事故と法（半期）
			運動処方	1	ライフセービング(救急法の基礎）（半期）
			アウトドア	1	アウトドアを考える（半期）
2002 年	体育理論	10	スポーツ総論	2	スポーツの効用を多目的にみる（スポーツ総論）（半期）
					スポーツの技と文化を探る（半期）
			スポーツ医科学	3	からだの動きをはかる（バイオメカニクス）（半期）
					スポーツと身体（からだ）の基礎理論（半期）
					アスリートのためのスポーツ医・科学（半期）
			スポーツ心理学	2	スポーツ心理学における俗説と真理（半期）
					競技スポーツにおけるメンタルマネジメント（半期）
			スポーツ社会学	1	スポーツと国家・スポーツ事故と法（半期）
			運動処方	1	ライフセービング(救急法の基礎）（半期）
			アウトドア	1	アウトドアを考える（半期）
2001 年	体育理論	10	スポーツ総論	1	スポーツの効用を多目的にみる（スポーツ総論）（半期）
			スポーツ医科学	5	健康・体力へのアプローチ（半期）
					からだの動きをはかる（バイオメカニクス）（半期）
					スポーツと身体（からだ）の基礎理論（半期）
					スポーツ上達の基礎知識（半期）
					アスリートのためのスポーツ医・科学（半期）
			スポーツ心理学	1	スポーツ心理学における俗説と真理（半期）
			スポーツ社会学	1	スポーツと国家・法（半期）
			運動処方	1	ライフセービング(救急法の基礎）（半期）
			アウトドア	1	アウトドアを考える（半期）

＊ 2001 年「スポーツ心理学における俗説と真理」は春・秋ともに開講

科目名：体育実技Ⅰ

年度		2003	2002	2001
設置科目数		15.5	15	15
(内半期科目数)		15.5	15	15
設置コマ数		137	143.5	147
(内半期コマ数)		137	143.5	147
形態	講義型	0	0	0
	参加型	137	143.5	147
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	21	21	20
	専任内訳	日吉（体研）21	日吉（体研）21	日吉（体研）20
	非常勤（客員を含む）	体研 16	体研 30	体研 28
総履修者数		3251.5	3360.5	3601

	分類	設置コマ数	種目名	設置コマ数	種目名
2003 年	球技	1	アメリカンタッチフットボール	12	サッカー
		2	ソフトテニス	6	ソフトボール
		5	卓球	14	テニス
		15	バスケットボール	9	バドミントン
		11	バレーボール	2	ハンドボール
		0.5	ホッケー	3	フットサル
		2	野球		
	武道	1	合気道	7	剣道
		3	柔道		
	個人種目	0.5	アウトドアレクリエーション	1	アーチェリー
		2	ウォーキング・エクササイズ	9	エアロビクス
		4	ゴルフ	1	ジョギング
		5	水泳	10	体力アップコース
		3	ダンス	1	トランポリン
		3	ニュースポーツ	1	フェンシング
		1	フライングディスク	1	ボクシング
		1	陸上競技		
2002 年	球技	1	アメリカンタッチフットボール	12	サッカー
		3	ソフトテニス	6	ソフトボール
		5	卓球	14	テニス
		15	バスケットボール	9	バドミントン
		12	バレーボール	2	ハンドボール
		0.5	ホッケー	3	フットサル
		2	野球		
	武道	1	合気道	7	剣道
		3	柔道		
	個人種目	1	アーチェリー	2	ウォーキング・エクササイズ
		9	エアロビクス	8	ゴルフ
		1	ジョギング	5	水泳
		10	体力アップコース	3	ダンス
		1	トランポリン	3	ニュースポーツ

2001 年		2	フェンシング	1	フライングディスク
		1	ボクシング	1	陸上競技
	球技	1	アメリカンタッチフットボール	12	サッカー
		3	ソフトテニス	8	ソフトボール
		5	卓球	14	テニス
		15	バスケットボール	9	バドミントン
		13	バレーボール	2	ハンドボール
		1	ホッケー	2	フットサル
		2	野球		
	武道	1	合気道	8	剣道
		3	柔道		
	個人種目	1	アーチェリー	1	ウォーキング・エクササイズ
		9	エアロビクス	7	ゴルフ
		2	ジョギング	4.5	水泳
		9.5	体力アップコース	4	ダンス
		1	トランポリン	3	ニュースポーツ
		2	フェンシング	1	フライングディスク
		1	ボクシング	2	陸上競技

＊体育実技Ⅰは全て半期科目
 ＊種目名の左の数字は，他の科目と異なり設置コマ数とした
 ＊設置科目数は，レベル分け指定があっても同一科目として計算
 ＊上記以外にも三田設置授業がある

科目名：体育実技Ⅱ（シーズンスポーツ）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		11.5	12.5	16.5
(内半期科目数)		11.5	12.5	16.5
設置コマ数		11.5	12.5	16.5
(内半期コマ数)		11.5	12.5	16.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型(内合宿 7を含む)	23	25	33
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	2	2	2
	専任内訳	日吉（体研 2）	日吉（体研 2）	日吉（体研 2）
	非常勤（客員を含む）	体研 21	体研 23	体研 31
総履修者数		271.5	383.5	440.5

	分類	設置コマ数	種目名	設置コマ数	種目名
2003 年	球技	0.5	ソフトテニス	0.5	卓球
		0.5	テニス(合宿)	0.5	軟式野球
		0.5	バドミントン	0.5	バレーボール
	武道	0.5	合気道	0.5	空手
		0.5	弓術	0.5	少林寺拳法
	個人種目	0.5	アウトドアレクリエーション(合宿)	0.5	器械体操
		0.5	ゴルフ	0.5	山岳(合宿)
		0.5	自動車	0.5	馬術(合宿)
		0.5	ボクシング	0.5	レスリング
	水辺種目	0.5	水泳	0.5	端艇
		0.5	ヨット(合宿)		
	冬季種目	0.5	スキー(合宿)		
2002 年	球技	0.5	ソフトテニス	0.5	卓球
		0.5	テニス(合宿)	0.5	軟式野球
		0.5	バスケットボール	0.5	バドミントン
		0.5	バレーボール		
	武道	0.5	合気道	0.5	空手
		0.5	弓術	0.5	少林寺拳法
	個人種目	0.5	アウトドアレクリエーション(合宿)	0.5	新体操
		0.5	器械体操	0.5	ゴルフ
		0.5	山岳(合宿)	0.5	自動車
		0.5	馬術(合宿)	0.5	ボクシング
		0.5	レスリング		
	水辺種目	0.5	水泳	0.5	端艇
		0.5	ヨット(合宿)		
	冬季種目	0.5	スキー(合宿)		0.5 スケート(合宿)
2001 年	球技	0.5	アメリカンタッチフットボール	0.5	サッカー
		0.5	ソフトテニス	0.5	卓球
		0.5	テニス(合宿)	0.5	軟式野球
		0.5	バスケットボール	0.5	バドミントン
		0.5	バレーボール	0.5	ハンドボール

		0.5	ラグビー	0.5	ホッケー
	武道	0.5	合気道	0.5	空手
		0.5	弓術	0.5	剣道
		0.5	柔道	0.5	少林寺拳法
	個人種目	0.5	アウトドアレクリエーション(合宿)	0.5	ウェイトリフティング
		0.5	新体操	0.5	器械体操
		0.5	ゴルフ	0.5	山岳(合宿)
		0.5	自動車	0.5	馬術(合宿)
		0.5	ボクシング	0.5	レスリング
	水辺種目	0.5	水泳	0.5	端艇
		0.5	ヨット(合宿)		
	冬季種目	0.5	スキー(合宿)	0.5	スケート(合宿)

- *体育実技Ⅱは7日間の集中授業(通い)、もしくは3泊4日の合宿
- *種目名の左の数字は、他の科目と異なり設置コマ数とした
- *各種目とも担当指導員(責任者)以外に、履修者数に応じて補助員(+ α=教員、OB、学生)がつく

科目名：総合教育セミナー（文学部）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		3.5		
（内半期科目数）		3.5		
設置コマ数		3.5		
（内半期コマ数）		3.5		
形態	講義型	0		
	参加型	7		
	講義と実習	0		
	オムニバス	0		
担当者数	専任（有期含む）	7		
	専任内訳	日吉（文）7		
	非常勤（客員を含む）	0		
総履修者数		42		

	領域		分野		サブタイトルなど
2003 年	自然科学	(4)	科学史	(1)	科学の発展を振り返って（半期）
			人類学	(2)	動物園・水族館で進化を学ぶ（半期）
					骨に聞く・骨を読む（半期）
			生物学	(1)	細胞行動・高次生命現象・そして人間社会（半期）
	人文科学	(2)	英米文学	(2)	Great Books（半期）
					トールキンと現代（半期）
		(1)	イタリア	(1)	イタリアの文化（半期）

科目名：自由研究セミナー（経済学部）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		38	35	39.5
(内半期科目数)		1	1	1.5
設置コマ数		38	35	39.5
(内半期コマ数)		1	1	1.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	39	36	41
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	39	36	41
	専任内訳	三田（経）19	三田（経）19	三田（経）18
		日吉（経）20	日吉（経）17	日吉（経）23
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		401.5	377.5	357.5

	担当教員，領域		サブタイトルなど
2003 年	日吉，人文	16	音楽―作曲の基礎としての対位法
			歴史記述とは何か―ヘイデン・ホワイ特『メタヒストリー』を読む
			メディア・音響・映像としての都市
			音と響き―歴史的音声環境の再現
			「大学」って何だ？―「私」にとっての高等教育の意味を考える―
			20 世紀ドイツの社会と文化
			ことばの研究
			ドイツ事情研究 活字メディアを通して考える現在のドイツ
			地域振興策を考える
			カウンセリングと精神療法を学ぶ
			中国を知ろう その歴史、政治、経済、文化、生活に触れる
			文化/社会/歴史/文学、その発想と感覚
			写真への接近
			地域の視点からスペインを考える―アイデンティティの重層性―
			日本人とヨーロッパ人の空間意識 ―壁と襖の世界の差違―
			地球環境変動と人間活動
	日吉，自然	4	自然・環境保護の思想を読む
			ナチュラリスト入門
			生殖の政治学
			カエル学入門
	三田	19	現代日本の医療、介護、保育サービス
			「社会主義」の課題と展望
			世界の中の日本経済
			開発経済学入門
			歴史研究のための数量分析
			自由主義と民主主義の源流
			経済分析の理論的方法
			国際経済の計量分析
			現代経済をどうみるか
			経済問題・経済理論への理解を深める

	担当教員，領域		サブタイトルなど
			経済や社会で起きている問題が何かを深く考えること、人間と社会とは何かを考えること
			歴史における「家族」
			わが国・世界の経済問題をさぐる
			戦後日本社会を考える——自由・飢餓・相互扶助の1940～50年代
			社会保障の国際比較
			日本とアジアの人口、家族、経済
			都市空間をテーマとするデジタルコンテンツの企画と制作
			文明化論を考える（半期）
			文明とは何か——世界と日本の中での文明の問題——（半期）
2002 年	日吉，人文	14	文化経済学、芸術振興と生涯学習
			ニクラス・ルーマンのシステム理論
			メディア・音響・映像としての都市
			明治期の日本とドイツのかかわり
			バリアフリー社会を目指して
			地域振興策を考える
			カウンセリングと精神療法を学ぶ
			文化/社会/歴史/文学、その発想と感覚
			「ユダヤ人問題」を考える
			『戦争論』を読む
			中国中世の宴席と歌辞
			マルクスを読んで西欧史を復習しよう
			町並みの美学——西と東の文化の差異——
			地球環境変動と人間活動
	日吉，自然	3	日吉キャンパスで大地と自然の賑わいを体験する
			自然・環境保護の思想を読む
			中絶から考える自己決定権
	三田	19	社会保障の国際比較研究
			経済学の課題と展望
			世界の中の日本経済
			開発経済学入門
			明治前期地方経済と松方デフレ
			アダム・スミス『国富論』を読む
			ミクロ経済学
			国際経済の計量分析
			現代の経済をどうみるか
			経済問題・経済理論への理解を深める
			日本とアジアの人口、家族、経済
			経済や社会で起きている問題が何かを深く考えること、人間と社会とは何かを考えること
			資産運用とリスク管理
			株式投資の理論と実際
			ヨーロッパ比較家族史研究
			わが国・世界の経済問題をさぐる
			現代の市場経済と中小企業
			経済学と歴史認識（半期）
			社会主義とはどんな思想なのか（半期）
2001 年	日吉，人文	20	メディア・音響・映像としての都市
			明治期の日本とドイツのかかわり
			コンピューター支援外国語学習研究
			地域振興策を考える
			精神分析の症例を読む
			バリアフリー社会を目指して

		文化/社会/歴史/文学、その発想と感覚
		ヨーロッパ・ユダヤ人問題を考える
		ハイデガーを読む
		他者との出会いを考える
		『フィガロの結婚』『タルチェフ』『オセロ』を読む
		『共産党宣言』をドイツ語原典で読みつつ中級ドイツ語文法を会得する
		日本語を再発見する
		中国の歴史、文化、生活などを調べる
		二十世紀前衛芸術とシュルレアリスム
		都市と建築——「内」と「外」の空間意識について
		日本の公立芸術ホール研究
		地球環境変動と人間活動
		テキストは「心理戦」で絶対に負けない本
		書く行為の歴史
日吉，自然	3	地域自然論－ナチュラリスト入門
		自然・環境保護の思想を読む
		21 世紀の女と男
三田	18	転換期の歴史を理解するために
		世界の中の日本経済
		開発経済学入門
		数量経済史入門——歴史研究と数量的分析
		ミクロ経済学
		現代の経済をどうみるか
		経済問題・経済理論への理解を深める
		日本の経済思想史・経済史を読む
		経済地理実習
		経済や社会で起きている問題が何かを深く考えること、人間と社会とは何かを考えること
		わが国・世界の経済問題をさぐる
		ファイナンス理論の実証分析
		現代中国の経済と社会
		家族経済と市場経済——比較史の中で——
		応用ミクロ経済学
		「グローバリズム」批判の彼方へ（半期）
		アダム・スミス著『国富論』を読む（半期）
		福沢諭吉『学問のすすめ』を通して「日本と世界」を問うこと（半期）

科目名：人文科学特論，自然科学研究会（法学部）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		12	12.5	14
(内半期科目数)		12	12.5	14
設置コマ数		12	12.5	14
(内半期コマ数)		12	12.5	14
形態	講義型	0	0	0
	参加型	12	12.5	14
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	14	14	13
	専任内訳	日吉（法）14	日吉（法）14	日吉（法）13
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		183	317.5	279

	科目名		分野		サブタイトルなど
2003 年	人文科学特論Ⅰ・Ⅱ	(10)	音楽	(1)	音楽：作品－演奏－演奏家
			芸術	(1)	身体という芸術（半期）
			劇（イギリス）	(2)	現代イギリス芝居の演技
					Shakespeare in Performance:Much Ado About Nothing
			文学	(3)	マニエリスム・バロック入門
					裏「文学史」
					『星の王子さま』を4か国語で鑑賞する試み
			歴史	(1)	近代日本対外関係史研究（半期）
			言語学	(2)	認知科学への招待
					現代日本語の文法と意味
	自然科学研究会Ⅰ・Ⅱ	(4)	化学	(2)	化学の言葉で自然の不思議をひも解く（半期）
					自然科学で考える（半期）
			生物	(1)	ヒトと生物環境との共存を考える
2002 年	人文科学特論Ⅰ・Ⅱ	(11)	音楽	(1)	オペラをととしてのヨーロッパ文化入門
			文化	(2)	映画と小説を通してみる20世紀英国の文化・階級・民族（半期）
					英国文化史のスーパーマンたちとモンスターたち（半期）
			劇（イギリス）	(1)	Shakespeare in Performance:Twelfth Night
			文学	(2)	マニエリスム・バロック入門
					「星の王子さま」を4か国語で鑑賞する試み
			翻訳	(1)	日本語から英語への翻訳
			言語学	(2)	認知科学への招待
					現代日本語の文法と意味
			映画	(1)	映画を見る
			その他	(1)	幕末～明治時代の日本対外関係史（半期）
	自然科学研究会Ⅰ・Ⅱ	(4)	化学	(2)	化学の言葉で自然の不思議をひも解く（半期）
					自然科学で考える（半期）
			生物	(1)	ヒトと生物環境との共存を考える
			物理	(1)	環境とエネルギー

2001 年	人文科学特論Ⅰ・Ⅱ	(11)	音楽	(2)	オペラをととしてのヨーロッパ文化入門
					十九世紀の舞台芸術
			文化	(2)	「変な」イギリス文化をまじめに考える
					怪物の文化史
			劇（イギリス）	(2)	British Drama
					Shakespeare in Performance: A Midsummer Night's Dream
			文学	(2)	マニエリスム・バロック入門
					近代文学にみる「人間」の諸相
			翻訳	(1)	日本語から英語への翻訳
			言語学	(2)	認知科学への招待
					現代日本語の文法と意味
	自然科学研究会Ⅰ・Ⅱ	(4)	化学	(2)	化学の言葉で自然の不思議をひも解く（半期）
					生命現象と化学（半期）
			生物	(1)	ヒトと生物環境との共存を考える
			物理	(1)	環境とエネルギー

科目名：総合教育セミナー（商学部）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		26	25	21
（内半期科目数）		0	0	0
設置コマ数		26	25	21
（内半期コマ数）		0	0	0
形態	講義型	0	0	0
	参加型	26	25	21
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	26	25	21
	専任内訳	三田（商）1 日吉（商）25	三田（商）1 日吉（商）24	三田（商）1 日吉（商）20
	非常勤（客員を含む）	0	0	0
総履修者数		295	388	214

	類		分野	地域	サブタイトルなど
2003 年	Ⅰ類（自然科学）	(10)	物理	特になし	宇宙の謎を探ってみよう
			心理	特になし	遺伝
			数学	特になし	ゲーム理論入門
			プログラミング	特になし	Web コミュニケーション
			生物	特になし	環境問題を考える
			生物	特になし	生命科学技術を考える
			数学	特になし	素数の世界
			生物	特になし	バイオテクノロジー・バイオビジネスを探る
			物理	特になし	最先端の技術
			数学	特になし	数学と文化と社会
	Ⅱ類(人文・社会科学)	(14)	教養	西洋	西洋の教養書に触れる
			文学	特になし	「文学」を読む
			思想	日本	学問と知識人
			文学	中国	中国の現代小説を読む
			地域研究	ドイツ	「ドイツ」をいかにして日本に売り込むか？ ードイツおたくになるための入門セミナー
			地域研究	フランス	パリの肖像
			地域研究	中国	現代中国入門
			グローバルゼーション	特になし	Seminar in Leadership, Strategy, and Change in Global organization
			倫理	特になし	ビジネスと倫理
			地域研究	イギリス	イギリス研究
	Ⅲ類(学際的・総合的科目)	(2)	芸術	特になし	ドキュメンタリーと非ハリウッド的な映画の可能性
			経済	特になし	消費社会の成立と展開
			地域研究	ラテンアメリカ	ラテンアメリカを考える
			文明	特になし	現代世界の文明
			スタディスキル	日本	日本文化と日本語についてⅡ
			思想	日本	江戸儒学の精粹

2002 年	I 類（自然科学）	(9)	物理	特になし	宇宙の謎を探ってみよう
			心理	特になし	現代社会の諸問題と心理学
			文章作法	特になし	論理的な国語を目指して
			プログラミング	特になし	JavaScript による Web プログラミング入門
			数学	特になし	ファジィ理論入門
			生物	特になし	生命科学技術を考える
			生物	特になし	バイオテクノロジー・バイオビジネスを探る
			物理	特になし	最先端の技術
			数学	西洋	ゲームの理論と経済学
	II 類（人文・社会科学）	(14)	教養	特になし	西洋の教養書に触れる
			文学	特になし	「文学」を読む
			歴史	西洋	西洋学の受容
			芸術	特になし	文化経済学、芸術振興と生涯学習
			地域研究	スペイン・ラテンアメリカ	イベリアとイペロアメリカの歴史と文化
			地域研究	中国	現代中国入門
			グローバルゼーション	特になし	Beyond Borders: Seminar in Leadership and Change in Grobal Organizations
			倫理	特になし	ビジネスと倫理
			地域研究	アメリカ	アメリカ合衆国の光と影ーアメリカの夢と黒人問題
			地域研究	イギリス	イギリス入門
			芸術	特になし	ドキュメンタリー映画の可能性
			文明	特になし	文明を考える
			地域研究	ラテンアメリカ	ラテンアメリカを考える
			経済	特になし	現代ビジネス
	III 類(学際的・総合的科目)	(2)	スタディスキル	日本	日本文化と日本語について（留学生セミナー）
			思想	日本	江戸儒学の智
2001 年	I 類（自然科学）	(8)	物理	特になし	時間の歴史を探る
			数学	特になし	Mathematica による数学
			プログラミング	特になし	JavaScript による Web プログラミング入門
			数学	特になし	ファジィ理論入門
			生物	特になし	環境問題を考える
			生物	特になし	バイオテクノロジー・バイオビジネスを探る
			物理	特になし	最先端の技術
			数学	特になし	経済学への数学の応用
	II 類（人文・社会科学）	(12)	教養	西洋	西洋の教養書に触れる
			文学	特になし	「文学とは何か」について
			歴史	特になし	歴史の方法
			文学	中国	中国現代文学ー作家と二十世紀
			芸術	日本	日本の公立芸術ホール研究
			地域研究	フランス	パリの肖像
			地域研究	スペイン	スペインの歴史と文化
			倫理	特になし	ビジネスと倫理
			地域研究	イギリス	イギリス研究
			経済	特になし	消費社会の成立と展開
			グローバルゼーション	特になし	「グローバルゼーション」を考える
			地域研究	ラテンアメリカ	ラテンアメリカを考える
	III 類(学際的・総合的科目)	(1)	思想	日本	江戸儒学の知恵（留学生セミナー）

科目名：総合教育セミナー（理工学部）

年度		2003	2002	2001
設置科目数		8.5	10.5	10.5
（内半期科目数）		8.5	10.5	10.5
設置コマ数		8.5	10.5	10.5
（内半期コマ数）		8.5	10.5	10.5
形態	講義型	0	0	0
	参加型	8.5	10.5	10.5
	講義と実習	0	0	0
	オムニバス	0	0	0
担当者数	専任（有期含む）	11	13	15
	専任内訳	矢上 4	矢上 6	矢上 7
		日吉 7	日吉 7	日吉 8
	非常勤（客員を含む）	理工 3	理工 5	理工 3
総履修者数		133	109.5	139

テーマ	地域	時代	サブタイトルなど
2003 年	特になし	現代	レゴでロボットを作ろう！（半期）
	特になし	特になし	自分を読むための一つのヒント（精神分析的アプローチ）（半期）
	特になし	特になし	講義ノートを作る（半期）
	特になし	現代	アートを通して現代文化を考える（半期）
	特になし	現代	アトムのある日（半期）
	特になし	現代	エコロジカルに学ぶ。生きる。（半期）
	特になし	特になし	美術作品について論述する（半期）
	特になし	特になし	生命について考える（半期）
	特になし	現代	いま〈生命〉はどこに？（半期）
	特になし	特になし	コミュニケーションが変える時間・空間と世界（半期）
	特になし	現代	世界の理工学部比較（半期）
	日本	近・現代	日本文化の生成－異文化の受容とその展開（半期）
	特になし	現代	化学でのぞく神秘の世界（半期）
	特になし	特になし	Great Experiments in Biology（半期）
	特になし	現代	究極の「電子」英語辞書をデザインしよう！（半期）
2002 年	特になし	現代	レゴでロボットを作ろう！（半期）
	特になし	現代	世界の中の「日本(人)」の位置（半期）
	アジア	特になし	アジア社会文化入門（半期）
	特になし	現代	現代芸術と社会（半期）
	特になし	特になし	ユング心理学を読む（半期）
	特になし	現代	エコロジカルに学ぶ。生きる。（半期）
	特になし	特になし	美術作品について論述する（半期）
	特になし	現代	「現代」「美術」って何だろう？（半期）
	特になし	現代	いま〈生命〉はどこに？（半期）
	特になし	特になし	科学史入門（半期）
	特になし	特になし	コミュニケーションが変える時間・空間と世界（半期）
	特になし	現代	女性学（半期）
	特になし	現代	世界の理工学部比較（半期）
	日本	近・現代	日本文化の生成－異文化の受容とその展開（半期）
	ドイツ	近代	ゲーテの『ファウスト』を読む（半期）

	特になし	現代	ロボットに何をさせるか？（半期）
	特になし	特になし	数学研究法（半期）
	特になし	現代	化学でのそく神秘の世界（半期）
	特になし	特になし	Great Experiments in Biology（半期）
	特になし	現代	究極の「電子」英語辞書をデザインしよう！（半期）
2001 年	特になし	現代	レゴでロボットを作ろう！（半期）
	特になし	現代	世界の中の「日本(人)」の位置（半期）
	アジア	特になし	アジア社会文化入門（半期）
	特になし	現代	現代芸術と社会（半期）
	特になし	特になし	ユング心理学を読む（半期）
	特になし	現代	モノづくり、先端技術の未来を考える（半期）
	特になし	特になし	美術作品について考える（半期）
	特になし	現代	エンジニアリングの息吹を感じてみよう（半期）
	特になし	現代	いま〈生命〉はどこに？（半期）
	特になし	特になし	科学史入門（半期）
	特になし	特になし	コミュニケーションが変える時間 - 空間と世界（半期）
	特になし	現代	女性学（半期）
	特になし	現代	世界の理工学部比較（半期）
	日本	近・現代	日本文化の生成－異文化の受容とその展開（半期）
	ドイツ	近代	ゲーテの『ファウスト』を読む（半期）
	特になし	現代	「環境」を考える（半期）
	特になし	特になし	数学研究法（半期）
	特になし	現代	化学でのそく神秘の世界（半期）
	特になし	特になし	Great Experiments in Biology（半期）
	ヨーロッパ	近・現代	カフェ（半期）

活動記録

.....

第一回研究会

日時 2003 年 11 月 21 日(土)13 時～16 時

場所 日吉来往舎 1 F 応接会議室

- 議事 ①所長挨拶
②研究会メンバーの紹介
③研究会の趣旨説明
④幹事の選出
⑤カリキュラム・チェック, グループ分け

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①日吉設置共通科目別フィッシュのフォーマットについて
②少人数セミナー形式授業科目の学部別フィッシュ作成について
③科目別レクチャー
「芸術系科目」 報告者 熊倉敬聡氏
「女性学」 報告者 長沖暁子氏
④討議－教養教育の理念

第二回研究会

日時 2003 年 12 月 13 日(土)10 時～17 時

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①研究会の趣旨に関する補足説明
②日吉・三田設置共通授業科目調査の進め方
③教員アンケート
④他大学調査について
⑤教養教育の問題点に関する討議

第五回研究会

日時 2004 年 3 月 24 日(水)10 時 30 分～17 時

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①科目別レクチャー
「物理学」 報告者 表 実氏
「地理学」 報告者 高木勇夫氏
②少人数セミナー形式授業の学部別成立事情について

第三回研究会

日時 2004 年 1 月 28 日(水)10 時 30 分～16 時 30 分

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①共通授業科目調査(データ・シートへの記入状況, データの結合などについて)
②各分野, 各科目ごとの現状分析(フィッシュ・フォーマットの作成, 記入担当者の割り当てなど)
③ゲスト・スピーカーの招聘について
④広報活動について
⑤討議課題の設定(授業形態, 少人数セミナー形式の授業)

第六回研究会

日時 2004 年 4 月 23 日(金)10 時 30 分～16 時 30 分

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①科目別フィッシュの作成状況とその仕上げについて
②少人数セミナー形式授業科目のフィッシュ
③シンポジウムの企画について
④討議－教養教育の理念(その 2)

第七回研究会

日時 2004 年 5 月 29 日(土)10 時 30 分～16 時 30 分

場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102

- 議事 ①科目別フィッシュの使用法と注意点

第四回研究会

日時 2004 年 3 月 10 日(水)10 時 30 分～16 時 30 分

- ②少人数セミナー形式授業の研究について
- ③科目別レクチャー
「歴史」 報告者 神崎忠昭氏
- ④討議－「教養教育」カリキュラムの新たな理念とその手法

第八回研究会

- 日時 2004 年 6 月 26 日(土)10 時 30 分～16 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①「自由研究ゼミナール」(経済学部境一三氏担当)の学生によるプレゼンテーション「大学とは何か」
- ②科目別レクチャー
「哲学」「倫理学」「論理学」
報告者 納富信留氏
「言語学」 報告者 辻 幸夫氏
- ③少人数セミナー形式授業科目の研究
- ④調整費「新しい教養教育の支援」事業について
- ⑤討議－科目・分野ごとのカリキュラム調整組織の構築について

第九回研究会

- 日時 2004 年 7 月 20 日(火)10 時 30 分～16 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①科目別レクチャー
「政治学」 報告者 萩原能久氏
「音楽」 報告者 佐藤 望氏
- ②フィッシュワークグループ(幹事会)からの提言(各フィッシュについてのコメント項目, 報告書作成に向けて)
- ③シンポジウム「少人数セミナー形式授業をめぐって」の開催について

研究会夏期合宿(幹事会)

- 日時 2004 年 9 月 6 日～7 日
- 場所 新横浜プリンスホテル 4 F 会議室
- 作業 ①共通科目各フィッシュへのコメントの作成
- ②総合教育科目を九つの「系」に分類する
- ③報告書作成までのスケジュールについて

第十回研究会

- 日時 2004 年 9 月 16 日(水)10 時 30 分～16 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①「少人数セミナー形式授業」めぐるシンポジウム開催日程
- ②学部共通総合教育科目の集計とコメント案について
- ③報告書および提言の起草について

第十一回研究会

- 日時 2004 年 10 月 30 日(土)10 時 30 分～16 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①科目別レクチャー
「心理学」 報告者 増田直衛氏
- ②報告書の起草について
- ③少人数セミナー形式授業科目調査の集計と総括

シンポジウム

- 「少人数セミナー形式授業の理念・目的とその手法」
- 日時 2004 年 12 月 8 日(水)16 時 30 分～19 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F シンポジウムスペース

第十二回研究会

- 日時 2004 年 12 月 11 日(土)10 時 30 分～16 時 30 分
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①横山千晶教養研究センター新所長就任挨拶
- ②シンポジウム「少人数セミナー形式授業の理念・目的とその手法」(12 月 8 日開催)に関する報告
- ③研究会報告書の起草－目次および執筆分担について

第十三回研究会

- 日時 2005 年 2 月 22 日(火)13 時～16 時
- 場所 日吉来往舎 1 F 共同研究室 101-102
- 議事 ①研究会報告書案の検討

以上のほか, 適宜幹事会を開催した。

研究会メンバー

.....

(第1期 2003.11 ~ 2005.3)

羽田 功 (経済学部, 前教養研究センター所長)
横山千晶 (法学部, 教養研究センター所長)
下村 裕 (法学部, 前教養研究センター副所長)
近藤明彦 (体育研究所, 教養研究センター副所長)
田上竜也 (商学部, 教養研究センター副所長)
岩波敦子 (理工学部, 教養研究センター副所長)

納富信留 (文学部, 幹事)
木俣 章 (法学部, 幹事)
小林宏充 (法学部, 幹事)
木島伸彦 (商学部, 幹事)
佐藤 望 (商学部, 幹事)
熊倉敬聡 (理工学部, 前教養研究センター副所長, 幹事)
加藤大仁 (体育研究所, 幹事)

斎藤太郎 (文学部)
辺見葉子 (文学部)
友部謙一 (経済学部)
長沖暁子 (経済学部)
八嶋由香利 (経済学部)
奥田暁代 (法学部)
辻 幸夫 (法学部)
萩原能久 (法学部)
種村和史 (商学部)
小菅隼人 (理工学部)
辻岡三南子 (保健管理センター)
勝川史憲 (スポーツ医学研究所)

オブザーバー
小磯勝人 (慶應義塾大学出版会)

慶應義塾大学教養研究センター基盤研究報告書
日吉設置学部共通総合教育科目の現状と問題点

2005 年 3 月 31 日発行
編集・発行 慶應義塾大学教養研究センター
代表者 横山千晶

〒 223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1
TEL 045-563-1111 (代表)
Email lib-arts@hc.cc.keio.ac.jp
<http://www.hc.keio.ac.jp/lib-arts/>

©2005 Keio Research Center for the Liberal Arts
著作権者の許可なしに複製・転載を禁じます。